

6560 15

# 緑丘

1968 No. 62  
43年度 第2号



小樽郊外  
尾形圭介

外人講師特集号(IV)

小樽商大  
同窓会誌



## サッポロビールは 最初のうまさが続く

サッポロビールが90年の歴史のうちに育て上げた名酵母M<sub>2</sub>。それが純粋なうまさをつくります。いやなニガ味やくどさがありません。だから何杯飲んでもうまさが続く。一度ぜひほかのビールと飲み比べて下さい。

味は本場の————ミュンヘン・サッポロ・ミルウォーキー



# 緑丘

全国版

(通巻)No. 62号  
(43年度 2号)  
〔緑丘〕編集部  
兵庫県西宮市清水町1の16  
藝目英三内  
(緑丘会大阪支部)  
大阪市北区梅田八番地  
新阪急ビル8階  
サッポロビル(隣)

## 読者の声

### 外人講師特集号に寄せて

稲垣 芳雄 (大六)

大谷敏治兄の長文の回想記特に面白く、私たちの習った外人講師二、三氏をおかげでなつかしく思い出しました。すっかり記憶がもうろうとなっていたのを呼びさまされた形です。

### よりのみ「緑丘」への提案

S・E 生 (昭八)

「緑丘」編集について非常な努力を傾注され、この偉業は完全に実ったものと存じます。しかしこれ以上の壁を打破するには個人としての限界があるのではなからうか。という事

は同窓の諸兄にはまだまだ沢山の批判グループがあるのではなからうか……という事です。  
(さればと云ってその衝に当ろうとする者は皆無かもしれないが)従ってこの批判グループを如何にして「緑丘誌」に目を向けさせてゆくかということだ。  
同窓誌である要件の第一は大多数或は全同窓に如何に親しまれるかという事です。

全卒業生(同窓生)の中の何十分の一に過ぎない一人、二人の如何にも誇らしげな報道のみに急では、多くの同窓の共感を呼ぶには、少し欠けるところがあるのではなからうかと思ひます。  
よく「社会開発」という言葉を聞きますが「同窓生の開発」に目を向けなければ、それが達せられないのではないでしようか。

もう一つの要件として場所(編集地)であります。もっとも一般同窓生に浸透せしめるには「小樽」か「東京」にその本拠を移すときが来たのではなからうかと思ひます。  
私は常に「緑丘舎」(仮称)という「同窓生交歓の館」を造らうではないかという考えを持ちつついて

# KYC フラント

- 一営業品目一
- |           |            |           |
|-----------|------------|-----------|
| 砕石プラント    | アスファルトプラント | パッチャースケール |
| 砂利撰別プラント  | クラッシャー     | ベルトコンベアー  |
| パッチャープラント | コンクリートミキサー |           |

## KYC光洋 機械工業株式会社

代表取締役社長 奥村正美(昭17卒業)

本社 大阪市北区南同心町1丁目31番地 電話大阪(358)3521(大代表)

- |      |                    |        |                   |
|------|--------------------|--------|-------------------|
| 大阪支店 | 電話大阪(358)3521(大代表) | 仙台支店   | 電話仙台(25)4441~3    |
| 東京支店 | 電話東京(254)5601~5    | 名古屋営業所 | 電話名古屋(221)7037~8  |
| 広島支店 | 電話広島(61)5101~3     | 高松営業所  | 電話高松(61)4391~3    |
| 福岡支店 | 電話福岡(43)6461~4     | 鹿児島営業所 | 電話鹿児島(2)3055・1650 |
| 札幌支店 | 電話札幌(24)9594~6     |        |                   |

## 異動

るものでありますが、こうしたこれらの二つのものが相俟って、常に同窓生の新旧の別なく、交歓可能な状態をつくりあげ、広く同窓生全員の相互扶助の気風を高揚し、緑丘に学んだ同窓の一人でも多くがそれぞれ力量を完全に発揮出来るように、もりたて得る集いをつくる事が最も大切な事ではなからうかと思ひます。しかし、その目的のために「緑丘」並に「緑丘舎」がそれに資するようにはと思ひます。でありま「緑丘」のためにもまた「緑丘全同窓の幸福繁栄のためにも、それが望ましいと思ひます。

## 住所変更

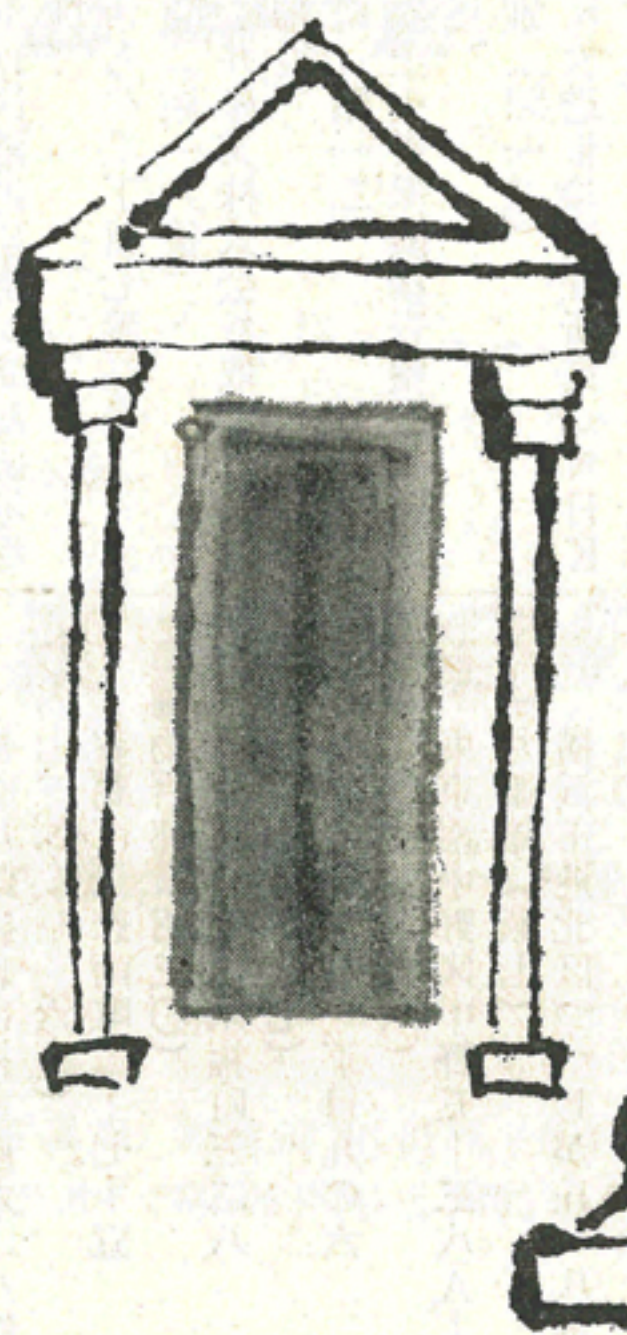
- 野沢正一(昭一一) 日本海地区港運協会(新潟臨港海運送区)  
新瀉市万代三丁目七番三号  
星野 貞(昭一六後) 日商岩井産業株式会社取締役(日商取締役)  
橋井典雄(昭一一) 住友海上火災保険検査室長(経理部次長)  
桜庭幸雄(昭一一) NHK放送世論調査所長(NHK広報室長)  
高原一雄(昭二〇) 北陸銀行小松支店(同行 北見支店)小松市京町九十七  
五十嵐世次(昭二三) 五十嵐建設株式会社(伊藤萬株式会社)  
芳賀厚(昭二八) 北海道銀行検査役(同行行啓通支店次長)  
佐々木栄一(昭二二) 日本銀行京都支店(高知支店)京都市中京区河原町通二条下ル一  
樋口健三(昭一一) 日本海汽船船企画室副室長  
劔物治郎(昭三〇) 高千穂交易株式会社人事部長  
東京都千代田区麴町一丁目七番地  
小林明夫(昭三七) シェル石油物四国出張所(大阪支店近畿地区)  
高松市天神前六番三四号(村瀬ビル)  
大滝正八(昭一三) 神奈川県鎌倉市材木座六一八四六  
内山三郎(昭一六後) 室蘭市母恋南町二一七一五  
劔物治郎(昭三〇) 東京都杉並区永福町三二八  
小林明夫(昭三七) 高松市楠上町一丁目九の六  
泉 安治(昭二八) 東京都中野区中野五―三八A―21  
望月鷹雄(昭七) 横浜市港北区つじが丘一八番一  
二〇  
信野慎一(昭一六後) 小樽市花園二丁目三番―一二号  
高原一雄(昭二〇) 小松市寺町一〇番地  
(54頁に続く)





# 外人講師特集

(IV)



## 緑丘の異人さん達 ③

大谷 敏 治 (六一〇)

### 昭和初頭の外語陣

大正十年十一月、緑丘創立の校長渡辺龍聖先生、新設名古屋高商の校長となり、首席教授伴房次郎先生、あとを嗣ぐ。同時に、教授園松豊、高島佐一郎、小原亀太郎、助教石橋哲爾、西尾広の諸先生、名古屋に移られた。

この年の春三月、第八回生として、緑丘を去った筆者は、昭和二年春、母校によび戻されるまでの五ヶ年、おおかたをサナトリウムで過ごしていたから、母校のこと、また

外人諸先生のこともきかず、まったく世外の人であった。この頃の、母校の様子、外人講師がたの姿は、伊藤整氏のかずかずの著作に、むしろ鮮やかであり、また、緑丘五九号、外人講師特集号の同窓各位の筆に、詳らかである。

ただ、大正十四・五年の頃、筆者が、療養のかたわら北海道東部のある中学校で、兵役にゆかれる同窓のあな埋めとして英語の囑託教師をしていた頃、後に小樽長橋の市立中学に転ぜられた故山内実君や、故広野貞一郎君から、英国人ラウンズ教師

や、ロシア語のスマルニッキ教師のことをきいて、その風手を想像していた。しかし、思いはむしろ、商業学・経済学関係の先生方が多く転出され、また大西猪之介教授をうしない、つづいて武田英一教授の東京商大への転出、手塚、椎名、佐原、高松の諸教授海外留学ということのとあつたのが、加藤録蔵先生、そして糸魚川、大野、南、室谷と、新しい空気をもちこまれた諸先生のうえにあつたといつてよい。そしてまた、外国語関係の藤田栄一(英語)、杉岡勇三(ドイツ語)、高橋益実(フランス語)といった、当時東京外語出身の俊秀の名を、雲上人のように仰いだものであった。

昭和二年四月、筆者は、思いもかけず、地獄坂を登った。「とにかく勉強し給え、当分は、英語の手伝い

や、ロシア語のスマルニッキ教師のことをきいて、その風手を想像していた。しかし、思いはむしろ、商業学・経済学関係の先生方が多く転出され、また大西猪之介教授をうしない、つづいて武田英一教授の東京商大への転出、手塚、椎名、佐原、高松の諸教授海外留学ということのとあつたのが、加藤録蔵先生、そして糸魚川、大野、南、室谷と、新しい空気をもちこまれた諸先生のうえにあつたといつてよい。そしてまた、外国語関係の藤田栄一(英語)、杉岡勇三(ドイツ語)、高橋益実(フランス語)といった、当時東京外語出身の俊秀の名を、雲上人のように仰いだものであった。

昭和二年四月、筆者は、思いもかけず、地獄坂を登った。「とにかく勉強し給え、当分は、英語の手伝い

を」との、校長伴房次郎先生のお言葉。前の年から、本校に第十四臨時教員養成所が併置され、英語専攻の先生の卵が、二年生、一年生と、五十名あまり在籍し、英語教官も、若松清太郎教授が増員されておられたが、本校・臨教あわせて教室へ出られるのは、邦人教官では中村和之雄、小林象三、若松教授の三人、浜林生之助教授は留学中、苦米地英俊教授は、この頃、持病の胃潰瘍が生涯でもっとも悪く、長く休んでおられた。

いまよりも、もっと未熟な筆者が、臆面もなく Kircaldy の Introduction to Economy や Hobhouse の Liberalism を、教室へもちこみ苦さんのコレボンを教室で、英作文につかっていたのは、こうしたいきさつからであり、それだけに学校全体としては、外国人教師の活躍に、大い



元マツキンノン邸 (山村精一君撮影)

にまつところがあつた訳である。

### R・M・キヤメロン先生

旧師マツキンノン先生とは、久瀧を叙し、すぐに驢馬にのせられた。塩谷への遠足である。スマルニッキさんとも仲良くなった。いまはミス・パグレイも、ラウンズさんもなく、ジョーンズさんの代りとして、R・M・キヤメロンさんがおられた。ノッチンガム大学をおえ、さらに、ロンドン大学の School of Economics に学んだと伺ったが、前任ジョーンズ先生とは、ちがった人柄、英国人にしてはなかなか如才のなかつた。大柄の奥さんと、ジョイスという名のお嬢さんがおられ、外国貿易の手續や英文簿記を教えておられた。翌昭和三年浜林教授が帰朝

されてからは、月に一度くらい、お伴をして、そのお宅——洗心橋うえの、マツキンノンさんの円形家屋の隣り——へ伺った。おもしろい午後のお茶の時に、奥さんから、英国人の家庭のホーム・メードのお茶はねとケトルで、お湯をいちどに、いちどだけ沸きたぎらせること、ティーパーツも、カップも、湯煎して温めておくこと、お茶は一人前にツイ(小林先生、こんな表示でごめんなさい)スプーンフル、それにポットの分、もうひと匙を加えることを、教った。いや、このお茶の時間が、英国の家庭の、また職場の、社交の時に、この時に人を訪問するのが礼で、それが午後の訪問、morning call、その時の服が morning coat などと教った。

キヤメロンさんは、昭和六年、横浜高商に転出されるまでおられたが、たしか途中で一度帰国されたかと思う、いや、あるいは、夫人がしばらく帰国されたのであつたかもしれない。一度夫人が風邪をこじらせたかなにかで、お医者をおよばれた時、さすがの奥さんが、立ち合つて閉口された由(もちろん、英語で困られたのでは、さらさらない)。また一度、前の晩なにかの会合で、キヤメロン先生ご帰宅がおそくなつて、その翌明に、筆者が駆りだされたところ、先生の手に、みみず張れの跡など、東西かわらぬ恐妻振りを、知つたものである。それにもうひとつ、赤ちゃんのほかに、その頃もう年頃になつたお嬢さん、いままでの呼び方得心やすく、ジョイス、ジョイスとよんだところ、もう、これからはミス

・キヤメロンとよんでくれと、おっしゃられたこと。この家庭を最後にもう緑丘には、born speaker としての英国人のご夫婦はなかつたのだから、この家庭の想い出はなつかしい。横浜からオーストラリアへゆかれたときいたが、どうしておられることか。

### F・ケーリー先生

この年の前後、昭和二年頃、マツキンノンさんが、しばらく米國へ遊られた。そのあとの授業を、F・ケーリーさんが埋められた。ケーリーさんは、富岡町の奥まったところに住んで、たしか牧師さんであつた。イギリス風のいかめしい牧師ではなくて、アメリカ風のきさくなミニスター、毛糸のジャンパーにだぶだぶズボン、手かごをさげて買い物にでるといった風。その息子さんが、いま同志社大学の教授、文芸春秋などに、達者な日本文をよくのせられるケーリー先生である。

学校の沿革によると、この年の四月から六月まで H・F・ペンソンとゆう仁が在職したことになつて、が、申し訳ないことながら、憶えていない。おそらく、臨教二クラスの授業時間に、教師陣が足りなくて、おねがひしたのであろう。あるいはこの頃、下っ端の筆者など、新任の先生の紹介を頂けなかつたのかも知れない。

### F・スミス先生

そのようにかつな筆者にも、印象の鮮やかなイギリス人がおられる。名は F・スミス、たしかオクスフォード大学の文学専攻、臨時教員

## 公認会計士 鈴木啓介事務所

所長 鈴木啓介 (昭13)

豊橋市駅前大通3丁目113の2

電話 豊橋 <0532> (53) 4 3 5 1



養成所の専任として来朝されたらしい。鼻にかかる発音、これがいわゆるオクスフォードの発音かと、その見本になるような英語、長身端正な青年紳士であった。教室でなにをやられたかきいたこともない。教官室でお話したこともない。ただ来朝して三ヶ月目の夏休みに、まちなかたように、軽井沢へゆかれ、そこで、佳人、麗人に遇われ、つきあい二週間にして婚約、秋、緑丘に帰任されると間もなく、辞任、年譜には十一月解職とある。その佳人も、東洋旅行の途次であったとか、そしてご二人の行き先は米国はカリフォルニアとか、風の噂さ。そのあとのことはいっとうに聞かない。いずれにしても、当時としては、また当時のイギリスの人としては、素速い動きであった。

**G・G・ヒューブナー博士**

この年の秋十月、緑丘は、珍らしい米国人教授を Visiting Lecturer として迎えた。米国、ペンシルバニア大学の G・G・ヒューブナー博士、日米交換教授として来日中を迎えて、保険論の講義をきき、また公開講演「戦後に於ける米國經濟界の推移」をきいた。いずれも、通訳なしであった。同教授は、米国、保険学界の第一人者、後年助教 Dr. Kramer との共著 Foreign Trade Principles and Practice を、筆者など、大いに利用させてもらったものである。

**R・P・モリソン先生**

それから一ヶ月の後、十一月に、

英国人、R・P・モリソン先生が着任した。やはりオクスフォードか、ロンドン大学を出たばかり、この先生は昭和五年まで在任。申し訳ないが筆者には、印象がうすい。やはり鼻にかかるイギリス南部の発音であった。当時英国留学中の浜林先生が、彼の地で、「面会」テストをされたのであろう。

**国際色豊かな炉辺**

この頃ドイツ語の三箇清教授来任、昭和四年ロシヤ語の高崎徹講師就任、そしてフランス語の松尾さん、経済学とスキーの高橋次郎さん、法学の井上紫電、会計学木村重義、保険の久木久一、社会学の中野清一、商業の服部政一の諸教授らが、相次いで着任、下つ端の筆者らも、ようやく人数がふえて元氣になり、そして皆さん外国語が達者。この頃、教務部長は、苦さんであったが、教官室には、中村さん、浜さん、小林さん、椎名さん、手塚さん、それに毎年集中講義にいられた高垣寅次郎先生など、いつも火鉢の周りにおられて外人講師たちと、ある時は英語、ある時はフランス語、そしてドイツ語による談話。昭和十一年の極東の風雲險悪になるまでの数年がのちにあげる外人講師たちもまじえて緑丘がもつとも国際色ゆたかに、また外国語が、横行した時代であったかたも、いや、当時、庭球は対北大戦にかち、スキーは、全国高専大会に優勝し、オリンピックに選手をおくり、水泳も、全国高専大会に優勝した。いや、二十五週年記念論文集や、マルサス百年忌記念論文集

も、この頃の刊行であった。

こうした緑丘魂の昂揚を力づけたもののひとつ、昭和五年の三月、スキーの名人、ハンス・シュナイダー氏の来校も、緑丘を訪れた異人さんとして、あげねばなるまい、いまならさしずめ、トニー・ザイラーか、クロード・キリーが来校したようなものである。

同じ年、昭和五年六月に米国、ウエスレイアン大学の教授、ダッチャー博士が、来校して、「国際秩序の道德基礎」という講演をされた。同じく通訳なし、当時の緑丘人のいやや今もそうであるが——英語の力がしのばれる。

前にのべたモリソン先生は、昭和五年の三月に、在職満三年で帰国されたが、六月に、T・M・フィギス先生、翌五年五月には、J・W・エヴァンズ先生（ともに英国人）、そして、十月にはフランス語の大黒マチルド先生、ドイツ語のパージュ先生就任、これに從來からのマッキンソン先生、デーゲン先生、スミルニツキー先生とおられたのであるから教官室は、まったく、国際色のゆたかなものであった。

この昭和六年の七月に、六日から九日にかけて四日間わたって、ハンプルグ大学教授、クルト・ジンガー博士の、ドイツ語による講義「世界恐慌」があった。多分通訳があったかもしれないが、いずれにせよ、たいしたものであった。

**T・M・フィギス先生**

フィギスさんは、長身、やせ型、

ミスター・ダニエルズ



頭髪も黒く、美しい髭をたくわえておられた。やはり、イギリスのどこかの大学をでられてすぐ来られ、キヤメロンさんのあとの官舎、洗心橋のあたりに、お手伝いをおいて、ひっそりと暮らしておられた。弁護士かなにかの試験をうけられるか、ぜひいぶん勉強しておられたが、なかなか几帳面、質素なことで、伝えられるところでは、バスにのるとき、いつも、大きなおさつをだして、バスのお嬢さんを困らしたとゆう。スコットランドの系であったかもしれない。昭和八年に帰られた。後年、筆者が英国に滞在した時、消息をさがしたが、判らなかつた。

**J・W・エヴァンズ先生**

エヴァンズさんも昭和六年から八年までのひと契約期間だけ。当時、水泳部のことで夢中であつた筆者には、あまり接触はなかつた。いまは亡き若松清太郎先生が、よく話をしておられた。木曾教授、玉井教授がよく知っておられるかもしれない。昭和八年三月やめられたフィギス先生の後任として、六月に F・J・ダニエルズ先生が来任、七月には、エヴァンズ先生がやめて、十月に、フアーミンジャーさんが着任、そして昭和十一年三月、ダニエルズさんが静岡高等学校に移られたあとに、六月、H・メーチンさんが来られた。

**F・J・ダニエルズ先生**

F・J・ダニエルズ先生も、長身鼻下にも、あごにも、美事なひげを貯えておられた。来任の時は、独身でいられたが当時すでに、語学者と

して令名のあつたかたで、とくに、当時、オグデン、リチャードなどの提唱されたベージック・イングリッシュに造詣ふかく、英語界全体から尊敬されておられた、もつとも、教室では、ベージック・イングリッシュを使わないようにと、教務部長の苦さんからは、釘をさされていたようだが、外国語主任の浜さんは、英作文法上の興味もあらわれてか、ダニエルズさんと共著で、ベージック英語・英作文の教科書をつくられた（研究社刊）。昭和九年か十年の冬、土居光知先生（仙台、東北大学英文科主任教授、名著「文学序説」の著者として、また研究社版のかず多い英文学テキストの注釈で令名高い先生）が、わざわざダニエルズ先生を訪ねて来られたので、われわれびつくりしたことをおぼえている。その時の訪問、対談のひとつが、のちに、土居教授の名作の「基礎日本語」にとりいれられている。それもその筈、ダニエルズ先生は、実は日本語、日本の民俗の研究家として、当時から令名高く、のちに昭和十一年、旧制静岡高校に移られたが、帰国後も、この方面の研究をつづけられ、ロンドン大学日本語科の Senior Lecturer から、いまは

fully qualified Professor. 英国でかすくない日本語の教授として、大学で多くの英人その他の外国人を教え、また戦後ロンドン大学へ留学した多くの日本人、放送関係の人たちを教えておられる。先生ご自身は、あまり人をちやほやされる仁ではないが、小樽で結ばれた夫人は、いわゆるお俠やんな、あねご肌のかたで、戦後のイギリスも苦しい生活の時代に、ロンドンを訪れる日本人を、どのくらい面倒みられたことか。先年、日本にしばらく来られた時に、気性も共通してか、村瀬千代夫人（故村瀬玄先生夫人）と、親しく往来しておられた。筆者も先年ロンドン滞在中、大変ご厄介になりつ放し、申し訳ない。ご夫妻のご健康を祈る。

ちなみに、ダニエルズ先生は、日本の民俗に関心、研究の深いことはネフスキー先生に優るとも、劣らない。諸国の龍（りゅう・たつ）に関する民俗、土俗、伝説や、土俗玩具、細工物を集めておられる、志あるかたは資料を送ってあげてください。（アドレスは Professor F. J. Daniels, School of Oriental and African studies, London University.）

お宅は、たしか、クリケットの競技で有名な競技場ロード（Lord's）に近い山手。

挿話をひとつ、大学の先生の研究室に、万巻の日本語の本、各種の文庫の本が棚にいっぱい。その一つに日本の裁判所の判決録数冊、どうして？ と伺ったら、だからだと、長い文のつづく日本語の見本にね、と

MAX FACTOR

マックスファクター

北海道販売株式会社

取締役社長 石崎 静夫

本社 札幌市北6条東3丁目 電話大代表(72)1161番  
営業所 札幌・函館・室蘭・旭川・帯広・釧路・北見

爽かな剃り心地

緑丘人のおヒゲ剃りには

資生堂スーパー・ポアン

—— ステンレス替刃 ——



仰つしやる。ねがわくば筆者のこの一文、悪文の見本とならぬように。

H・メーチン先生

昭和十一年六月着任、昭和十四年三月やめられた、H・メーチン先生については、緑丘五九号に高木正夫氏が書いておられる。「紅顔、小柄、髪の柔かい、いかにも英国人らしい」「名門オクスフォード出の青年、無駄なことはひとつも言わない、お世辞のない、しかし、事に忠実、忠信な典型的イギリス人であった。ちようど満洲事変が北支に拡大し、天津事変、北支事変と、事は大きくなるばかり、対手が北支の軍閥ばかりでなく、天津駐屯のイギリス軍のごたごたになった頃、学内の、外交通と論争して一歩もゆずらない、それこそ、「気持が昂つてくると、頸から頬、額と、瞬時にしかも順次に桃色に変わってゆく」その英国の美青年が当時の学内で、泣く子もだまる——でもないが、ともかく、そうしてお偉い国際情勢通と論争してはばからない、さすがにアングロ・サクソンと思わせたもの。

こうして、かならずしも良い印象をもって引き揚げたとは思われない彼れが、終戦の年の冬——と伝えきく、当時筆者は在東京——リュックサックに、煙草、かんづめを一杯つめて、小樽を訪ね、玉井さん、木曾さん、その他旧知の緑丘人を見舞ったとか、当時メーチンさんは、たしか英国軍に従って、韓国に駐屯して、はるばる小樽を、緑丘を訪ねてくれた——心温まることである、同時に、国と国とのことは別、こう



F・E・ファームインジャー先生

した異人さんとの交わりをつくった、緑丘人の人間関係がしのばれる。この人も、英国南部のどこかにおられるときいたが、会えなかったし、文通もない。

ミスター ファームインジャー

さてその次ぎが、かの有名な(ノートリヤス)F・E・ファームインジャー先生。昭和八年十月に來任して昭和十二年三月、東京商大に転出。どうして、ファームインジャーなんですかと伺えば、Firm in dangerと、おどけられる。いままでのイギリスの先生方、英国型の紳士(年令の多少をとわず)のイメージと、すっかり違つた人柄、のちに、ああこれが、一九二八・九年から三〇年初頭の、苦難の時代を経た英國の、現代人の型かと思わせたものである。先生もオクスフォード大学を卒業して間もなく、來樽された。しばらく色内町の越中屋に泊つておられたがやがて、緑丘の上の官舎、二寮の下、青く塗つた外人官舎に引越された。新しい住居のお祝いに、珍藏していた版画、清信の絵、清らかに菖蒲の花の咲いたのを椽に腰かけた乙女がみやる、初夏の風が水の輪をつくる、といった、清麗そのものの版画を、さしあげたが、一顧もされ

ない。毎日顧みられるのは、ビール、そして、それをひさぐ紅い灯の街のあちこちで、学生や、研究室がえりの若い教官とよくぶつかった。担当は、英語による貿易実務や、簿記であつたが、そんな授業用ノートは、さつさとこしらえて、もっぱら文学のものを読んでおられる。赤ら顔の、いい体格であつたが、スポーツは、あまりやられない。その代りに、よくおやりにもなり、またお上手であつたのが、トランプ、コントラクト・ブリッジ。留学から帰られてからしばらく体を悪くされ、お元気のなかつた浜林先生が、この頃大變お元氣になられて、よくブリッジ・パーティをオーガナイズされる、コントラクト・ブリッジは頭脳の遊戯だよと、筆者もよくひっぱりだされた。それに、やっているうちに、英語ばかりだから、英語の勉強になるといふ、口実もあつた。ブリッジの本も、読ませられた、forcing bid の仕方も教わつた。後年筆者にこれがどれだけ、役にたつたことか。オーストラリアで、英国で、ブリッジで知り合つたお友達。Do you play card, contract bridge? とときかれ、Yes, I do. と答えてYou are a gentleman. といわれたのには、おどろいた。いや、ブリッジは、ファームインジャーさんご自身のためにもなつた。昭和十一年秋、所用で來樽された当時東京商大の村瀬玄先生も、大變なカード遊び好き、そしてまた、浜林先生と親しい間柄、それにファームインジャーさんを加えての一戦、まさか夜を徹しもしなかつたろうが、

ウィスキーの瓶を何本か空にするほどの大熱戦。そして、その頃、ちょうど東京商大に在任の外人教師のたれかがやめることになつていて、翌昭和十二年三月、ファームインジャー先生、一橋へ転出。

しかし、このことを、ブリッジのせいのみで帰するのは、ご本人にも一橋・小樽の諸先生がたにも、申し訳ない。実は、その前年、昭和十一年の夏にファームインジャー先生の令名が、おおげさなには、日本中にとどろくことがあつたのである。それは、その年のたしか七月末か八月に、緑丘学園で開かれた、文部省主催の、全国英語教員の講習会である——この年、筆者は、四月から九月末まで南太平洋からオーストラリアあたりを、巡遊して、在樽せず以下の話は、帰国して、あとから人にきいたこと、また雑誌などで読んだことである。

この講習会、何日間の会期か知らないが、多分、母校の先生がた総出で、全国から集つた英語の先生方に講義、演習があつたのであろう。そのひとりに、当然ファームインジャーさんもおられた。そして、その時、とりあげた作品が、オルダス・ハクスレー(Aldous Huxley)の、エッセイ、'Vulgarity in Literature'であつた。

当時年齒まさに壮、当代第一の智識人(High-brow)たる、作家、詩人、評論家ハクスレーの、発表されたばかりの文芸評論(Literary essay)をテキストに使いながら、その当時の英国の文壇、社会の思潮を、作家とともに考え、懷疑し、そ

して、Crome Yellow や Brave New World とつた当時世界の文芸界最尖端の作品に及んだもので、いわば、当時としては、東京でもなかなか聞けなかつた内容の英語による講義、評釈・演習で、聴講の諸先生に大きな反響をよんだものであつた。この講習会、この講演のことは、聴講生として出席された当時学界的有力なひとり、武井亮吉先生が、雑誌「英語青年」に、通信として書かれたので、緑丘の英語・英文学の實力も、そしてファームインジャー先生の名も、全国に喧伝されたものであつた。同先生が、いづれは東京に抜かれるのは、当然のなりゆきであつたらう。

ファームインジャー先生については筆者としては、英文学に加えて、お酒とブリッジを教つたことのほかに昭和十一年(一九三六年)二・二六事件のことも、忘れがたい。この未曾有の出来事の日、その解決まで、このイギリス人のどんなに興奮したことか。学校の授業おえるなり、毎日「おい、うちへ行こう」と誘われて、ビール、ウィスキーをのみながらあの山の上の官舎で、東京の雪の何倍もの雪に埋まりながら、日本の政治、政情、政党、軍部の動向を、訊ねられた、語つた、そのあいまに、ラジオの放送ニュースをきいた。田舎の、事情にうとい英学生に筆者、当時の複雑怪奇な動き、とくに皇軍派と統制派のことなど、なにひとつしらない、それにひきかえ、この来日二年目の、おそらくは英字新聞しかよまない英国人の深い洞察力は、ノ頭の良いひとであつた。

昭和十四年夏、筆者は、また、思いがけず、東京外国語学校へ転出した。(なんたるおどろき!)九月の某日、当時の英語の先生のお歴々、千葉勉、大橋栄三、井手義行、岩崎民平といった大先生のおられる外語へ、おそろおそろ顔をだすと、畏友小川芳男氏(当時教授、現外国語大学学長)と、ここにこししながら、手を握つてくれたのが、ファームインジャーさん、You are coming, and I am going. だ。

昭和十二年三月、東京商大に転任されるとすぐに、レッドマン先生のとをいついで、外語の講師もしておられたのが、この八月一杯で日本を引き揚げることになつていたのであつた。九月某日、東京駅にこの人を見送つた。プラットホームにたちならんだ、あでやかな女性達。

この人との因縁は、まだつづく、東京では、昔にもまして村瀬玄先生にご厄介になつた。いろいろのこと教わつたが、ブリッジの相手も仰せつかつた。その折りの話の種に、ファームインジャー氏がアフリカのケニアあたりにおられるらしいとの噂。それから二十幾年、第二次世界大戦、敗戦、インフレ、朝鮮動乱、村瀬先生の長逝、そして戦前戦後とも、海外留学の機に恵まれなかつた筆者は、ようやくユネスコ研究員として、昭和三十四年(一九五九年)、ふたたびオーストラリアに学び、その秋、西オーストラリアから南アフリカへわたり、北上、アフリカを縦断して、ヨーロッパ、ロンドンで勉強をつづけることとなつた。その途中、キリマンジャロの山頂を右手

現代病に挑戦する——

**日本新薬**

脳卒中・心臓病など 今日豊かな暮らしをおびやすす現代病に挑戦  
製造薬品の95%を医師専用薬として提供し  
みなさまの健康づくりに貢献しています

日本新薬株式会社 本社/京都市南区西大路八条  
取締役社長 森 弘 (大正14年卒)

「成人病の策、贈呈 郵送料25円切手封入の上(弘報)まで」

**トモクの段ボール**

**東洋木材企業**

取締役社長 手 取 貞 夫

東京本社 東京都千代田区丸の内二の十八(内外ビル五階) 電話(212)6811  
工場 手稲工場・網島紙器工場・大阪紙器工場・小牧紙器工場・新潟紙器工場・山形紙器工場  
営業所 小樽・釧路・函館・仙台・静岡



に眺めて、九月某日、ケニヤの首都ナイロビについた。例のとおり、安宿に荷を投げいれて、電話帳を検索した。F. E. Firmingerとあるを探しだして、電話をかけた。

お手伝いさんらしい女の人の声。「これは、ミスタ・フアーミンジャーさんですか？昔、日本のオタルというところにおいて、のちに東京の大学に教えておられた。」やがて出てきた男の声。「おお、オオタニ。ハマバヤシ、ムラセ、エンド、トマベチ！」翌日、午後お宅を訪問した。街の中央部にある、二十何階かのモダンなビルの上の方、四間か五間の豪華なお住居、話はずきない、小樽の、緑丘の、あのこと、このこと。夫人は、ピアノの先生かなにかで、その時はレッスンにでかけられて留守、「いま、なにをいらしていらっしゃる？」ときくと、「新生ケニヤ政府の、土地局の次長だ、このナイロビの都市計画も、俺れのやっつたものだ。どうだ、郊外に土地でもやろうか？」と仰しやる。満洲国政府で、満人の下の日人の次長のようなものか。二晩の滞在に大いに旧交を温めて、ゲットバイ。英国での勉強をきりあげて日本に帰ってから、この話を、在日英国大使館の某氏にしたら「Was he quiet? (いまは、おとなしくやっているかい?)」と訊かれた。

R・ストリー先生

ここに遠慮しよう。挿話を二つ三つ。小樽に着任して間もない頃、某日、街のレストラン——妙見河畔のちゃちなところで、屋敷をよばれた(ご馳走になつて、ちゃちなとは、失礼)。先生、オクスフォードの流儀で、のみものにワインとおうように仰った。でてきたのは、X玉ポット・ワイン。ディックのへんな顔つき。

その夏、先生来日後まだ二ヶ月、筆者らは、夏を海浜蘭島にすごしていた。毎日の水泳、ボート遊び。しかしみんな、米の飯に塩鮭の生活、お茶さえもない。日本風の宿にいた先生、幾日も幾日も、それが英国人にはなくてはならぬ紅茶にありつかない。ある朝、気が狂ったように、「Tea! Tea! Black tea, please!」と叫んで、あちこちに分宿する友人仲間のとこらにとび込んだ。結局、当時まだ少年であった植田英次君(昭和十六年卒、緑丘会常務理事)の別荘でリプトン紅茶にありついて大喜び。それ以来リチャード・ストリー氏夫妻と植田家とのつきあい。

昭和十四年、筆者が東京へ移った秋、ディック、何かの会合で上京、夜拙宅に泊るといふ。夜半にいたるも帰らず。玄関に錠をせず家族一同就寝。朝目覚む、部屋の障子、半ば開いている。盗賊？おそろおそろ廊下へ出る、ゴーゴーという鼻いびき、その室、小さな書齋を覗くと大きな体のストリーさん、藤の寝椅子に小さくまるまってぐうぐうの高いびき。紅茶をのみながらきくと、帰るには帰ったが、障子をあけてのぞくと、筆者ら家族四人、狭い和室に

ふとんをならべての姿に、おこすのを遠慮して、かくかくの始末。やさしい心の人である。

次ぎの年の秋、彼、上京、一夜は帝国ホテルに泊り、あとは友人のところ。滞在数日、彼も筆者も、ふところは淋しい。街でおちあつてもまづい食事の連続。そこでいよいよ帰樽の時、留守のお手伝いさんへの電報「アスヨル××ジツク、オイシイシヨクジタノム。」

この頃の、彼れを主人公に、緑丘学園らしいもの、小樽から洞爺湖道南の生活を描いた作品、「北の湖」が某年、「文学界」の新人賞をえて載った。作者はペンネーム、撰者のひとり緑丘ゆかりの人、伊藤整氏も激賞しておられた。

戦後、日本に來たいばかりに、オーストラリア、キャンベラの国立大学の講師となり、研究費をえて来日、成城学園に借家住居でひたすら研究、調査、夫妻とも、隣り近所の人たちに非常に愛された。

その後の日本研究の進行、その成果はもう各位ご存知のとおり。著書も沢山。ご愛読であろう。毎月文芸春秋をよみ、手紙の宛名も、日本文字で書く。いまやオクスフォード大学、セント・アントニイス・コレドジ(研究員だけのコレドジ)のシニヤ・レクチャラー、英国の日英協会の重鎮、勲四等瑞宝章。筆者滞英研究中の交友のわずかずはもう省く。ストリーさん、またいらつしやい、テレンス坊やもつれて、みんな待っています。

再びデーゲン先生

デーゲンさんが、戦後一度日本に夫、いつも寛々悠々、大正十一年、大阪外語新設と同時に移られ、その後、関益良先生が来任、昭和十四年までおられた。そのあとが昭和十七年までご在勤の周長英先生、ただし筆者は、知らない。ダンカン、ギルボーイ、デンケル先生も同様。

今にして特権を知る

大正の末から、昭和の半ば、戦争没入までの、緑丘学園を彩るどつた異人さん先生がたを、ながながと描いてきたが、書きおえておどろくことは、この北海の一角の、一専門学校が、いかに国際色ゆたかであったかということである。

その当時としては、中央の大都會の大学、高専としても、むずかしかったであろうフランス語、ドイツ語、ロシア語、それに中国語の、本国人の先生がたを、ちゃんとお迎えしていたのである。

スペイン語だけは花村教授にまかせて、英語をばなす外人講師として、まずマッキンノン先生、これは大正六年から昭和二十年まで、実に半世紀以上にわたって、忠実な英語の教師として、言葉のドリルに努められた。米国の名門ハーバードを卒業されたのである。

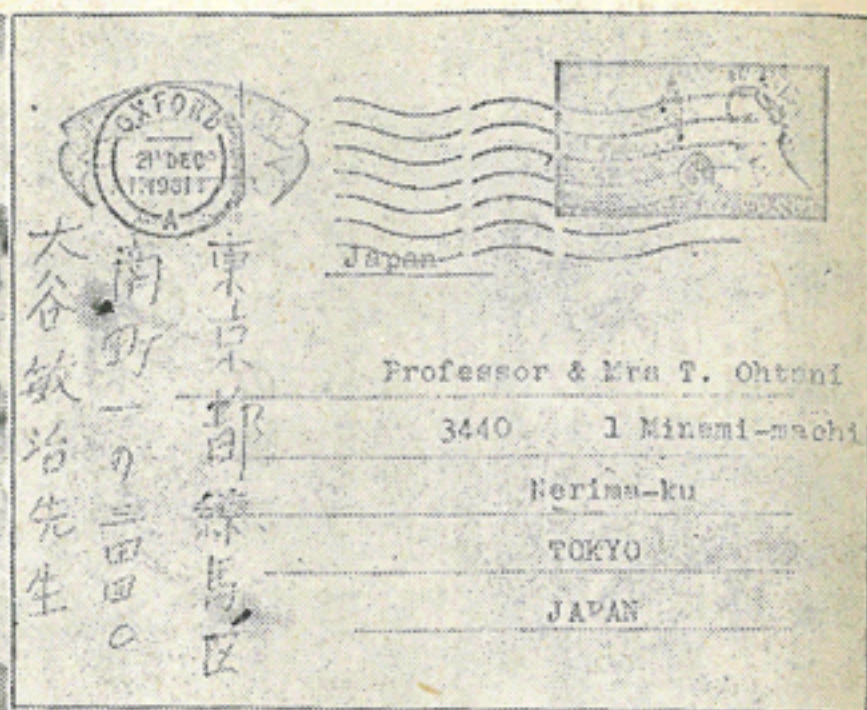
当時の日本の英学界のことゆえ、宗教その他の関係からでないかぎり英国の英語に傾くのは、自然として、その英国の紳士が、常時二人、或いは三人はおられたのも、おどろきである。それもつねに名門オクスフォードかケンブリッジ出身がひとり、この方は、大抵英語の先生であるが、歴史とか文学とかをやられた

動乱のなかの外人講師

なお中国の大人、先生方を逸して申し訳ない。筆者ら入学の頃、関恩福先生がおられた。堂々たる偉丈



(右)ストリー先生の日本語筆蹟(昭和36年12月)



(左)ストリー先生戦後何回目かの来日、羽田空港出発の時、この時荷物重量超過でおおあわて

なれなかつたが、進藤孝二氏、山中晴雄氏らの、当時の先生への好意、援助に、緑丘人として深くお礼を申さなくてはならぬ。

マダム・マチルド・オーグロ  
フランス語といえは、大黒マチルド先生のことを逸するわけにいかない、しかし、夫人も、あまりに近すぎる、昨年、マッキンノン先生ご夫妻を案内して、札幌へ行ったとき、昼食の席、パーク・ホテルにいらした。三十年の歳月を思わせないほどの若々しさ、美しさ。「おぼえてますよ、オオタニさん」メルシ、マダム。

外国人の学生

外人の先生ではないが、当時の緑丘学園に珍らしい異人の学生さんのことを附加しておこう。その人、名は王張貴。満洲国籍、大連から本科生として、昭和十三年入学、十六年卒業、この仁、麻田四郎教授などと同期、昭和十七年頃には北京、中南海公園、居仁堂、華北電業公司主計課に在勤せられた筈、以後明らかでない。戦前、戦中同地方におられた同窓各位、消息をご存知ありませんか、忠実に勉強しておられました。

幅の広い教養人である、そして易の一人は、商業・経済とくに外国貿易のことを英語でやられる仁である。そして、この双方とも、原則として、つねに英国から直輸入、ぢかにやられて来られて、日本語をひとつも知らない、日本人向けになっていない生まの英語を話す人である。これは、学校当局としての、なかなかの見識である。

そのうえ、来任の先生がたが、みな、よい紳士がたであった。それぞれ頑固な個性はもちながら、よく学園の空気に融けこんで、教室で、教室の外で、学生や、若い教官と、よく学び、よく遊んでくれた。この点は、当時学生であられた同窓諸兄はあまり深く感じられないであろうが、筆者は、東京に出てみて、痛感した。筆者の在任したのは、東京外語、いわば、日本の外国語教育の本山である、なるほど外人講師はかす多くいられた。インド人、インドネシア人、スペイン、ポルトガルの紳士、英語を語る先生がたも、なんにんかがおられた。しかし、東京の先生がたは忙しい。授業がすめばさようなら、である。教室外でなにかしただお茶のんで話すだけでも、お金がかかる。特殊な人間づき合いでもないかぎり、大東京はかえって外国人との接触がすくない。これは、現在も同じである。

筆者は、いまでも不思議におもうのだが、どうやって、あれだけの外人教師の定員、予算をとったものであろう。若気の至りで、大正のある年代のクラスが、ちんぷんかんぷんの

来られた。当時シャムにおられたのだが、凛然としてやって来られて、宿は上野のあまり上等でもないホテル、例の英語とドイツ語、英語とフランス語の「一挙兩得」と、加えて今度は「日本語とシャム語の一挙兩得」をも携えて。どこか日本で職を求められたのかもしれない。筆者は「外語」についてもなんのお力にも



英語による授業をやめて、日本人の教授をもっと、などと教務部長に求めかけたことがあったが、いまにして思えば、あの外人分は別枠。とすれば、外人にかず多く接するだけ、学生のため。

昭和八年頃に、英語の学習時間を九時間組、七時間組、五時間組と分けて、××さん横暴との声もあつたらしいが、その真意は、英語が不得意、あまり好きでなくても、せめて耳で聴くことだけは、との親心。そして、各位も、いまお悟りのとおり英語は、しゃべることよりも、聴く方がむずかしい。そして各位の語学力は、いま第一級である。

外人講師の生活をおして、各国人の生活パターン、ものの考え方、国民性にふれるというねらいもあつたろう。

スミルニッキさんなどから帝政華やかなりし頃のロシア上流？社会の生活の片鱗を知つたものである。

それに、当時小樽は、ヨーロッパ復航同盟の終端港として、各月すくなくとも三、四隻の外国船も入港していたものである。

国際人の環境

母校が、単独昇格かどうかで、難行したとき、G・H・Qにだした申請書に、クレジットの第一に、多くの外人教師を含む国際的な研究と、教育の環境というのがあった。小樽は北海道の端というのに対して、この海は、この学園は、ロンドンに通じニュー・ヨークに通ずると反論された。世界の学界に通う空気をさして、いたのである。名は高等商業でも、

日本一、世界一のカレッジ・オブ・コマース、そしてそのコマースとはリベラル・アーツ（一般教養学科）を踏まえて、商業・経済・経営の理論追及と、実践との統合という、全人的形成にあつたのであろう。

緑丘前号の、加茂儀一前学長の一文「新制大学と外人講師」をよんで戦後の学長さんがたの外人講師を求めてのご苦労は、よく判る。筆者も東京外語大で、英米科の教官の一員として、この苦労はよく味った。この苦労を苦労でなくするのは、求めてもなかなかえられない外人の先生がたを、補つてあまりあらしめるものは、学習者の熱意、そして学生、教官、職員一致しての、学問追求、歴史形成、かくあれかしとの願いに生きる、生活のみである。

そのみが「地球を動かす」。

かき終えて、緑丘の学運いよいよ隆昌を希い、お名を本文にあげた、あるいはあげなかつた、諸先生、同窓各位のご幸福をいのり妄言をひらに謝したてまつる。



小樽高商講師（大正8年5月～11年3月）

ニコライ・A・ネフスキーの生涯について(3)

墓目英三

(昭二一)

大阪の生活

ネフスキーは一九二二年創立したばかりの大阪外国語学校のロシア語教師となつて大阪に赴任するが、彼のアイヌ語研究熱はその後もしばらく続いた。

ネフスキーは大阪に移つて後、アイヌ語研究のためにアイヌ人の娘を女中にやといたから世話してほしいと金田一氏に依頼した。そこで金田一氏は、氏に多くのすぐれたユーカラを伝えた「アイヌのホメロス」

鍋沢ワカルバ氏の娘ユキさんを紹介した。ユキさんは当時十七歳くらいであつたが、父の才能を受けついで利濃な娘で、半年ほど大阪のネフスキー宅につとめ、ネフスキーにアイヌ語を教えたのである。

ネフスキーが大阪外語に在任したのは、一九二九年八月までであるが、一九二三年から同じく二十九年八月まで京都大学文学部嘱託として史学科副科目のロシア語を教え、またアイヌ語の講義もした。

大阪に移つた後もしばらくは民族学の研究を怠らず、東京の学友との研究会にも出席し、上京すれば柳田氏宅を訪れた。岡正雄氏の談話によると、一九二四年（大正十三年）二月から折口信夫氏、金田一京助氏、中山太郎氏、早川孝太郎氏、伊波普猷氏、岡村千秋氏らに岡氏も加わつて、毎月一回民俗学に関する研究会を開いたが、ネフスキーも大阪から出てきてこれに参加していた。また大阪に赴任した年（一九二二年）と一九二六年の夏、ネフスキーは念願の宮古島へ旅行し、現地方言は勿論多くの民話・伝説を採集した。

一九二七年には台湾へ旅行したがネフスキーは単身でかつて首狩りで名高い阿里山付近の曹（ツオウ）族の言語を調査した。彼は現地である一カ月、ウオンゲ・ヤタユンガナという青年について日本語を通じてツオウ語を学んだ。

この旅行の成果は、後にソ連邦の東洋学論集の一冊として発表された『曹族方言資料』である。一九二〇年代の後半以後、ネフスキーの学問的な興味はしだいに新しい分野に向

Mitsui O.S.K. Lines

大阪商船三井船舶株式会社

取締役会長 進 藤 孝 二

東京都港区赤坂5丁目3番3号

電話 東京 (584) 5111 番 (大代表)

帰国後の活動

帰国したネフスキーにとって、はじめ事柄はすべて望ましい方向で進んだ。友人や先輩、恩師は彼の人格と知識を高く評価し、一九三〇年二月二十七日の会議でネフスキーはアジア博物館付東洋学者グループの一員に選ばれた。恩師アレクセイエフ教授は自宅の一部をネフスキーのために開けて歓迎した。カズロフ探検隊によつてもたらされた豊富な西夏語文書は、今や彼の研究を待っていた。ネフスキーは研究の順序として、まず辞典をできるだけ豊かにし、西夏語の音韻を再現し、終りに西夏語の文法を書くことを考えた。彼はこの研究に全力を投入した。またレニングラード大学と現代東洋語専門学校の日本語学科で教鞭をとり、熱心に後進の指導にあつた。

当時レニングラード大学のレクトル（講師）として日本語を教えていた鳴海完造氏（一八九九年）は、帰国して間もない頃のネフスキーを自宅に訪れたことがある。鳴海氏が刺を通じると、ネフスキーはどてら姿でもみ手をしながら出てきて、全く堂に入った日本語で話した。鳴海氏の訛をきいてネフスキーは直ちに「あなたは東北の出身ですね」と言い、恐山やオシラ様のことを話題にし、東北と琉球に古い日本語の名残りとして「の音（兵隊を fetai といふこと）」が残っていることを指摘した。鳴海氏はネフスキーの学識に度胆を抜かれたと述懐している。その後鳴海氏は大学と専門学校でネフ

いはじめた。すなわち西夏語の研究である。

一九二五年夏、ネフスキーは北京へ旅行し、一九二二年以後在北京のソ連大使館付通訳官として勤務していた大学時代の恩師イワノフに会つて西夏語資料を入手し、その研究結果を「西夏文字抄覧」と題して発表した。本書には、チベット文字による表記をともなつた西夏文字三三四字が集録されているが、西田龍雄氏によれば、本書及び本書以後に発表されたいくつかの論文について見ると、「西夏語音推定の態度に言語学的方法が確立されていなかった点はおしまれる」が、「西夏学を著しく前進させたのは事実である」と。

ネフスキーの帰国

一九二七年の暮、ネフスキーはすでに帰国の決心を固めてパスポートの申請をしていた。帰国の理由は、柳田国男氏によると、「地位が不安なので、細君にも楽をさせたいと思つて、何とかしてロシアに帰つて正式の地位を得ようと希望した」とある。

一九二九年秋、ネフスキーはとりあえず磯子夫人をおいて単独で帰国した。夫人は少しおくれて、娘のイレヌさんをつれてレニングラードへ移つた。ネフスキーが故国に帰つたのは実は十四年ぶりであつた。しかしその間にロシアでは一大変革が行われていた。革命とそれにつづく国内戦、飢饉などのきびしい試練を経て、一九二八年ようやく再建のため第一次五カ年計画に着手したばかりであつた。



スキーにたまたま会うことがあったが、あるとき彼は鳴海氏を呼びよめて、「鳴海さん、五十銭玉」というのはどういう玉ですか」ときいたという。

一九三五年三月二十日、科学アカデミーの定例会議で「西夏文字とそのフォンド」と題するネフスキーの報告が行われた。キチャノフによると、この報告は「今日に至るまで西夏文字と西夏文化の遺物について語られたものの中で最高の位置を占めている」ものである。

この報告以後ネフスキーは科学アカデミー東洋研究所の研究者となりやがて科学アカデミー通信会員に推選された。

一九三七年秋、北国レニングラードの秋は常に変らず美しくあったが、人びとは不安な日々を送っていた。一九三四年十二月、レニングラードの党書記キーロフの暗殺事件以後いわゆる「粛清」が開始され、三六〇三七年間に上は元帥から下は一般民衆まで多くの人が処刑された。ネフスキーの恩師のひとりイワノフは三十七年七月無実の罪で逮捕された。イワノフは北京から帰って、二十年代以後モスクワの東洋語専門学校で教鞭をとったが、やがてレーニン図書館勤務に移った。数年前彼の名誉回復は行われたが、彼の西夏語辞典の原稿の所在は今のところ不明である。

一九三七年十月、ネフスキーは突然逮捕された。当局の公式発表によると、ネフスキーは一九四五年二月十四日死亡したことになっているがその間シベリアかどこかに生きてい

たのかも知れない。しかし彼の学者としての生涯は一九三七年末をもって終わったのである（『西夏言語学』では一九三八年に没したことになる）。

一九六〇年彼の西夏学に関するいくつかの論文と西夏語辞典の稿本が刊行され、一九六二年これに対してソ連邦最高の大賞であるレーニン賞が与えられた。六二年五月四日、モスクワのソ連邦科学アカデミー・アジア民族研究所で、「言語学博士」ネフスキーの受賞記念式典が旧友のコンラードやバラノフ、G.K. Babanov のほか多くの来賓の出席のもとに盛大に催された。また席上キチャノフ、イワノフ、B.B. Ibrabov ソフォロノフ、M.B. Cоpоpоvららの記念講演が行われた。またそれより前の四月三日付「プラウダ」紙上にコンラードとイワノフの連名による「古代民族の第二の生命」と題する論文が発表され、ネフスキーの功績をたたえている。

結び

柳田国男氏はネフスキーの学問上の功績としてつぎの三つをあげている。まず第一には、東北日本の一部で行われるオシラ様の研究であり、第二には西夏語の研究、第三には宮古島方言の研究である。柳田氏はネフスキーと別れて二十年あまり後、「大白神考」の序文の中で、「今頃この様な一冊に纏めて見るのも、言わば終りを全うせざる友情の悲しき記念である。十何年かの日本生活に於て、ネフスキー君の心を留め、積み貯えて行った知識の中には、この

国の少壮学徒もまだ省みなかったものが色々ある。』とのべている。また西夏語学者西田龍雄氏は「すでに三十年以前に『西夏国名考』などの秀れた論文を書いたネフスキーは偉大な文献学者であった」と書いている。

参考文献

- 柳田国男 「定本柳田国男集」別巻第三
柳田国男 「一九六三『大白神考』同上第十二巻
折口信夫 「一九六五『若水の話』『折口信夫全集』第二巻
高橋盛孝 「一九五九『ネフスキー氏について』『日本民俗学大系』第十二巻
高橋盛孝 「一九四二『樺太ギリヤク語』
中山太郎 「一九四二『校註、諸国風俗問状答』
石田英一郎 「一九五六『桃太郎の話』
岡崎精郎 「一九六二『ニコライ・A・ネフスキーの業績と生涯』雑誌『懐徳』第三三三号・第三四号
西田龍雄 「一九六四『西夏語の研究』第一巻

税金百話(三)

北條恒一 (昭一五 税政評論家)



不況と税務調査

不況は意外にも深刻で、倒産はまだまだ続くだろうということが、中小企業全般を通じて予測されている。結局、不況のどん底まで一度落ち込まないかぎり、立ちなおるきつかけがつかめないだろうという見通しなのである。不況の影響は税務署にも波及している。税収の不足ということで、それがまた中小企業にはねかえってくるようなかたちではねかえるかという、税務調査を厳格にやるというかたちである。

特に現金収入の多い業種はねらわれている。新聞をにぎわしたそば屋さんの問題、次から次へと税務署は現金収入の多い業種をねらい打ち出している。その手口はともかく私のきつにいらぬ方法をとっている。ひとつの税務署の管内に、同じ種類の業者が何十軒かあると、成績のよさそうなところを二、三軒摘出して、それを徹底的に調べるのである。特に重点的に調査するのは、預金関係

である、これは代表者はもちろんのこと、同族関係にあるものの預金まで三年位遡ってその出入を調べる。法人組織であっても、個人の預金は一応全部調べられるものと覚悟しておいたほうがよい。そのほか不動産の面も調べているところがある。

これらの調査方法は行過ぎかという、そうではない。税法上の裏打ちにはちゃんとある。そして売上げの計上洩れが出れば、ごそと更正してやる。この標本的な調査の結果、算出された売上総利益率や営業利益率を基本にして、ほかのまだ調査していない納税者の分まで、税務署で計算をやりなおすのである。そうするとほとんどの同業者が税金をふやされてしまうという方法をとっている。そして呼び出しをかけて、かくかくの金額で修正をせよとやられる。問題はここにある。青色申告をしていないときは、調査をしなければ更正できないことになっているが、修正をしたらどうかということ、納税者に口頭でいうことは禁止されていない。修正する原因となる数字的な根拠もわからずに、税務署

に呼び出されたものだから、ぶるぶるわくわく「はい。承知しました。」と修正申告に捺印する馬鹿がいるから、まっとうな納税者が迷惑してしまう。

同じ業種を営んでいても、営業成績は地域とか、得意先の階層とか、いろいろの要件に左右されている。全く同じ売上高でも利益率はちがう場合だってある、そういう点については、税務署だって認識している筈である。ところが、税収の成績をあげるため、しかも一軒一軒調査をする手間を省いて、標本的な調査結果を画一的に、調査をしないところまで押しつけて、余計に税金をとろうとするのは税法を無視したやり方である。こういう方法は取引高税に通ずる。数年前、衆議院の大蔵委員会で「配当の分離課税」という資産家保護の税制が議論されたとき、シヤウ博士はもし日本がこの配当の分離課税制度を採用するならば、勤労者はその意欲を失い、取引高税でも採用しなければならなくなるだろうと批判していたが、はしなくもその予想はあたったようである。

あなたはいくらで暮せるか

来年のことをいうと鬼が笑うとかいうが、来年の税金のことについてことしの春過ぎ頃から税制調査会で、すでにいろいろな議論が行なわれていることは、あまり知られていない。こういう税金はやすくしなればならないとか、やすくするためにはどういう方法をとったらよいか

公認会計士 小島典春事務所
税理士
東京都千代田区九段北1-2-12
電話東京(03) (261) 2938 (263) 4587

ど、国民の世論を形の上で代表している税制調査会の各委員が、いろいろな意見を持寄って、政府に対して来年はこうしたらよいという答申をするのである。だから各方面の意見を具申したり、改正の陳情をするのは、今がその最良のチャンスなのである。

来年の改正の焦点としてクロージアップされていることのなかに法人の利益配当を損金にしたらどうかという問題や、利子所得と配当所得との分離課税を廃止したらどうかというような問題がある。私はこういう大きな問題を議論する前に、もっと基本的な問題があることを指摘したい。特に給与所得者は税金は頭からとられるものであって、どうしようもないという諦めをもって、この考えは改めなければならぬ。同志社大学の長島教授が、給与所得者に対する税金は重く、しかも不公平だと訴訟をおこした、これはなかなか勇氣のある発言である。訴訟そのものとしては、とりあげる価値のないもので、こんなことにわれわれの税金でまかなわれる裁判費用を使われるというところは、国費の濫費である、私は機会あるごとにしやべっている。しかし、この訴訟によってサラリーマンの税金に国民の目が向けられてきたとすれば社会的な意義は大きい。



るが、「基礎控除」の額がこれよりのかということである。日本憲法第二十五条にすべての国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」とある。表題は「国民の生存権」である。健康であるということ、文化的であるということ

### 縁丘会計人有志の集い

かねがね縁丘出身の職業会計人が、なにかの形で集ってもよいのじやないかという声があった。というのは公認会計士、税理士を通じて縁丘出身の数は相当なものであるからであるからである。在京の有志(別記)が、去る八月九日夜神田小川町今文で、永い間税務職員に就いてた高木光孝氏(昭和十二年)の仲間入りの歓迎をかねて集った。各大学出身者の縦横の連絡は大したもの

だ、縁丘出身者も大いにそれを密にしようじやないかということになった。

当日の出席者(順不同)  
小林 憲、大田 末穂、五十嵐 混(以上昭和十一年) 高木 光孝(昭和十二年) 北条恒一(昭和十五年)

次回は先輩西野嘉一郎氏をお招きしていろいろお話をききたいということになった。

### 御連絡乞う!

全国縁丘出身会計人の大同団結のため、左記へ住所、事務所等ご連絡願います。最新の名簿を作成します。

- 東京都豊島区南池袋三の十一の四 電話 東京九七一局八五五九番 小林 憲
- 東京都杉並区荻窪三の一三六 電話 東京三九八局九三三〇番 大田 末穂

か、まだお若いのに。ごらんなきい、あなたと同年配の人々が、あの通りまだ、第一線で活躍しているではないか。ナンテ、どこでも、誰でも言ったり、言われたり。然しワタシヤ、もういいのです。脚腰が利かなくなり、目も霞み、歯も抜けてから、勇退したり隠居したりでは、どうするのだ。私は定年退職を五十才丁度にするべしという意見を捨てない。停年をもっと延ばせなどとは、もつての外。なるべく幾分でも気の確かなうちに万事を無事終了して、あとは朝寝、朝風呂、朝酒、何とでも。大丈夫、かの小原庄助さんの様に、つぶれるような大げさな身代は、この年頃になると、縁のないもの、たまたま、若し老妻が生き残っていたとしても、これと共に悠々とやれぬくらいならば、始めから、実業家だの、高利貸だの、役人だのになるな。人間あまり余分な現金はいらぬものです。金の延板を買ったり、親身の者がビルの屋根から飛び下りたり、監獄の中で、上等うなぎ弁当を差入れて貰って喰っていったり、エチケットの通人を通った日本の総理というのが、ケネディの葬式に参って、先方の要人に、ニタニタ

相当なカローリのあるものを食べなければ、維持してゆくことはできない、月に一度位ロードショーでもみて、文化的な生活をしているんだなあと反芻してみたいという程度のものである。

ところ存、所得税法では働く人間ひとりの生存生活ではない一を全

### 天声人語(朝日)から

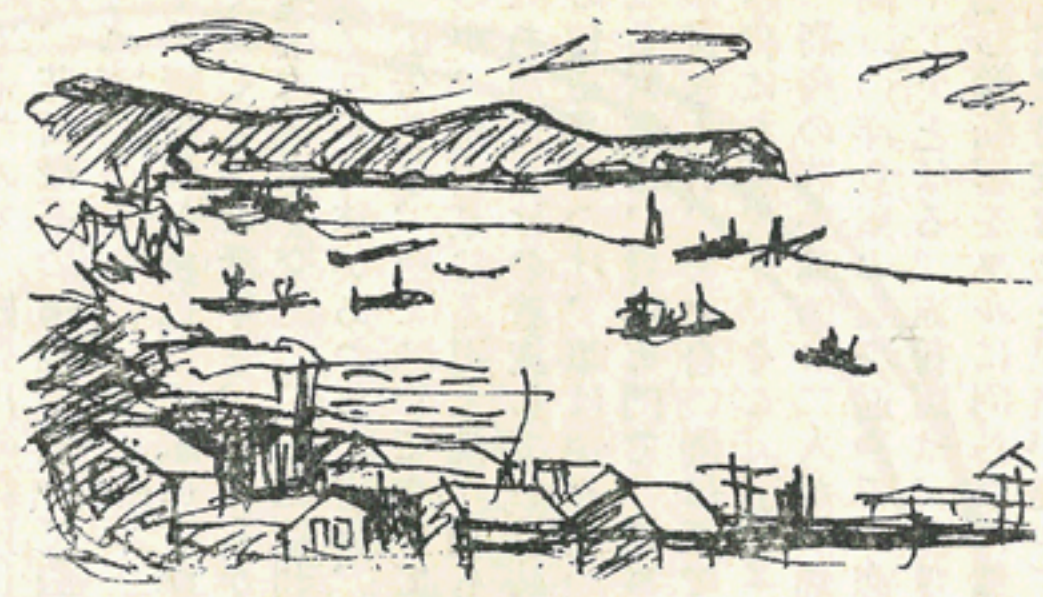
税金のない国に行きたいものである。広い世界には、そんな国もありはせぬかと調べてみた。バクチで財政を賄っているマカオやモナコには税金がない。しかし、遊びにゆくならともかく、ちょっと住めそうにならぬ。ボルネオあたりはどうだろうか。調べてみたら、税金がないどころか、納めないと監獄にプチこまれるとわかった。桑原桑原……以上は「税金を軽くする事典」(北条恒一著・ダイヤモンド社)の最初に出てくる話である。もひとつ引用させてもらおうと、日本の税金の重さは「万邦無比」に近いそうだ。夫婦と子どもが三人の家族の場合、昭和四十二年の日本では、年収七十一万一千八百九十九円までの所得なら、所得税はかからない。ところがアメリカやフランスでは二倍まで、イギリスやドイツは一倍半くらいまで所得税はかかる。いかに日本が重税国であるかがおわかりになるうとある。▼「税金なき国」に行くのをあきらめ、この重き税つどいにつどう国に住ま

うする費用を年一四万円しかみていない、これが基礎控除の額である。月一三、一五、一五、一年三六五日として一日約三六円。これで健康で文化的な食住の状態を保つことができようか、こういう基本に立戻って税法を考えなおしてほしい。

ねばならぬうえは、せめて「節税」を考えなければならぬ。「税金を安くする本」「税金に強くなる本」「節税のすすめ」などの本がずいぶん出版されているが、たいいてい売れ行きはよいとのことだ。温順なる納税の羊の群れは、せめてこの福音にすがろうとするのであろう。▼どの本にも節税のポイントが具体的に書いてあって参考になる。収入には違いないが税金の対象にはならぬ非課税所得や、損金など、ナルホドと思ったりするが、こういう参考書にはまったく出ていない強力な奥の手があることが、ほかならぬ税の元締、東京国税局によって天下に「公示」された。▼いわく「飲ませて味方につける法」である。日通事件が波及して、逮捕された五人の東京国税局係官は、青二才やチンピラではない、レッキとした調査官。三十六歳の一人をのぞいて、他は四十代、五十代の中堅だった。ごりっぱな話ではある。▼税金を軽くする本の「十カ条の心得」に、もう一カ条、大切なものが抜けていたのである。本の内容の足らぬところを、実際の事例を以てご教示とは、納税者も深く感銘のほかはない。

### 小樽夜景 一九二六—七年

那珂捷 (昭二)



### 前文

絵画でいえば、これは具象派ではなく、或いは、ロバの尻尾で塗るつける式の、非具象派に近い。この前文を見た上で、あとを読むのを止めるなり、続けて読むなり、どうにでもなさるがよい。

縁を切りました。何をいうのですか、まだお若いのに。ごらんなきい、あなたと同年配の人々が、あの通りまだ、第一線で活躍しているではないか。ナンテ、どこでも、誰でも言ったり、言われたり。然しワタシヤ、もういいのです。脚腰が利かなくなり、目も霞み、歯も抜けてから、勇退したり隠居したりでは、どうするのだ。私は定年退職を五十才丁度にするべしという意見を捨てない。停年をもっと延ばせなどとは、もつての外。なるべく幾分でも気の確かなうちに万事を無事終了して、あとは朝寝、朝風呂、朝酒、何とでも。大丈夫、かの小原庄助さんの様に、つぶれるような大げさな身代は、この年頃になると、縁のないもの、たまたま、若し老妻が生き残っていたとしても、これと共に悠々とやれぬくらいならば、始めから、実業家だの、高利貸だの、役人だのになるな。人間あまり余分な現金はいらぬものです。金の延板を買ったり、親身の者がビルの屋根から飛び下りたり、監獄の中で、上等うなぎ弁当を差入れて貰って喰っていったり、エチケットの通人を通った日本の総理というのが、ケネディの葬式に参って、先方の要人に、ニタニタ

寝ては夢が日月の旅を巡って果てしなく、かの仏蘭西アンリ・ルソオが描く、砂漠に眠るアラビア人の如く、夜半ライオンは来りて尻を嗅ぎ暗い月は中天に遠く円る。かくして我が夢は、かの古く良き北辺小樽の夜に立ちまどう。

の女連、波止場からそのまま爪先上の広い坂道の中途に、船員酒場、やがて電気館通り、(活動写真の小屋の名前)色内、花園、公園通り、富岡町、緑町、堺町、手宮、信香、南小樽に、築港小樽、その様な町名だけを並べて、あとは眼を閉じてそれを思うだけで、小樽の夜の人と風と雨と雪と月と星と、何もかも皆ムラムラときまよい出て来る筈。このあと、何をくどくどと記すことがあろうか。然し、私のところへ出てくる幽霊と、あなたの処へのは、いくらか違っても知れない。私の方を、ま、聞いてくれ。街と街角、妙見川の橋を渡って花園町になる、その辺の川べりが、肝心な場所なのだが、いつも酔った足どりで行き来したので、横町の路すじなど、その露地の名や両側の軒さし、格子戸、ただ、もうろうとして、夢の中ではさだかではない。土足ではあがれない畳敷きの丸井呉服店は、夜はお休み。活動館は、総て下足札を貰って入る、雨夜は靴も足駄も、並べ重ねた上から鞆が垂れて汚れる。冬は凍るので鞆は心配ない。中は平土間に樹席、角巻姿の女は、隣りの見も知らぬ男の手を握る。男客はその手のクリームの匂いに興奮して、帰りにこれをそばやの二階に誘う。舟士、これが「映画」の死命を握っている。舟士よろしければ、総てよし、関楓葉という年配のが、北海道一の名舟士で、大人気、フロックコートに弁慶草履をはいて舞台上立つ。「フィルム」の転回に従いまして、いでや涙の物語り「チーン、伴





穴

畑

信太郎 (大―四)

私がビール会社に入社した時の社長は根津嘉一郎(先代)さんでした。合理的に経営する人でありましたから無駄排除は徹底してました。又掃除もやかましい方でありました。「部屋の真中は誰でもやる、人がやらない隅っこを掃除する事が大切だ。芸者がキレイなのは耳や手足そして穴をキレイにするからだ。素人は顔だけ手入れするから泥臭い。穴も大切だ」と変な例を引いて注意された事がありました。穴には参りましたが耳鼻口の穴であったかも知れませんが、根津さんを精力的な人と見る方はあの穴だと早合点されるかも知れませんがポロ買一郎と言われた程、不良会社の株を買占めて立派に再建して財をなしてた方でありましたからもうけ口の穴をフと思ひ出し「穴」と言われたのではないかとも思います。随分昔の話です。

だが、目的の銭函で下車せず、その軍人教官を置き去りにして、村田銃を札幌駅に一時預け、一日遊んで戻るなど、検束を避けるストレス運動は、やればやる程面白く、今の全学連尖鋭分子には申し訳のないようなお遊びが、進展するくだけは、さて枚数つききました。以下は次号に。

穴原稿募集

四〇〇字原稿用紙一枚以内  
 でお願ひします(成る可く  
 十六行位)

奏オーケストラは五人の編成。観客、老若男女、中学、高校生は校則によって立入禁止、進歩的な高女生は変装して入場する。これが大体十七、八才、昼間は袴か洋服の制服だが、夜は着物である。館内は暗く、その八ツ口から手を差し入れるのだから、妙見川下流の芸者街の方へ向う。或る特待生はひどい田舎中学から出て来たので、妙見川の灯に目が眩み、花街最高の菌種を貰って脳梅で死んだ。

チリ紙の様な桃色ガラ紙に、摩耗して丸くなった活字と、いくらか鮮明な中古活字を交えて、不定期刊行のタブロイド誌があった。主幹、記者、広告とり、総て独りでやっていたのが、島山某なる肥大漢、柄も判らぬあかだらけの着流しで、常時安酒の匂を身につけ、筆は中々立つ。主なる営業は、脅喝専門で、選挙の時書き入れ、その合間合間で、呑み代にも事欠く。そこへたまたま、高商の若手講師の二人が、錦座筋向いの洋食屋の女を巡って、恋のサヤアテとなる。赤新聞は、直ちに手廻し輪転器をフルに回した。然しその営業目安はちと見当が違っていた。たかが外語出の青二才共をなぶった処で、市会議員、地方政党、市当局の役職などからの包金の様には参らない。それどころか、一銭にもならない恐れもある。それでも、かの肥大漢は、しきりに筆を曲げて、アルコトナイコト、現今のガキ用週刊誌の如くに書き出した。その真因は、主幹自身が、その東京下りと称

する婦人に充分な下心があり、これが、汗臭い赤新聞やと、外国語の先生たる白人インテリを秤りにかけて、インテリの方になびいたな、という怨恨から出たものであった。書かれた高商の先生の方は、真因とは関係なく、ただ弱り果てた。今まで泥くさい田舎議員が、やれ手宮の淫売上りを囲ってるとか、どこそこの駅長が、札幌の北門館で、臨検に会ったとかいう記事ばかりの処へ、フランスだのドイツだのの先生がたが、どうこうしたという、珍らしいゴシップだから、発行部数実に五百部という「本誌」も大いに読まれる、而も、連載形式をとり、第二回目までは思わぬ伏線を述べ、あとは次号を、と販売政策ばかりなく、野次馬に気を持たせた。書かれる側の困惑、察するに余りあり。この時、かくいう拙者は、妙な因縁から前記関楓声門下の秀抜弁士、五条楓声なる、当時の金で月給二百円という男と義兄弟の盃を交わした間柄であった。この弁士連の社会は、役者、浪花節稼業に属するもので、ヤーサマ(香具師)、ドウカツヤ(活動屋)といったところ、当時の夜は、ヒゲの俵屋、これは一匹狼、全市の春色を取りしきる十文字一家系統、そんなあたりがはびこっていたのだが、赤新聞屋も無縁ではない。肥大主幹氏とは、既に大正琴の音色わびしい縄のれんなどで、カントン合照らす仲間であったことだ。

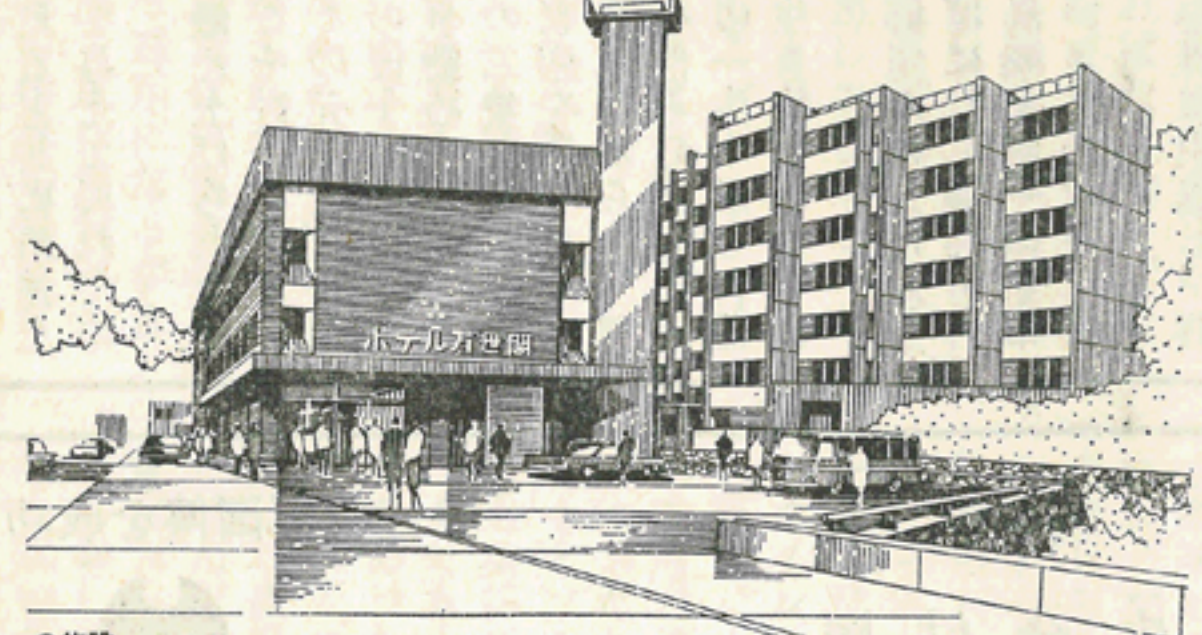
る地方選挙も近いという時季で、他に有望なタカリの種は沢山、やめろというのが、北方文芸(初代)なる薄い雑誌を出しているからには、同業者でもある。「ヨシヤ、やめた」と彼は叫び、次号からはピタリと錦座前の夜嵐談は一字もあらず、「先生、あれは僕が、やめさせておいた。御心配なく」と広言を伝えておいた通りに終った。別に恩にも着せず、恩に着るともいわなかったが、以来、いくら授業を欠席しても、吾の点数は微妙なる五十八点を維持した。当時の師弟の情愛は、いつてもれば泣かせるといふものではあるまいか。

拾うという発想になつていた。吹雪といえは、公園通りのフナミヤの二階が、洋食堂、エプロンの紐を、背中に纏結びにした女の子が、時には客席に座ってビールを酌した。細面と丸顔の二人が、収入が多からとて、折から漁師景気の釧路の某所へ鞍替するといふ。そんな果ての果てまで行かなくても、何とかならんものなのか。黒い機関車の夜汽車が、釧路へ向うのを見送りに行ったら咆える吹雪に発車の汽笛も聞えぬ歩廊は、灰色の雪片が渦巻いて、目も鼻もあけられない。あの頃は何を喰っていたのだったかな。「たこよし」のおでん「モンタナ軒」のカツとテキとオムレツ「大道」のつお焼き、春先きの鯉、何しろ一尾が一銭もしないので、下宿屋では三度三度これを出す。熱い素焼きに生醤油。美味いには美味いが、一週間で降参する。然しこれが一ヶ月は続いた。アセチレン灯の下に路側にゴザを敷いて盛りあげるピクトリヤ種の深紅苺、これをシャベルで掬って、これまたタダ同然、大きなカン袋に一と抱え以下は値段にならぬから売らぬ。



# 登別万世閣 新装オープン

湯の町登別にデラックスホテルが誕生しました。



洞爺万世閣のチェーンホテルが登別温泉に新しく仲間入りします。本館鉄筋4階新館鉄筋7階建。お部屋から望む庭園と溪谷のたぐずまいは静かな温泉郷の風情があふれることでしょう。

★ギリシャ風大浴場  
 古代ギリシャ風壁画を使って豪華な古代文化の雰囲気をお楽しみいただけます

★純和風のサービス  
 お食事はすべてお部屋へお届けし、家庭的なサービスでおくつろぎいただけます  
 お料理は万世閣自慢のひとつ、季節の味、郷土の味をぜひどうぞ

- 施設  
 (新館) 鉄筋7階建  
 (本館) 鉄筋4階建  
 平面建坪 920㎡  
 総建坪 4,810㎡  
 客室 70室(和室68 洋室2)  
 宴会場 大小3室  
 収容人員 200名  
 浴室 大浴場1(ギリシャ風呂)  
 婦人浴場1 家族風呂8  
 その他 売店(土産品など)  
 喫茶、ダンスホール

ホテル (政府登録予定)  
**登別 万世閣**  
 電話 登別(01438) 4-2266

●チェーンホテル洞爺湖万世閣・洞爺湖第一ホテル●札幌案内所(25)8570 TLEX 932-379



私の健康に就いて

高橋 徹 男 (大三)



までの成育盛なる間にガッチリと鍛え上げられた身体は貯蓄の元本のよ...

私は瀬戸内海に浮ぶ島生れである。島は四つの島に囲まれ四時波静かに気候温暖なる健康地である...

商業学校に進学してから下宿先から学校まで四キロに近い道を往復して三ヶ年徒歩にて通学して別に苦...

商業学校を了えて、住友別子銅山に就職中の三ヶ年山坂を下りしての通勤は厳しく殊に冬期雪多く凍り止...

別子山で苦き経験を持つ私です。あの天狗山から烈しく吹き下す吹雪のため一歩も前進出来ず、坂の中途で立往生して寒さに震えながら苦しんだのである。あの当時を思い浮べ...

て感慨無量である。このように山坂登っての通勤通学は、知らず知らず、私の体力を鍛えたと共に精神上に於てもよき試験を与えて呉れたのである。

斯くして身心共鍛え上げられた身体より生れた健康こそ貯蓄で例えた所謂元本である。この元本である健康な身体を以てその後十数年のサラリーマン時代を無事勤め上げた上、自営に入り、所有の二隻の機帆船を失い又戦災により家産を焼失する二回に渉る大痛手を受けながらも、郷里の不振の木工所を自らの経営により立上らせる等私の一生中最も苦難の時代を戦いつつ生き抜いたのである。

更に終戦と共に郷里の村長に選任され、再選任期半ばにして隣島町村と合併の上、県下島嶼部唯一の新市を生誕せしめる等いささか村政に寄与したのである。

その後新市誕生を機に引退し、終着駅神戸市に復帰後、無為の裡に十数年は過ぎ去ったのであるが、その大半は布引山市ケ原に、毎早朝登山、自然の風物に親しみながら悠々自適裡に過して来り今尚健在である。これは全く健康の賜であり健康こそ私の足、即ち徒歩により生れたものといえ、単に健康は肉体の活動のみによるものではない。その半ば以上が精神より生まれることも忘れてはならない。たえず将来のビジョンを描きつつ生活してこそ、日常生活ある行動となり、それにより健康が生れるものと信ずる。以上私の健康に対する体験の一端を述べて筆を擱く。

我田引水の説

一毛髪にひとしほり 木村章三 (昭三)

日常身辺に起きるおそれのある危険のうちで交通事故以上に用心しなければならぬものは、女性の容貌についての批評であろう。それを犯した男はどこかで女難を蒙ること必定である。女難ときけばアリガテと早合点してはこまるのである。も一つの悪い方の御難で所謂総スカンを食う方なのである。男の頭髪についてもそれと似たようなものがあるように、男性が禿頭にどれほど悩んでいるかは加美之素の社長が日本長者ベストテンに入ったり、塩野義のパンテーンが同社のドル箱であったりするのそのあらわれである。ところがそうゆう禁を犯した勇ましい男があったことをここで紹介する。その男の名は室谷邦雄、昭和十三年卒の緑丘人である。幸い彼は日本銀行に籍を置く人だからよいもの、市中銀行の幹部がそのようなことを公けにしたら、どれだけ取引を失ったか計り知れない。だが彼は頭髪黒々とした万年青年であり、益々万人から愛されるであろう。

昭和四十三年六月十五日、所は伊豆箱根温泉赤尾ホテルの大玄間、集まるもの七十余名、妻君、二世引連れての三十年ぶりの会合全国クラス会でのことである。宴たけなわにして記念写真を撮る段になったが室谷

君の発案で先ず禿頭の記念写真とゆうことになった。次いで「白髪頭もこれに加われ」とゆう。室谷君の説明に曰く「皆さんアタマがハゲたり白くなったのはみな性的ロヒをした証拠であります。この写真はそういう意味での記念写真であります。」そこで当夜集まったものうち一番美しい白髪を誇っていた河井弘之君が「そうゆう因縁をつけられるのは不当である。自分のように学生時代から女色をつつしみ家庭の調和を心得として来たものにとつてその説は解せぬ、敢て抗議をする次第である」というのである。室谷君はと見れば「サア、今度は髪黒の黒い若者集合!!」とこれまた若さの記念写真とかで真向挑戦的である。

小生は医学について特に研究したわけではないが、巷間間違ひ伝わった医学知識によって貴重な人生をロスしている向きが少なくないことを思つて、この問題について若干の考察を表明して置きたい。私の発表といつてももとをただせば権威筋の説の請売りが一〇〇名なのであるから、小生の思い付きの珍説と異つて充分に信頼するに足るものである。(一)若くして禿げる人ほど性力絶倫である。

理論は紙数を要するから略するが要するに高級動物には男女双方とも必ずして男性ホルモンと女性ホルモンと両ホルモンの分泌がありそれが均衡を保っているようである。男性は当然に男性ホルモンの分泌の方が旺盛であり、女性は女性ホルモンの分泌の方が男性ホルモンのよりも旺盛である。男性ホルモンの特色は性

衝動のエネルギー源であり、女性ホルモンの特質は性衝動のブレーキ能力である。男性ホルモンの分泌が過剰になれば頭が禿げる。草花に肥料をやりますと、同じ理屈である。女性ホルモンが利きすぎると性衝動が弱くなり、頭髪が細くやわらかく日本人では黒く艶やかになる。だから禿げ禿げが立派になるのである。げに若禿げこそは暴走しようとした車に急ブレーキをかけた証拠であり節制精神のあらわれである。だから今後禿面積の拡大にブレーキをかけたい人はゴルフをやるか、奥様サーブに精励するかいずれにしてもホルモンに全精力を打込まねばならない宿命を意識しなければならぬ。女性ホルモンの注射がブレーキになりそうもないことは実験済みの由であるから当分の方法しか良法がないのである。要するに浪費したから禿げたのではなくて出しおみしたから禿げたのであることがわかってもらえればよいのである。

(二)年老いて髪黒きは男性ホルモン欠乏症に近し。前説の通りであるから髪黒くやわらかにしてハンサムなる男性は往々にしてその夫人から欲求不満を訴えられることが少なくない。それは男性であり作ら男性ホルモンの分泌が少なくブレーキがかかりすぎているからである。この対策は男性ホルモンの注射補給という理屈になるがまずいことには副作用・反作用が伴うことが多いので医者の指導を受けなければならぬ。ついでながら女性のあまりに性的に消極的なのは男性

ホルモン注射で直ちに改善回復する副作用も反作用もないから心配無用で素人療法で服用しても安全の由である。ただしこの場合且それがブレーキをはずす方法がないのに奥様のブレーキをはずしたらよけいに始末がつかなくなるからよく作戦を考えなければならぬということにもなる。

(三)白髪はどうか。

白髪とアレとの関係も室谷説の如き単純なものではないらしい。太い毛髪の人ほど白くなりやすい。ということとはたしかである。親ゆずりというか先天的なものである。京都の友禪染の職人のように水で足を冷やす職業の人は白くなり易いともいわれる。女性にも白い人が多いからホルモンとの関係は少ないであろう。心配すると白くなるともいう。よく考える人も。過日司馬遼太郎氏に会った年も若く顔の艶も良いのに黒一本もない純白であった。アインシュタイン、千田是也、なかなかいいと思う。小生のはゴマ塩であるからあまり自慢にはなりそうもなく、誰がいったか知らないが、ロマンスグレイとはよく聞いてくれたものだ。以上室谷説におびやかされて反省しなくてもよいことを反省しかけた向きもあつたような気がしたので、世の緑丘人のためにもと思ひ、漫筆に托した次第である。いいかかったことはただ一つ、頭が黒いのは撰制の結果だなどと考へて、結構なものを出しおみして、奥様方にご不満を与えないことが大切だということである。つまりこれをもって我田引水の説という。

万国博を成功 EXPO'70 させよう 総合病院 日本生命済生会付属 日生病院 大阪市西区立売堀南通4-11 TEL 大阪 (06) 532-1561(代)



# プリマスの夜

68-6-30

ここにアメリカがある

若山 永太郎 (昭一三)

アメリカに行ったからには、是非とも訪ねてみたいと思つていたのがプリマスである。プリマスといつても、知らぬ方が多いと思うが、ポストンより、ケープ・コードの方向に約五、六十哩離れた海岸で、一六二〇年十一月、有名なメイ・フラワー号の、プリグリムファミリーズ(清教徒)が、初めて上陸した地点である。

六月二十四日九時、ニューヨークラガーデア空港より五十分、十時頃にはポストン・ローガン空港に着いた。ポストン見物は明日にして、ローガン空港よりレンタカーで一時間程でプリマスに着いた。日本にいる時想像していたプリマスとは随分違つていた。「ここにメイフラワー到着」の石碑ぐらゐが建つていて荒涼たる漁村を想像していた。あにはからんや、全く楽しい観光地になつていた。いかにも落着いた、きれ

いな空気のすみきつた避暑地であり海水浴、ヨットの出来る豊かな田園風の地でもある。「メイ・フラワーII(2世)」も見物した。よくもこのような小さい帆船船で2ヶ月の期間に亘つて大西洋の荒波を乗切つてきたものと思う。「二六二〇」と書き置かれた有名なプリマス・ロック(岩)も見た。海岸沿いのSEA・FOODレストランで貝料理の昼食をとつた。それがとっても美味しかった。

夕方モーターに落着いた後、夕食に出掛けた。プリマスでの比較的高級と思われるレストランをさがして入つた。すでに数名の先客があり、食事をしていた。私達も席に着いた。廻りは老夫婦がおり、高校生のクラス会風の会合があり、一家あげのデザイナーがあり、それぞれテーブルを囲みながら、ドイツ風のムードの中で楽しそうに食事をしていた。私共が注文したロブスター(えび)の料理が出て来た。カラを割りながら食べていると、右の隅の方の

一家総動員のテーブルから、低い音で「ハッピーバースデイ・トゥ・ユー」の歌が聞えて来た。とたんにその場の各テーブルの人々が一斉に大きな声で「ハッピーバースデイ・トゥ・ユー」と合唱した。何ともいえない楽しくなごやかな光景であつた。思わず私共も合唱した。アメリカには、こんなところもあるのである。

ロブスターの料理を食べ終つたところ、隅のバンドが音楽を演奏し始めた。やがてその前の小さなダンス場で食事をしていたお客の夫婦が次々と踊り始めた。其の踊りたるや、全くそれぞれ我流であり、勝手な踊り方である。しかし如何にも楽しそうである。老夫婦たちがそれぞれの個性を生かしたダンスを踊っているのがある。本当に楽しそうである。メイ・フラワーで上陸したプリグリム達、それぞれこうして踊つたのではないだろうか……私はここにアメリカの極めて重要な一面を見た様な気がした。音楽のルール、即ち音曲には合わせているが、踊りはそれぞれ全く勝手である。その踊っている時の男達の元気で楽しそうな顔、老夫婦達のそれに合わせる様な得意気で、而も楽しそうな顔が、私の脳裏に強く焼きついた。

私は一ヶ月に亘り、アメリカを、駆け廻つて、まだ見る事の出来なかつたアメリカの一面をプリマスのレストランで見ることが出来た。何かしら、私の胸のつかえが降りた様な気分になり、ホクホクしながら、今夜の宿、ハッピー・ホウロウ・モーターに帰つた。

## しみじみ味う

### Why not ask ?

デイトンにて

若山 永太郎

よくわれわれは英語をしゃべれるとか、しゃべれないとかいう。ところが今度アメリカに来てみて、英語をしゃべる即ち話すこと以上に聞くことが如何に難しいかということに痛感している。

手まね、足まねも加えて、こちらの意見を相手に伝えることは、それほど難事でない。なんとか通じさせることが出来る。ところが先方のいうことが仲々聞きとれない。アメリカで半月出来る限り朝夕テレビに耳をかたむけ、飛行機による移動の時など、アメリカ人の隣りに坐つてこちらから話しかけるように努力している。

お蔭で食事を注文したり、トイレの場所(アメリカでは余りトイレとはいわれない。男性用は Mens room という。或は rest room という)をたずねたり、日常の最少限の会話にはあまり、不自由を感じなくなつた。ところが不用意にしている時、先方からペラペラと話かけられるとどうも聞きとれない。

以前或る人から聞いた話であるが、神戸女学院では、会話の時間には、初めのころは、全く教科書を使用しない。先生が教壇に立ってペラペラと話して生徒に聴かせ、耳の訓練から始めるというのであるが、其の目的がわかるような気がする。

私の小樽高商時代の会話の教授であつたマッキンノン先生の教科書が「Why not Ask ?」という名称をつけておられた。即ち、コチラからドシドシ話しかけなさい、そして先方からの答を聞きなさい。という意味だと思ふ。即ち、コチラから話かけた場合には、先方からの返事の内容が或る程度わかるから聴取り易い。従つて耳が慣れ易い、ということではないだろうか。

マッキンノン先生の「Why not Ask ?」の意味をアメリカに来て、あらためてかみしめている。これからも、アメリカ人に話しかけるように心掛けるつもりである。

### 〇部限定

キタン・ペン・クラブ刊、四四六頁(四六版)

随筆 三七編

紀行 二編

挨拶 二編「新旧校長(名古屋高商)の都々逸」初手は冗談、中手は義理よ、今じゃ互に実と実」を引用

渡辺先生に捧げる自作の都々逸を誌している。

実がありやこそ見事に育つ 主が

手植の姫小松

研究 一編

研究 七編

終に研究余話(新聞紙報導)、學術研究著作目録、年譜が附せられて

いる。

因に此の本には頒価三五円と誌したのと二種類あることを併記して置く。

於白瀬廬舎

# 恩師考

## 渡辺龍聖、小原亀太郎両先生の随筆集

神部 健之助 (大一一)

- (1) 渡辺龍聖先生 乾甫式辞集
- (2) 同 七福神と人生
- (3) 小原亀太郎先生 化石の微笑

大西猪之介先生の随筆は、全集の中に含まれている。然し他の先生方は学術書は兎も角、随筆めいたものは殊更に尠く、入手は仲々困難である。筆者は二、三十年経つて探求しているが、前記三冊をやつと購入し得た。

此等の本から両恩師の人生観を察知し得て、多幸としている。今各冊に就て解題を試みる。

- (1) 乾甫式辞集の奥附は昭和四年九月五日発行
- 名古屋高等商業学校
- 名古屋高等商業学校能率実践工場印刷と記している中で、勿論市販ではなく、四六版二〇二頁で、はしがきに、渡辺先生は
- 「本式辞集は、予が商業教育に従事せし以来の祝辞、告辞及び之れに近似的るものを集めたるものなり。」と記し
- 一、小樽高等商業学校十周年式に於ける式辞
- 二、小樽高等商業学校に於て第二回入学生を迎えて、(附社交十八則)
- 三、小樽高等商業学校に於ける卒業

### 式告辞

- 其一 大正三年三月 第一回卒業式に於て
- 其二 大正四年三月 第二回卒業式に於て
- 其三 大正五年三月 第三回卒業式に於て
- 其四 大正六年三月 第四回卒業式に於て
- 其五 大正七年三月 第五回卒業式に於て
- 其六 大正八年三月 第六回卒業式に於て
- 其七 大正九年三月 第七回卒業式に於て
- 四、名古屋高等商業学校開校五周年式に於ける式辞
- 五、名古屋高等商業学校に於ける卒業式告辞
- 其一 大正十三年三月 第一回卒業式に於て
- 其二 大正十四年三月 第二回卒業式に於て
- 其三 大正十五年三月 第三回卒業式に於て(概要)
- 其四 昭和三年三月 第五回卒業式に於て(概要)
- 其五 昭和四年三月 第六回卒業式に於て(概要)
- 六、昭和開元第一元旦の式辞
- 七、聖上陛下に奏上せしことば
- 八、昭和三年戊辰の春を迎えて
- 九、直轄学校其他に於ける祝辞
- 其一 大正十五年三月 和歌山高
- 等商業学校第一回卒業証書授与式に於て
- 其二 大正十五年十月 高松高等商業学校開校式に於て
- 其三 大正十五年十月 横濱高等

### 商業学校開校式に於て

- 其四 昭和二年
- 一、淡沢子爵米寿祝賀記念出版の折柄に
- 二、首相招待の午餐会席上に於て一同を代表して
- 其五 昭和三年六月 名古屋市立第三商業学校新築落成式に於て
- 其六 昭和三年十月 高岡高等商業学校開校式に於て
- 其七 昭和三年十月 愛知県立第一中学校五十周年記念式に於て
- 其八 昭和三年十一月 彦根高等商業学校五周年記念式に於て
- 其九 昭和四年十一月 岐阜高等農林学校植物園設定式に於て
- 其十 昭和四年二月 中京商業学校野球場設定披露式に於て
- 十、小樽高商開校当時の思出
- 十一、補論
- 其一 商業経済の帰趨としての世界経済
- 其二 産業振興と教育の改善が書かれている
- (2) 七福神と人生——長者長命の秘訣
- 昭和八年九月十五日発行、南光社刊、定価参式銭
- 序説 本編上梓の由来
- 一、三サル長命論
- 二、三モチ長者論
- 三、七福神是福長者長命論
- 四、七福神是福と人生哲学「追て書」のこと
- 附録 アリストファネス作「福の神」抄訳
- (3) 随筆集 化石の微笑(小原亀太郎遺稿)
- 昭和卅三年五月一日発行、一五〇







# 僕の書齋



室 谷 賢治郎

小樽商大名譽教授 札幌商科大学々長



僕には書齋が三つある。と書き出すと、いかにも豪勢に聞えるかも知れないが、もともと本を読んだり書きものをしたりする部屋が書齋である限り、書齋は一つと決まったものでもあるまい。書齋の人と言うと、英語では an academic man だから、学校の研究室は正しく書齋に他ならない。また書齋には閉じこもるのが本当で、遊休施設としては書齋は無用の存在であろう。

は僕の住宅内にあるもの、二つは現在の勤先である札幌商科大学の学長室それ自体、三つは小樽商大の名譽教授研究室である。

先ず住宅内にある僕の書齋は、札幌東郊の下野幌団地に昨夏新築移転した二十二坪半の家屋の西北隅の三坪半を占めるPタイプ床仕上げである。玄関を入って右手の扉を明けたところが、僕の Studio というか、atelier である。西向の硝子窓の前面は、自贊の洗心園で、小樽在住のときはその面積僅かに十坪の箱庭式に過ぎなかったものが、今は数十坪のゆとりがあり、この春、造園師に頼んで一帯に緑の芝生を張ってもらった。竹の四つ目垣に疣取樹の苗木を植込み、垣の内側には、桜、躑躅、石楠花、楓、白樺、木蓮、ライラックなどを取り合せ、水仙、チューリップ、薔薇、紫陽花のとりどりの花を咲かせる。この窓際に両袖大卓子と椅子とを置き、北向に造作させた書棚と相対する。「居は気を移し養は体を移す」とは中国の孟子の言であるが、僕の新居では書棚に並べる図書の種類によっても、一段と気を移すことに工夫してみた。つまり、家庭は憩の場であって仕事の間でないとするならば、住宅内の書齋には専門書を多く置かず、娯楽趣味に関する図書をむしろ優先的に備えるべきであるとしたのである。試みにこの書齋内の蔵書の主なものを摘記してみよう。

洋書の中では、エンサイクロペディア・ブリタニカ(インデックスを含めて全24巻)、一九二九年文部省在外研究員としてドイツ国で書留中にちついで読書執筆することは許されない。併し禅宗の教える随所自主の心境を味得すれば、学長室も立派な書齋でなければならぬ。

終りに、僕の書齋としての小樽商大名譽教授研究室であるが、四十有余年勤めた緑丘学園で、乏しい財布の中から買集めた内外の専門図書が室内の空間の大半を占めている。言ってみれば僕の書庫でもある。併し有難いことに、茲には手を洗う設備もあり。セルフサービスでお茶を飲める仕組になっているので、僕としてはできるだけだけ時間をつくって出向くように骨を折っている。緑丘の古い建物がつきつきに取り崩され、代って新型の瀟洒な建築が現われ、顔馴染みの教官が疎らになっても、僕と緑丘との絆はゆめ緩むことではな

求めた Handwörterbuch der Staatswissenschaften, Vierte Auflage(補巻と共に6巻)がある。和書の中では、平凡社の世界大百科事典23巻、同じく国民百科事典7巻、講談社版の世界の美術館(未完)、同じく世界美術25巻、小学館の家庭の名曲全集世界の音楽(未完)、岩波講座日本歴史23巻、雄雞社の若山牧水全集13巻などを揃えてある。いわゆる稀覯本は、生憎と持ち合せていない。先年愛知県犬山市の明治村を訪れたとき、村内に保存されている鶴外・漱石邸で明治村版夏目漱石著「吾輩ハ猫デアル」を一本求めて帰ったのが珍貴といえるかも知れない。これは「猫」の原本——旧菊版、天金、舶来洋紙を使用したアンカット本で上中下三巻の豪華本、当時日本の書物装釘の革命本と称された——を縮刷版にして、上巻のカバー、挿絵などそっくり取り入れ、アンカットまでそのままにし、特にペーパーナイフまで添付してある珍品である。それから大正六年、僕が東京高等商業学校へ入学した年購った若山牧水・若山喜志子共作の歌集白梅集の開扉に「酒飲めばちからいささか身にかへる身としおもふにたへられなくに牧水」と毛筆による直書き書があることは、誇示することを許されようか。ちなみに、この僕の書齋には幾枚も額を掲げて居るが、中に直書き書を白樺の皮面に白く浮き出させた手法の「白鳥はかなしからずや空の青海の青にも染まらずただよ」の額のあることは見落されてならない。

呼びかけに応じ訪ねてくれる客がおり、千来万客とまでは至らないけれども、楽しいことである。来客はデスクのある居間に通す慣例にしているが、妻は書齋を利用してはどうかと言う。ところが、僕の書齋は右に記した様な整備された一面、卓上を見るとインク壺、灰皿、印形函、パイプ立、スタンド、その他読みかけの図書、書きかけの原稿用紙、紙筒、紙袋、週刊誌、月刊誌などが雑然然然と同居している半面があつて、うっかり来客を招き入れるどころではない。その都度整理するとなると、進行中の仕事が妨げられて非能率になる。それで僕は妻に書齋は制作中のアトリエの如きものだから、来客とみだりに足を踏み入れてはほしくないと言いつつ、如何にか書齋に意識しつつ取り散らかしてある品々を断りなしに整頓され迷惑千万と相手詰責する人物のことを描き出してあつたことを、思い起こす。独占不可侵の書齋への闖入者は夫と孫とであると、加茂儀一さんが嘗て新聞に書いていた。ましてや、僕の書齋の事典類の棚の下に、巷間のパーにも滅多に置いてない蠟の数々が列立している実態を客に探知されれば最早どうにもならなくなるではないか。

## 緑丘通信

☆道科学技術審議会(杉之目晴貞会長)は七月三日、道庁内で総会を開き四十三年度道科学研究費について審議、審議会の答申した指定課題に小樽商大、伊藤森右衛門教授「国際化時代の本道経済の役割」も挙げられた。

☆アメリカ往復の洋上で英会話と国際教養を訓練するという「太平洋大学」の第一船マルガリータ号(一万トン)が八百人の参加者(小樽商大生も参加)が七月三日東京晴海埠頭から船出した。評論家大宅壮一名譽

☆岡田武松伝(岩波書店発行)は最近の傑出した伝記として定評がある。この書の中に前学長加茂儀一先生が中央気象台附属測候技術官養成所の英語の教師として大正十四年、専任教官として採用された当時の模様を象象大学校友会誌から引用されて記述され、「大部分が理科系の教官の中にあつて、加茂の幅広い識見は、学生の人格形成について専門の英語以上の大きな教育効果を上げた。岡田を尊敬し、その感化を受けた加茂が、岡田に劣らないことを期して、愛情をもって学生に接したことが、何にもまして物を云つたのであろう」と記載されている。

# SはQに優先する

わが社は「最善の奉仕」をモットーにSRQ方式による営業の推進をはかっております

S=SERVICE(奉仕)  
R=RESULT(貢献)  
Q=QUOTA(割当)

第1……お取引先に奉仕(SERVICE)する

第2……その奉仕がお取引先の業績・成果

(RESULT)に貢献する。

第3……それにより初めてわれわれの割当

(QUOTA)が達成される。

わが社の使命はお取引先の技術革新・生産性向上・合理化に貢献することであり、SERVICEを第一義とし、SはQに優先するを合言葉といたしております。

## 丸嘉機械株式会社

大阪市東区豊後町41 <(941)-0271>

専務取締役 若山 永太郎 (S-13)

常務取締役 高野 憲一郎 (S-13)



緑丘  
余話

緑丘会理事長杯争奪ゴルフ大会  
六月六日 午前十時半 スタート

大正九年卒業の武内浩一郎氏（ハン

第二十八回緑丘会総会に際し恒例のゴルフ大会が開催された。緑丘人の親善を大いに深めるため理事長杯をめぐって争奪戦がくりひろげられた。

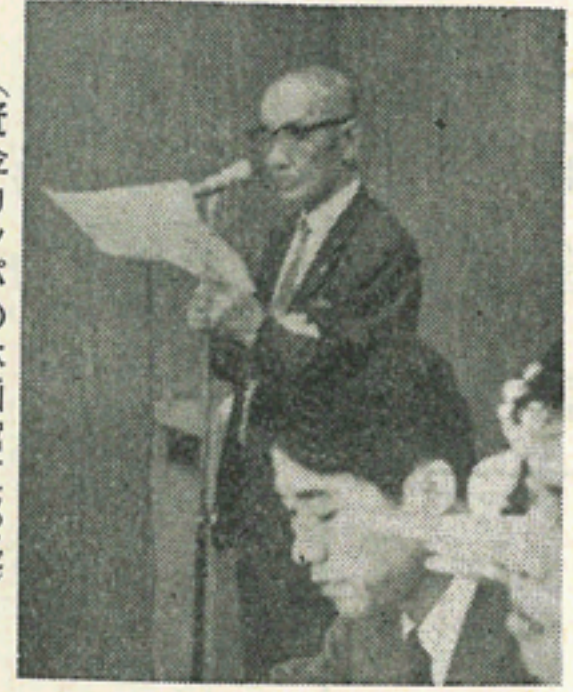
(日時) 六月六日(木) 午前十時半  
スタート  
(場所) 霞ヶ関カントリークラブ  
(競技方法) 西コース、十八ホール  
メダルプレー

一、入賞者及成績  
競技参加者三十六名。第一回卒業(大正三年)の下吹越栄吉氏の参加が目立つ。ハンデイ二〇で実にカクシヤクたるプレーであった。

- 他支部から次の三名が馳せ参じた。  
小樽支部 大十四 杉江 猛  
札幌支部 昭十六 植田英次  
名古屋支部 〃十二 森本秀勇
- 好天に恵まれ新旧卒業者入り乱れ健斗の結果次の通りの成績でした。
- 優賞(昭十二) 森本 秀勇 六七  
二等(昭七) 谷本 慶隆 六九  
三等(昭八) 能沢 正義 七〇  
四等(昭四) 佐藤 清定 七一  
五等(昭十一) 中尾 弘 七二  
六等(昭十四) 杉江 猛 七三  
七等(昭十四) 鈴木 茂 七三  
ブービー  
(昭七) 大島泰次郎 九三  
過日のグラント・セニア全国大会  
第一日目ベスト・グロスを出した

来年夏に新校舎

地震で崩壊の函館大学



(資金カンパの林函館支部長)

去る六月東京・第二十八回通常総会で地震で崩壊の函館大学(野又貞夫大一二)に対する資金カンパを林源太郎緑丘会函館支部長が訴えたが、その後北海道新聞(七月二十三日)の報ずるところでは、来年夏に新校舎のメドがついたとの事である。

「五月十六日の十勝沖地震で校舎が崩壊、全国の注目を集めた函館大学(野又貞夫学長)は、国や道の融資が認められ近く新校舎再建に着工、

デイ)九にて参加したが当日は世話を役で気ぜわしかったため(ネット)七七で十四位に止まった。

優賞カップ寄贈者の佐々木理事長は、さすがケンジョウの美徳を發揮、参加者一同に敬意を表された。

選ぶ予定。  
山下設計事務所は、すでに同校の敷地五カ所をボーリング、現在使用している新館の真向かいに建築することに決め設計中。新校舎は二階と三階の二むねで二階建てが管理部門と研究室になる。面積は被災校舎とほぼ同じで約四千四百平方メートル。詳細な設計は八月中旬に終わり、八月末にも着工、来年八月に完成する計画。崩壊校舎はこれと並行して取りこわすことになっている。」

松尾正路先生  
文集刊行会

退官記念にエッセイ集発刊

昭和四年以来四〇年のながきにわたって、母校のためにつくされた松尾先生のご功績にむかひつため、有志集って、これまで折にふれて先生が書いてこられた珠玉のエッセイを一冊の本にまとめて出版する計画を立てている。  
出版は九月中旬の予定であるが、多数の緑丘人のお申込みを期待する。

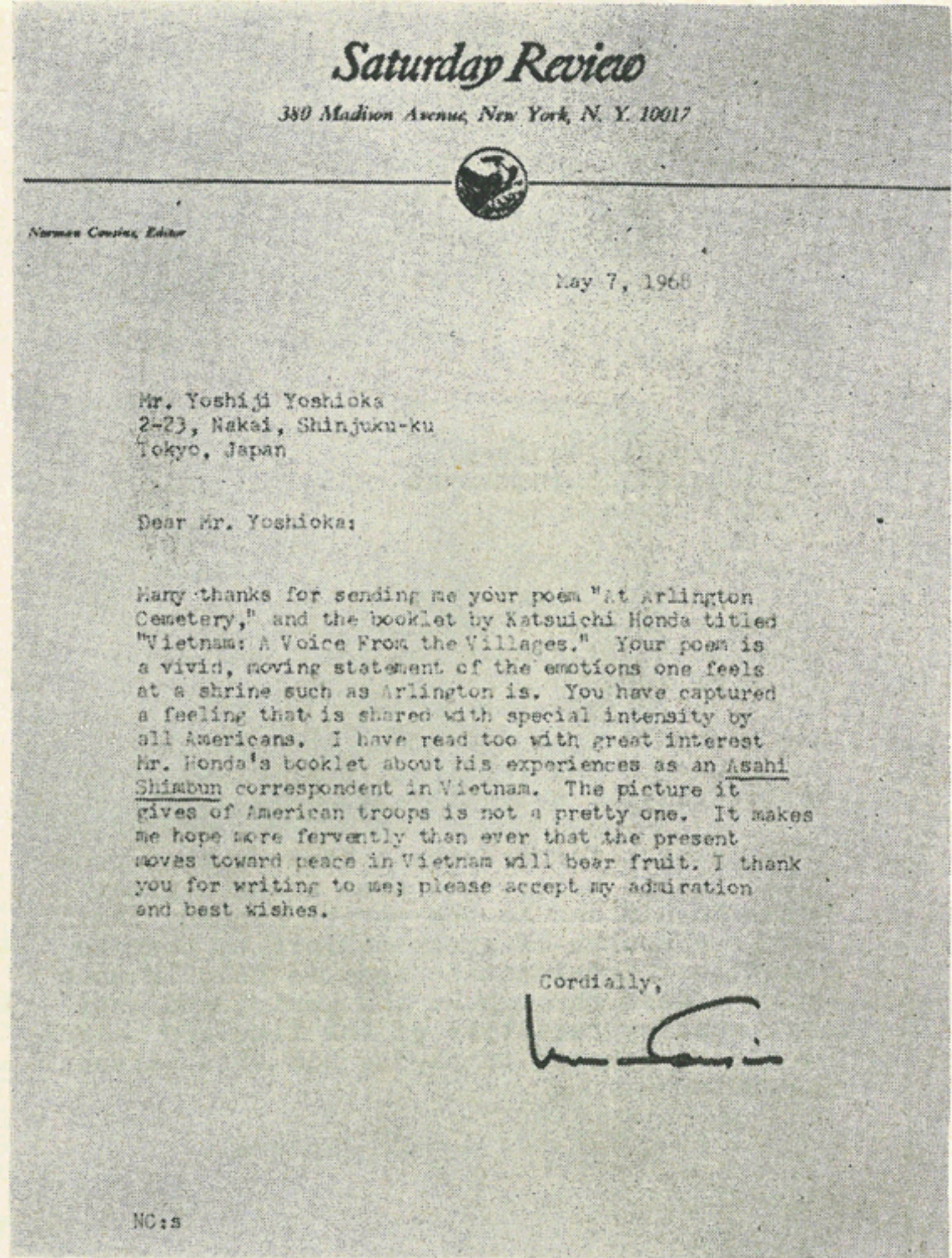
会費 一〇一、〇〇〇円(送料別に二〇〇円)  
申込みは左記又は各地発起人まで  
札幌市北三条西三丁目富士ビル内  
丸紅飯田札幌支店内  
松尾先生文集刊行会事務局

【発起人】

- 寿原九郎
- 池田昇一
- 林健三
- 伏見滋夫
- 藪目英三
- 若山永太郎
- 麻田四郎
- 武隈良一
- 桑原輝路

英詩一篇に対する

「ノーマンカズンス氏」「ロバート・ケネディ上院議員」の返信



ノーマンカズンス氏の手紙

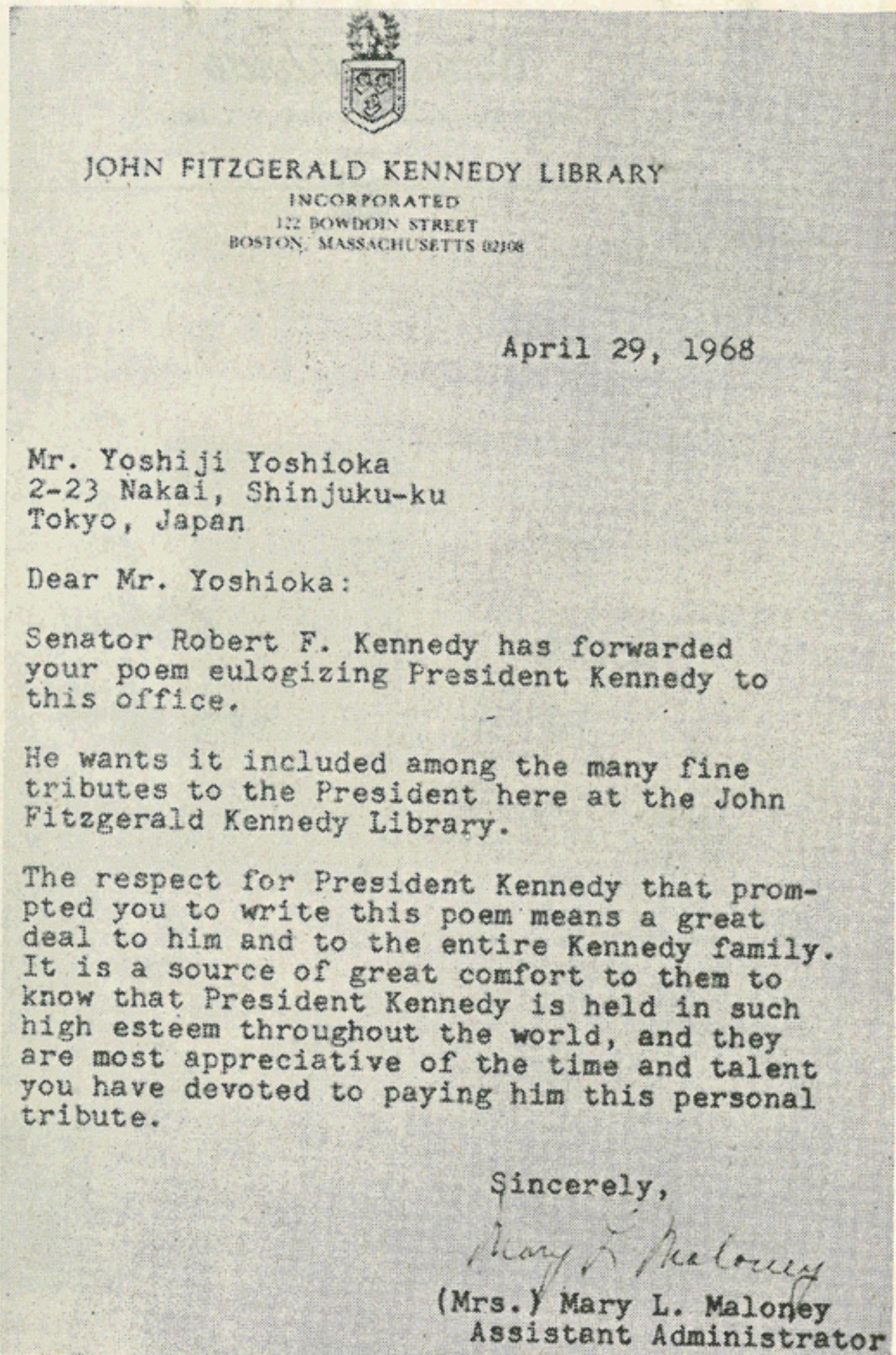
Many thanks for sending me your poem "At Arlington Cemetery," and the booklet by Katsuchi Honda titled "Vietnam: A Voice From the Villages." Your poem is a vivid, moving statement of the emotions one feels at a shrine such as Arlington is. You have captured a feeling that is shared with special intensity by all Americans. I have read too with great interest Mr. Honda's booklet about his experiences as an Asahi Shinbun correspondent in Vietnam. The picture it gives of American troops is not a pretty one. It makes me hope more fervently than ever that the present moves toward peace in Vietnam will bear fruit. I thank you for writing to me; please accept my admiration and best wishes.

Cordially,  
*[Signature]*

「英詩一篇」と題して、吉岡義二氏(大正九年卒、在東京、朝日ビル管理KK社長)の作品を、前号に紹介したが、この詩にたいする反響もなかなか大きく、一実業人の、世界平和への熱情が、高く評価されている(たとえば、某地方新聞に、この邦訳がのった由)。

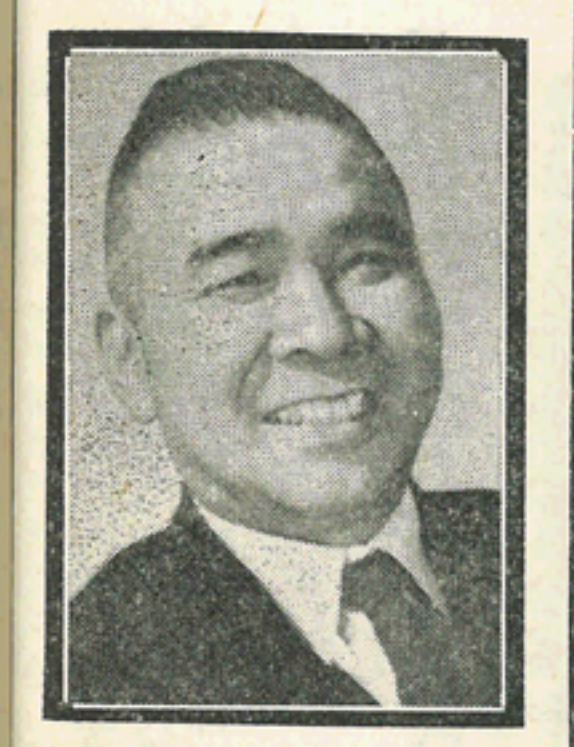
別掲写真は、吉岡氏が、この詩を同封しておくれた手紙にたいする、ノーマン・カズンス氏よりの返信、ノーマン・カズンス氏は、周知のとおり、米国の代表的知識人、文人、評論家、現在はサタデイ・レビュー誌の編集主幹、一九五三年には日米知的交流の連続講演のため来朝、ヒロシマ平和センター・アソシエートの会長、米国世界連邦協会の会長。著書のはんやくに「人間みな同胞」一九六一年、荒地出版社刊がある。なお吉岡氏は、この「英詩一篇」を、故ケネディ大統領の弟、ロバート・ケネディ上院議員にもおくり、同氏秘書をとおして、町重な札状が来たが(別掲写真参照)、その後旬日ならずして、ポップ・ケネディ、ロサンジェルス悲劇となった。緑丘人の世界交流のかなしきひとこまである。





ロバート・ケネディ上院議員の手紙

板倉誠君と  
東京十日会



故板倉誠君の葬儀は、君が生前から力をつくされた町内（八丁堀町会）の人々の手厚い協力によって盛大に自宅で執り行われた。  
小樽緑丘会の会員諸氏が非常に大勢会葬されたことも目立った。殊に十日会の中心的な人々がほとんど君の霊前に参拝されたのは、故人がいかに十日会との縁が深かったかを物語るものであると思われた。

北海道開発調査会

昭和四十三年六月七日（金）午前八時三十分  
銀座東急ホテル二階会議室

佐々木周一氏日本原子力船  
開発事業団理事長就任祝

去る六月七日（金）銀座東急ホテル二階会議室で、北海道開発調査会々長佐々木周一氏の日本原子力船開発事業団理事長就任のお祝があり、岡田春夫氏代表して祝辞をのべるとともに最近中国より輸入された「唐三彩女人像」を贈呈された。

佐々木理事長は、日本の原子力船が世界の何処の造船国よりも遅れており、これからの日本は原子力船で立たねばならない。及ばずながら日本のために尽力したいと世界の原子力船造船状態など数字を挙げて説明し若々しい声でその抱負を語った。

都市問題について語る

自由民主党都市政策調査会会長 田中角栄氏

佐々木会長祝賀会に引き続き、自民党田中角栄氏から都市問題について、「都市政策大綱」について要領よく約一時間に亘って語っていただいた。

講演要旨

☆はじめに

私は自由民主党の都市政策調査会の会長をしています。ご承知のように、この調査会は先ほど「都市政策大綱」の中間報告と、その付属参考資料を発表しました。  
都市問題はいまやわが国において緊急に解決しなければならぬ国民全体の課題であり、政治の焦点でもあります。したがって、この「都市政策大綱」は、都市政策を考える参考資料ともいべきもので、広く国民の討論参加を得、これから一年くらい勉強して、火急のすみやかに結論をだしたいと考えています。

☆東京は安心して住めない  
最近の激しい都市化の流れから推定しますと、二〇年後の日本は、全人口の八割が都市に住むことになる。つまり都市人口は二〇年後には現在の二倍近くに達すると推定されています。

私たちはいま東京に住んでいます。が、はたして住みよいでしょうか。交通難は激しくなる。地価は高騰する。空気はよごれている。

現在ですらこんな状態です。このままでは二〇年先は、まったく東京には住めなくなります。  
二〇年先の昭和六〇年には、国民総生産は四〇年の四・五倍にあたる約一四〇兆円の水準に達し、国民所得は四二年実績の三三万円から九〇万円に増大し、ほぼ現在のアメリカの水準に達します。  
こうなった場合、自動車に例をとりますと現在六七人につき一台の自動車普及率が、五人に一台となります。いまのままの東京の道路事情ですと自動車は動きません。  
また、東京、大阪などの通勤対策として、国鉄は第三次増強計画をたて、五カ年計画で約七千億円を計上、実施していますが、最終年度の四六年になっても、けっしていまの状態よりよくなりません。おそらくラッシュ時の車内は身動きもできないでしょう。

一〇年先、一五年先でなく、今日でさえ、もう東京は実際には安心して人間が住めるという状態にはないのです。東京には現在一千万人が住んでいます。更に日本橋を起点とする一〇〇キロ圏内には、実に二千七百万人が住んでいるのです。いま関東大震災と同程度の大地震が発生した場合、下町のある区では、三時間以内に、その八〇パーセントが焼失し、人間の生存率は僅かに三パーセント



挨拶する佐々木周一氏（日本原子力船開発事業団理事長）



都市問題について語る田中角栄氏





営業科目

日立商品	日立汎用機	日立冷凍機	電気工事
各種変圧器 各種電動機 各種動力機 各種電機器具	各種送電機 各種ポンプ 各種風機 各種機械	各種冷凍機 各種冷蔵庫 各種空調機 各種冷凍機	各種工事設計 各種配電設備 各種配電設備 各種配電設備

日本電気機器株式会社

取締役社長 天野雅司 (大正15年)

本社 大阪市北区曾根崎新地2の50 TEL (361) 8871~9  
神戸出張所 神戸市兵庫区西上橋通り1の1 TEL (56) 5306

鋼・鋳鉄の品質向上に!

Mo

高純度硫化モリブデン  
酸化モリブデン (ブリケット・クリンカー)  
フェロモリブデン  
カルシウムモリブデン

V

酸化バナジウム ("サン・バナケット"ほか)  
フェロバナジウム

Nb

フェロニオブ

Ti, B, Zr

フェロチタン  
フェロチタンボロン  
フェロチタン  
フェロジルコニウム

R.E

鉄鋼用希土類添加剤 (サン・メルト)  
鋳型塗剤 (サン・キャスト)

高級金属の立体経営

精鉄◇鉄鋼用酸化物◇工業薬品  
フェロ・銅・アルミ系母合金  
KSブロンズ



太陽鋳互株式会社

本社 神戸市生田区京町72 (クレセントビル 6階)  
電話 神戸 (33) 3281~8  
大阪支店 大阪市東区北浜3-5 (大阪神鋼ビル 9階)  
電話 大阪 (231) 7535~7  
東京支店 東京都千代田区丸の内3-2 (新東京ビル 8階)  
電話 東京 (216) 6041 (代表)

ントという恐べき数字がでていま  
す。せまい道路、密集する木造家屋  
と過密人口では、当然このような被  
害を予測しなければなりません。  
ちなみに、東京の街路面積率は一  
二パーセントですが、パリは二四パ  
ーセント、ニューヨークは三五パ  
ーセントです。東京の二三区内の道路  
は現在の約三倍にふやさなければ駄  
目です。三倍にふやすためには一  
平方キロの用地が必要で、一平方  
メートル五万円、坪一五万円として  
も驚くべき金額になります。これ  
は公共投資もできない。三九年の例  
でも道路を建設するための事業費  
は、東京でその六〇パーセント、大  
阪四〇パーセントを占めており、東  
京の最高では更にひどくなり、一億  
円の事業費のうち九千三百万円、実  
に九三パーセントまでが用地費に  
わたっているということ。これ  
は効率的な公共投資はできません。

☆都市問題解決の方策はある

わが国が高度工業社会に移行する  
のにもなって、都市化の勢いは、  
将来とも引続き進行することは必然  
です。したがって、都市政策は、単  
に過密、過疎にたいして一時的な対症  
療法に奔走するものであってはな  
りません。二一世紀をめざし、子孫に  
ひきつぐべき豊かな国土のあり方  
について明確な回答を与えなければ  
なりません。そのためにはせめて、こ  
れから二五年先、三〇年先をメドに  
して、しっかりした政策をたてて実  
施しなければとにかえしのつかない  
ことになりません。

ではいったいこの都市問題をどの  
よう解決するか、われわれはま

ンドン、ニューヨーク、ハワイ、イ  
タリアなどの世界各国の都市につ  
いて研究したが、わが国に適合する  
ものにはならなかった。どこの国  
も都市化現象にまいていて、ま  
た、東京のようなひどい過密都市も  
ない。したがって、日本独自のもの  
を立案、実施したらおそらく世界  
どこでも通用するものになるかも  
れない。

☆区画整理で都市を立体化

この区画整理は、いまならでき  
るのです。今日の時機をのがすとも  
駄目でしょう。それというのは現在  
まだほとんどが木造建築の家屋で都  
市が形成されているからです。これ  
がコンクリートの建物になりますと  
もうできないでしょう。だからいま  
ならできるのです。一つの区画の地  
主がそれぞれ二〇パーセントの土地  
を提供し、道路を広げる、建物は高  
層化、立体化するのです。地価が三  
〇万円も四〇万円もするとところで二  
階以上の建物を建ててはいけな  
い、といった馬鹿げた法律は廃止し  
まうのです。そこでこのような事業  
は民間の力でやるようにしなければ  
ならない。ただ、区画整理をやる場  
合、一時又空地が空っぽになる

ますから、これは地方公共団体の負  
担でやらなければならぬだろう。  
この点ではニューヨークの不良街区  
の改造事業は大いに参考になる。ニ  
ューヨークでは公社が不良街区を全  
面的に買収し、必要な土地整備を行  
なったのち民間開発業者に売却し、  
新しい街区の建設を行なった。事業  
に要した費用と土地売却費用との差  
額は、連邦が三分の二、市が三分の  
一の割合で補助金をだしている。  
総事業費に占める補助費の比率  
は一七%です。ニューヨーク方式を  
地価の高い東京で採用した場合公共  
補助の割合は、その二倍程度に  
なると試算されます。

したがって、都市づくりと住宅建  
設の推進力として、民間デベロッ  
パーを参加させ、資金供給などの援助  
を行なうようにしなければなりません。  
しかし、現状では①地価が高い  
②住宅需要者の住居費負担力が低い  
③金利水準が高いなどの条件で、こ  
のままでは民間デベロッパーが良質  
の住宅投資にむかう環境が整って  
いません。民間デベロッパーが都市づ  
くりに参加することができるよう  
合理的な環境を整え、低コストの住  
宅を大量に供給することができると  
いうためには、用地取得、事業  
資金などに関する関連法律を整備し  
なければならぬでしょう。  
この場合、なんといってもカギに  
なるのは土地問題です。都市づくり  
を短期間に実施するためには、権威  
ある「土地委員会」を設置して、土  
地に関する権利紛争を緊急に裁定す  
るようしたらよい。

また、土地の利用についてもまだ  
まだ検討する必要がある。都市發展  
の中で残されている余地は空中と地  
下だ。空中と地下を利用して立体的  
な都市をつくること。土地に対する  
私権は地上と地下におよんでいる  
が、地下五〇メートルも自分のもの  
だというのはおかしい。だから一定  
の深さを越える地下は、公共のため  
に活用する。この地下は都市計画に  
もとづいて私的な建造物を禁止し、  
将来の交通用地に確保するようにす  
る。こうすれば、地下鉄網が自由に  
はりめぐらすことができるではない  
か。地上の利用も考えなくてはな  
ない。地価が高いのに、一〇メー  
ル以上の建物を建ててはいけな  
い、というのはおかしい。今後は建築基  
法を改正して、例えば三〇メー  
ル以下の建物を建ててはいけな  
い、とふにしなければいけない。道  
路でもそうだ。いままでは六〇キ  
ロ以下というふうなスピードが制限さ  
れていたが、高速道路時代に入った  
今日では、八〇キロ以下で走って  
いたら罰されることになる。建物でも  
すでにそういう時代がきているので  
す。

☆むすび

最後に、最近国連がまとめたもの  
で興味ある報告があります。世界の  
人口は現在の三五億から、今世紀末  
には六〇億になるだろう。その時、  
われわれ人類にとって何が問題か、  
それは、「地球ではたして人間がい  
きられるかどうか」という疑問を投  
げかけているのです。つまり、水と  
主食が絶対的に足りなくなり、人間



# まんびつ五人集

## 次回

小井 三矢 今

池上 島村

輝 包 逸 栄

男(昭一一) 巖(大一一)  
一(昭一二) 郎(昭一一)  
一(昭一一) 蔵(昭一八)

## 緑丘回顧

岡田 栄吉

(東京支部)



緑丘の学園を出て既に五十年になる。当時を回想して見ても宜しからう。北陸の中学を出て田舎者が中央小樽駅に朝六時に着いた。出迎えも無いので出札口を数十歩出た途端すってんとんと転んだ、高下駄に氷とめの金釘が打って無かったからだ。振り分け荷物で此のさまを見たら喜劇物であつたらう。兎も角北海道は寒いしひどい処だと思つた。天狗山の方面は白皚々であつた。

当時学校は全寮制とかで僕等は正気寮に入れられた。丁度足場丸太になる様な落葉松に囲まれ、寮庭からは学園並に小樽港等も俯瞰出来る非常に恵まれた寮で一室二人であつた。因元の屋根裏の勉強場より余程豪華だ。遂に三年間厄介になつた。舎監は苦米地先生であつた。寛厳相備えた実に良い先生であつた。必ず消燈時間には各部屋を回られた。子を思ふ慈父の様であつた。

七円位であつたと思う。因元より十円送金して貰えばどうにかやつて行けた。尤も親父の懐からすれば米何俵かに値することだ。之を思われたのか舎監は特に食費の増加に注意された様だ。

暗は三年生二年生一年生各二人宛計六人で一週間の献立を作り、之を暗婦に下命するのである。僕が三年生の時自分の好きなキャベツと油揚げの煮込みを三日も続けさせたら大文句が出た。今思えば経済的に營養的には良いが嗜好には落第だ、と云うて或る当番組は試験問際に當つた為め鰻井や天井と豪華版をやつたら九円?に付いた相で舎監から大目玉を頂戴したと云う話も仄聞した。残飯整理は何処の寮でもあつたらう。ストーブの脇で何時もアミダ籤で千秋庵の菓子を食べるのが楽しかつた。

本校は直ぐ目の下であつた。靴を穿いたのは体操の時丈で昼は草履で用が足りた。校門を入れて右側に柔剣道場商品実験室、本校、左折して図書館、左側には北斗寮があつた。今本校は改築中とか、どんなに変貌したか一度は見たいものだ。校舎は小なりと雖も内容は充実しな言葉。否々、我々は荷も大銀行の青年紳士行員である。旅行も末だ序の口で、先が長い。翌日の日程に差支えてはと、一応辞退の運びと相成つたが。折角代表的温泉郷へ来て、一目夜景なりとも見んことには、話の種にもならないと、評議一決、夜の街へ飛び出した。今時なら、十時、十一時は宵の口だが、街路燈とてなく、全く寝しつまつた暗黒街、二十分許り右往左往したが、盛り場も、飲み屋も皆目判らず、這々の態にて帰途についた。

所がこれ如何に、宿の門所は、松造り六尺巾一枚板の、門のかかった大扉、押せども引けども微動だにせず、門柱の間から母屋を見れば、既に消燈されて真暗闇、浴衣姿の薄着は夜風にしてみても肌寒い。ままよと拳骨をかためて扉を叩き、連呼すれども、何分三、四十米も離れて居り唄の文句ではないけれど「呼べど呼べとネエチヨイト」「あれ聞えません半兵衛さん」とやらで万事窮す。吉良邸討入りの図よろしく、山鹿流の下駄太鼓で、開門々と声高らかに呼び合えば、至誠天に通じ、漸く帰館相叶つたが。亦々不運にも、起きて来たが、先刻から言わない事ではない、この有様は何事ぞと、散々油を搾られ、漸く寝について「チヨーン」となった次第である。

から、お盆のボーナスを頂いたのを機会に、名所旧蹟巡りといつては少々大袈裟だが、日曜祭日公暇を「フル」に活用。道筋は、小樽を振出しに、開通した許りの、羽越本線、青森から、京、大阪に至る裏街道。初日秋田泊りは、東北情緒こまやかな、宿の「サービス」に遂飲み過ぎ、翌朝始発の急行に「ツォーレト」I君丹精の「スケジュール」も初夜にして滅茶苦茶。途中北陸本線「親不知、子不知」の難所を、車窓望見出来、夕景前に加賀の温泉郷「山代」にご安着の予定が、同地「くらや」旅館に、着いたのは夜半の九時過ぎ、何はともあれ一風呂だが。偶々数日前、宮様、来泊の為め、特に新設された湯殿、本日より一般民衆に解放という、松の香り生々しい湯につかり、よい気分であつた所、廊下続きに家族風呂がいくつも並んでいる。何の気なしに見ると、格子造りの戸は開放されて居り、そこに友禅模様は派手な「長襦袢?」「ゆもじ?」当時の女性は(ノーパンティイ)目も鮮やかに、衣桁に「ダラリ」と掛つて居るではないか。想像するに、民謡「山中節」の中にある、所謂「獅子」と称する雌動物のものである。悪いものを見たなと思つたのは、筆者独りではない。同僚I君亦然り。部屋に戻ると、物欲しそうな我々の心情を察してか、或は温泉郷での、男性共の慣行でもあつたらうか。

今時の万端便利づくめの旅行と比べ、昔の旅は、赤色々変つた味があり、拘すべきものがある。敢て若かりし時代の失敗談を書き、責めを塞

思う。

最後に喰辛棒になるが一番印象に深いのは高島沖で鮮網の曳き上げを手伝つて網についた数の子を其養生で食べた味であつた。

(六七)

## 放談

太田 省三

(東京支部)



「漫」は随筆の「筆」であるから、漫談と随筆を「ミックス」したものだろうぐらゐに、想像して見たが、この二つを兼ね備えた、そんな気の利いた文章が書けるぐらゐなら、既に幾度か「ベストセラー」をものにし、洛陽の紙価を高からしめた筈で、今更「バトンタッチ」で、苦勞し狼狽する訳がない。

昔から「旅の恥はかき捨て」というが。今から四十五年も以前の話であり、時効ものだが、芳紀正に、二十四才、勿論「チョンガー」時代、緑丘を出て、同市のY銀行に勤務し、列強した思いで、このアカシヤのアーチの下を登り、そして下つていく。遙かかなたに置き忘れていた詩情が、心なしか蘇つてきたせいであろうか。何れにしても、私の情操を豊かにしてくれるアカシヤの季節である。私は、この大学の前身小樽高商に学んでいた頃、社会科学の勉強にも身を入れていたが、文学への情熱は、趣味の程度を遙かに超えたものであつた。だから、私は、文学愛好者との交友も深かつた。木下・佐々木・中沢などの諸兄と、同人雑誌「北方文芸」を刊行したのもその頃である。その雑誌に掲載した短篇小説で、特に記憶に残っているのが「棄てられた花」というのだが、残念なことにはその雑誌を保存していない。また、創作のほかは、詩と和歌との中間を行く「短章」と自称する境地を開拓しようと努力したのも、その時代であつた。その一つに「海岸にて」というのがあつたが、不思議なことに、今でも、その全文が記憶に残っている。それは、人生の孤独と愛の問題に悩み、塩谷の海岸まで出かけ、無人の白浜を行きつ戻りつした時の作である。

## アカシヤの坂

実方 正雄

(小樽支部)



初夏の大学の正門を出ると、地獄坂にかかる。この坂は、いま、緑の老樹で覆われている。いや、緑のアーチといつた方が適当な表現かも知れない。その坂を五百米ほど下ると、一本の大樹に突き当たる。それがアカシヤの老樹で、真白な花を枝いっぱい咲かせて、むせるような匂を漂わせている。そこから、坂は二股に分れる。左は港まで続く街の中へ、右は大学の官舎の一角へと。この地獄坂に並ぶ老樹も、大部分がアカシヤで、これも満開の白い花で包まれて

私は、この大学へ赴任してから二年余りになるが、この頃は、何かし

ある日  
われ切に淋しく  
ひとりにて  
浜辺を歩む  
ふと、かたわらに  
人いる気配  
振り向けば  
真屋の空に  
白雲の一ひらわびし



これが、鮮明な記憶となつて残っているのは、孤独な人生ということが、私の人生観の深奥に巣くつてい

また、私は絵画を愛好し、下手ながら、自分でも画いた。おこがまし

淋しがりやの私は、寮(北斗寮)の連中は勿論のこと、色々な関係で

淋しがりやの私が、無事学校を卒業できたのも、こうして、心の支え

伴先生が十数年前来蘭されたのもつい昨日の様で登別の滝乃家で良友

思い出

野中雅夫 (東京支部)

まんびつ五人集

分との呵責な対決の連続であり、実力一本の冷酷な世界である。その世

ところで、この頃、アカシヤの坂を登る私が、ほのぼのとした情緒を

よき師 よき友

浜中 学 (室蘭支部)

朽木の福田氏より自筆の水墨画到来

去る六月七日東京ステーション・ホテルで開かれた緑丘会



翌六月八日、同期生福地謙一君の赴報に接し愕然とする。福地君は青

緑丘の皆様に御知らせ致します。扱てまんびつですが何を書こうか

まんびつ五人集

来なかったのですが……。

小樽から汽車で二時間の漁港岩内町は鎌場の小作で親からの仕送りも

入舟町同宿の片桐氏に洋楽レコードの手解きを受けたのが始まりで、

東京で生れ東京で育った私にとって小樽における三年間(実際は繰上げ

離れようとする時、胸を掻きむしられるような愛着の思い、斯くも短時

現在「きもの」の流行を生み出す呉服製造問屋に奉職しているが従

い方によつては家庭教育にもなりまして夜遊び朝帰りの道楽息子には三

小生はキスカ部隊に編入寸前で旭川陸軍病院に肺炎の為収容されま

扱次回は前述の如く小樽の駅頭より寮生に引きつれられ案内された寮

まんびつ執筆年次ベスト5

- 昭和一二年 第一位
昭和一一年 第二位
昭和一四年 第三位
昭和二年 第四位
大正一二年 第五位

〆お願ひしますV
まんびつ執筆者よ
バトンを受けたら責任の回避をやめ



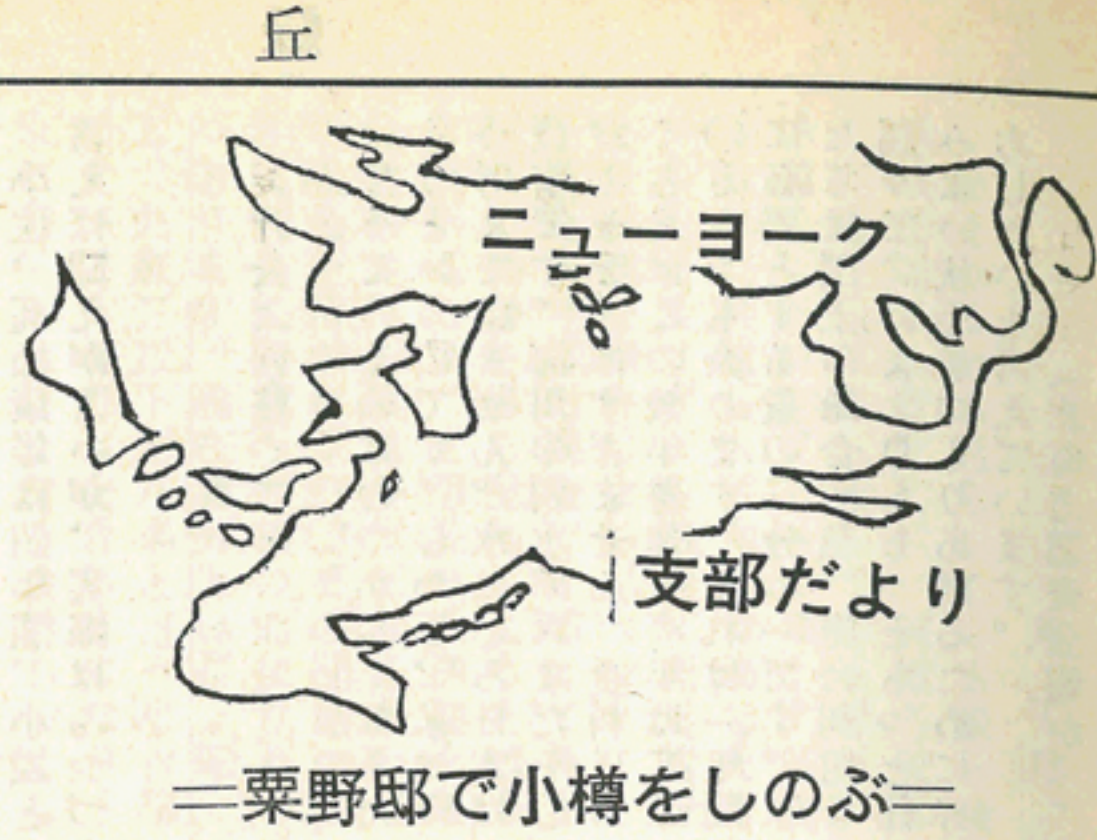
(まんびつ執筆者)

- (客員) 松尾教授
- (大三) 高橋徹男、下吹越栄吉
- (大六) 八木康之助
- (大七) 伊東小四郎
- (大八) 白瀬治三郎、金栄西吉、草野義一、松浦文太郎、岡田栄吉
- (大九) 戸井正三、大野純一、三好長次、増井得三、谷本朋次、郡菊之助、西村百太郎、松本義一、大山謙吉、広岡一男、福田誠、藤居元三
- (大九) 菅谷重平、奥村義信、小島憲市、奥田直
- (大一一) 宮地邦介、小橋庸三、杉山昌作、神沢重治、梶川亨司、功刀素重、越崎宗一、大泉行雄、中田新平、中瀬秀一、松岡俊一、大田省三
- (大一二) 田中弥三郎、塩谷精一郎、大久保鹿次、大井義郎、渡辺一夫、小河成美、池田繁正、田中実、穴釜升夫、玉井武、日南田美文、佐藤信雄、若林周五郎
- (大一一三) 古関周蔵
- (大一一四) 畑信太郎、片岡亮一、小武海鉄郎、松原治郎、森下弘、北村良吉、桐田鉄郎
- (大一一五) 増田常次郎、中野清一、白木小一郎、近藤徳弥、津久井七雄、大平善樹、西野嘉一郎、竹内隆、吉田荘太郎、祐村脩平、松村義公、川上貞光
- (昭二) 黒羽秀夫、牧野吉男、岡田政治郎、堂城不二人、友沢和一郎、小貫武、手島恒二郎、山中晴雄、太田英治、広瀬久一、石田平八、

- 清水文男、茂垣英夫、岩岡秀三、小西征夫、矢野健太郎、陸田清、実方正雄
- (昭三) 佐竹繁寿、樋山三郎
- (昭四) 小山健児、湊静男、高橋一男、玉井英雄、宇山慶三
- (昭五) 池田啓助、井藤久也、吉田友記、北村太治郎、横井七之助
- (昭七) 八家要、鹿島景策
- (昭八) 土岐秀雄、本間広松、小池三郎、高見美雄、会津幸雄、鈴木三七
- (昭九) 梅野弥太郎、塚越誠、本田正一
- (昭一〇) 篠崎万治郎、若月雅司、北村匡弘
- (昭一一) 浅野潔、土屋龍郎、木下春雄、三崎嘉郎、島崎保信、中尾弘、中道良徳、川原俊一、松井要吉、進藤彰、越崎清二、中木平三郎、丸山一郎、紫竹亜津視、秋葉隆一郎、藤目英三、本間誠一、鎌田正三、木村頼雄、小林啓作、角谷榮作、上野茂、村山重三郎、国安猛、小島典春、砂子沢正
- (昭一二) 内藤好生、皆川荘一、矢野正郎、宮内美雄、木内武之助、牧田恒雄、本間英作、森川正明、石川孝一、浅田厚、岡田保司、山村太兵衛、佐々木成彰、岡本元次、立石市郎、佐藤清治、山下政道、高橋景則、金三郎、須永誠一、白瀉良造、曾根重四郎、大井健一、梅原音次、森川正明、岡田春夫、加藤勇、福田政治、浜中学
- (昭一三) 江川裕一郎、若山永太郎、木村章三、山本俊雄、松ヶ野寿夫、丸山弥、平木勇三、金垣英雄、柳
- (昭一四) 井原利勝、大沼誠治、北村幸、谷英純、沼田博、太田正勝、志岐雄雄、河西辰男、沢村重一、石黒政夫、北条恒一、三浦正飛塚誠一、竹島篤二郎、金井勇、八木安、野村鉄太郎、福地貞雄、櫻村久好、尾崎哲平、沢井道成、隈田鑽三、市橋宏一郎、内藤義信
- (昭一五) 柿本恒一
- (昭一六) 相原正美、相田正、河上鎮男
- (昭一六後) 中村平之助、小林芳美、松村克己、山内孝、杉原貢、久保宗司、若林幹一、阿部英一
- (昭一七) 榎谷真一、長尾昌弘、桑野泰次郎、阿部敬作、越智直行、山田光男
- (昭一八) 亀井尚一、湊誠、島田恵治、田森誠一郎、七戸真次、松沢久隆、一柳悦藏、大橋啓男、野中雅夫
- (昭一九) 高山博男、荻村茂雄、赤津俊樹
- (昭二二) 牧口富伍、福田和、服部奎吾、北野巧
- (昭二五) 我満博仁
- (昭二九) 古内一成
- (昭三〇) 石津洋三
- (昭三一) 小田島和夫
- (昭三五) 佐藤良雄、本前勝支朗、長津行高、猪浦淳一
- (昭三六) 神田隆志

「緑丘」綴込表紙は品切れでございます

人種問題が産んだ悲劇といえ、それまでだが、世界に与えたショックは言語に絶するものがある。こうした波乱の真ただ中において、緑丘人の先輩の活動は目ざましい。日本経済の尖兵として大手商社がカジを切るもの、国際金融に辣腕を振うもの、ウォール街で乾坤一擲の勝負を張るもの……と色とりどりである。



「小樽は妙見川畔の赤燈灯が懐しい」栗野緑丘会ニューヨーク支部長(丸紅飯田常務、北米社長、昭和十二年卒)が口火を切れば、田中康夫氏(安宅産業ニューヨーク支店長、昭和十三年卒)が、「全くだ。当時、妙見川畔に絵馬堂という縄のれんの一軒屋があり、夜な夜な地獄坂を降りて一杯引っかけにいったものだ」と呼応する。放談続出、ニューヨークの夜は長い。

六月中旬、ニューヨークの郊外グレイト・ネックの栗野邸での緑丘会の総会の席である。栗野夫人の心づくしの和洋取り交ぜた料理に舌鼓みを打ちながら、青春の街小樽の懐旧談がはずむ。



写真は向って左から  
前列 草島、栗野、堀口、田中  
後列 駒崎、勝股、鈴木、毛利、高松、中村の諸氏  
栗野氏の御令嬢撮影

この日ばかりは、そうした激務を忘れ、小樽の話に花を咲かせようと、在ニューヨーク緑丘会会員約三十名のうち、十名が栗野支部長宅に集まったものである。在米十余年、日本人社会でニューヨークの主といわれる堀口光夫氏(昭和三年卒)は語る。「試験勉強の最中に慣例のストームが襲う。勉強の邪魔になるどころか、かえって張りが出たから不思議

だ。北大との定期戦も忘れがたくよい思い出になっていく。私の学生時代は小樽の経済力は意気揚々たるものがあり、高商生も活気に満ちあふれていた。伝え聞くところによると、最近では緑丘の沈滞とかいわれ、学生の意気も上がらないとか、緑丘生はもっと海外に雄飛する覇気を養わねばならぬ」定期戦といえ「私は剣道の選手だった。学生三段の腕で、御前試合に出たこともある。人生これ文武両道といえ古といわれるかも知れないが、今考えてみればよい修業になった」と栗野氏が口をはさむ。「北大はバンカラ、高商は青年紳士、この気風は今でも残っているのだから。しかし、この青年紳士の神髄をはき違えると、学生時代からサラリーマンの悪癖だけを見習うようになる。説教じみて申し訳ないが、今の学生をみてみると、そんな気がしてならない。もっとも、私の高商時代は日本全体進取の精神に燃えていたから……」田中氏も高商時代が最も充実した三年間であったという。草島正隆(二十四年卒、岩井産業)、駒崎一雄(二十五年卒)両氏のころは、戦後の混乱時代。軍服姿で地獄坂を通学した組。「帯広から小樽に行くのにも満足に汽車の切符も買えなかった。食事も酷く、雑炊ばかり。それも米などほんの申し訳に点在している始末。だが、緑丘には戦後の日本経済再建に働こうという気概にあふれていた」と駒崎氏は言う。駒崎氏は貿易論の著書としても有名である。二十九年組の中村次雄(大阪商船

広告マツクと美術印刷・紙工品

株式会社 三優社

京都市下京区寺町通松原下ル  
TEL (361) 8171 (代表)  
取締役社長 山村太兵衛 (昭12)

是非一度皆様からの御用命を……特別奉仕



最近内地から送られてくる緑丘会関係新聞・雑誌には、内地各支部の同窓が元気に活躍している様子が詳細されており、ニューヨークに住むわれわれ緑丘人に大きな励しとなつております。この機会に当地緑丘会の模様を紹介しましょう。

最近一寸した機会でも捕えて極力同窓の会合を多く開催しようと言う雰囲気があり、支部長の歓迎迎会等を含め年に三度位一堂に顔を合わせざる機会を持つに至り、その団結の良さは、他校同窓の羨望の的になりつつあります。現在栗野支部長（昭一、二、丸紅）以下十八名と言う小世帯ですが、それでも会合当日になり、急に出席出来なくなる会員も少なく全員が顔を合わせることは、一寸困難の様です。今年五月栗野支部長宅での会合を除けば、大体、当地日本クラブで行うことが多く、〆豊の上で三味線と言うわけには行かぬ迄も、結構美味しい日本料理にスコッチウキスキーの組合せで、時には、ノド自慢大会に迄発展することもあります。

去る六月二十四日も、所用でニューヨークに來られた大阪支部の若山永太郎幹事長（昭一三、丸嘉機械）を囲み、恒例の日本クラブで会合を持ち、十二名の出席で、楽しい雰囲気の中に、同氏のお話を伺う機会を得ました。マッキンノン先生訪日の模様、各支部の活動状況等種々話が尽きませんでした。最大の関心事は、矢張り母校の現状が如何になつ

ニューヨーク支部だより

七月十日



り方”を書いて暮した怠惰な学生。ゼミの麻田先生に御迷惑ばかりお掛けしていたもの。たつたひとつ小林多喜二、伊藤整兩大先輩が残してくれた文芸雑誌緑丘文学を工藤滋男（道庁）谷村善通など諸先輩と復刊したのが取り得といわれた。

小生の横に座する麻田ゼミ一年後輩の鈴木隆氏（三十五年卒、東京銀行）が小生の分も勉強してくれ、東銀の若手ホープといわれている。麻田先生も以って銘すべしであろう。

談論風発。枚挙に限りがあるので、この辺でペンを止めるが、最後は栗野支部長の音頭で校歌を歌い、奥さんからいただいたスズランの芳香をかき、小樽に想いをせながら、散会した。

（高松康雄 三十四年卒、日本経済新聞ニューヨーク特派員）

出席者

- 佐々木周一氏、草野 義一氏
- 佐藤 清定氏、高橋 亘氏
- 岡田政次郎氏、野口正二郎氏
- 藤目 英三氏、根田 順治氏
- 牧田 恒雄氏、石川 孝一氏
- 石川 一氏、桜庭 幸雄氏
- 奥沢 栄一氏、手嶋恒二郎氏
- 神田 正英氏、金垣 英雄氏
- 高木 重信氏、大角 覚氏
- 能沢 正義氏、武内浩一郎氏
- 吉岡 義二氏、大谷 敏治氏
- 青田 滝蔵氏、下吹越栄吉氏
- 日下 一郎氏、杉江 猛氏
- 岡田 春夫氏、植田 英次氏

三井船舶）勝股一哉（丸嘉）両氏に  
なると、世相もようやく好転、日本  
経済の方も例の朝鮮動乱の特需で高  
度成長の礎を築いた。

中村氏は応援団の副団長として対  
北大定期戦で奮声を張り上げた。そ  
のかたわら、勝股氏とのコンビで、  
GHQにかけ合い国際学生会議開催  
の軌道を敷いたのは知る人ぞ知るそ  
の挙。勝股氏は百斤のランナーとし  
て鳴らしたこともつけ加わえる。

毛利治泰氏（三十年卒、東海銀行）  
は「最早戦後でない」といわれた時  
代。先輩の築いてくれた緑丘のルー  
トに乗り、よい学生時代を送れて感  
謝している。ゼミのかたわら、五楽  
園にもしばしば通った。当時、新進  
の講師助教連の講義は熱を帯びて  
いた」と指摘する。

小生、高松康雄は四年間、小説と  
言えば聞えがよいが、実際は「つづ

（32頁より続く）

は生きていくのにむつかしくなるだ  
ろうというのです。しかし、私はそ  
う考えていません。水にしろ日本は  
豊富です。河川の利水率はまだ一〇  
パーセントにすぎません。食料にし  
ても米はこの数年豊作で今年は二五  
〇万トンも余ります。これは一年間  
に必要とする量の三分の一です。私  
たちは国土の総合開発、総合利用を  
図って、いまよりもっともっとと住  
みよい状態をつくりあげるために努  
力したいと考えています。

（北海道調査会報から）



# 千代田火災海上

## 企業と家庭を守りつづけて71年

- 本店：東京都中央区京橋1-3 (535) 4 6 7 1
- 名古屋支店：名古屋市中区上前津町66 (331) 8 4 1 1
- 大阪支店：大阪市東区大川町66 (203) 2 1 6 1
- その他支店：全国主要都市

# 日本最初の食品コンビナート 昭和産業



事業部門 製粉・油脂・ぶどう糖・食品 飼料・倉庫

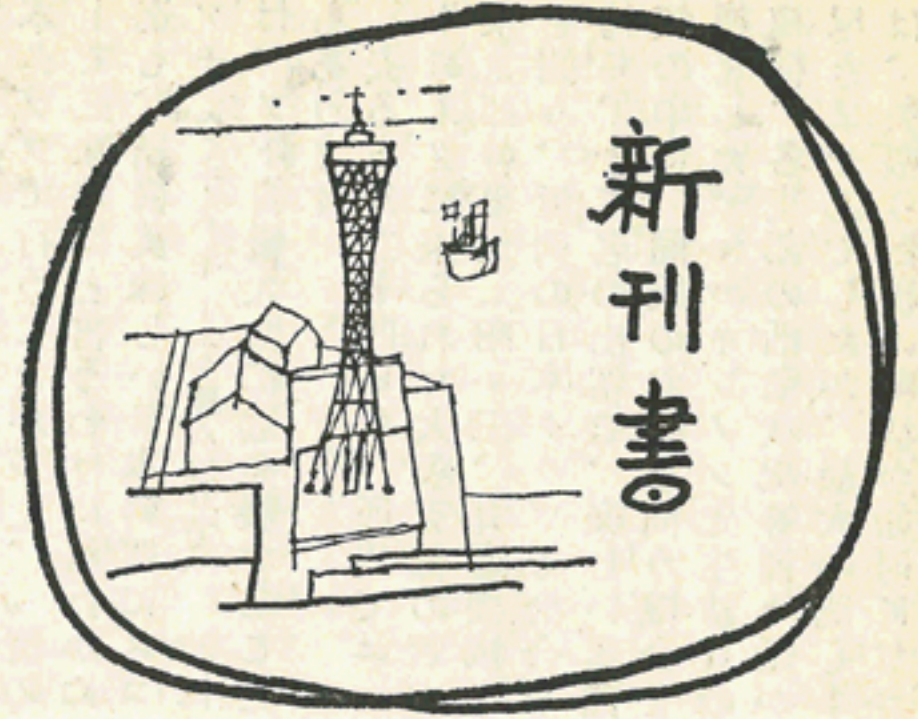


## 昭和産業株式会社

取締役社長 松本浩三

- 本社 東京都千代田区内神田2丁目2番1号
- 支店出張所 大阪・名古屋・札幌・仙台・神戸  
広島・福岡・横浜・鹿児島・高松
- 工場 鶴見・神戸・船橋・上尾・水戸・太田





片岡亮一著(大14)

句集『雪田』

この著書は片岡亮一氏が十五年間にわたる多くの作品の中から厳選し、自選を重ねた句集である。

病む妻をいとおしむころの深さ、温かさがにじみ出ており、定めし奥さんも満足しておられるであらう。御快癒をいのるや切。

蟬涼し妻や朝より食すすみ  
神の滝へ妻を上げます木の根道  
葛餅の葉を灰皿に妻遺し  
臥す妻に雨の元日どつと暮れ  
臥す妻に灯を入るる刻雪匂う  
春炬燵というにはさむし妻とめて  
春の雨夜をこめ妻の寝息良し  
祈るあり托して放つ迷い蟬  
臥しがちに帯細く年祝ふなり

州まで、任務の関係で方々へ出かけられた旅中で、目に触れるものを素直に受けとめた佳句ばかりである。旅は人を詩人にするというが、これらの句に人生の旅人の淋しい後姿を見るような気がする。

鶴華麗雌阿寒の遠く雪被き  
夏霧を抜け来て深山蝶白し  
夏霧や浅間うぐいす音にこもり  
かなかなの同じ木に来て暮るる日々  
口で箸割る春寒の駅の蕎麦  
春の夜の貴い欠伸や汽車土佐へ  
砂丘灼け長くは飛ばず福鴉

日常生活の身辺に拾う詩こそ、その人の本當の詩であり、またその力を知り得る作品である。どちらかといえば内省的であり、時に自嘲めくが本質的には自然にも社会にも素直に順応して行く作者の姿が偲ばれる句集でもある。

世にまじる時計巻き出づ事務始  
降りつのもりつつ静かな牡丹雪  
半生の職辞すその日万愚節  
青梅や隣親しき木戸の道  
近く春や男もすなる阿諛笑ひ  
変電所煙々とある夜涼かな

そして最後に回想記が詩歴、俳句の機縁、妻の句、旅の句、四季断章(秋・冬・春・夏)の章からなっているが「青年時代、小林多喜二、伊藤整等、小樽高商時代の学友と文芸の研鑽を積み、最も純粋な時期における影響を互に享けあつた貴重な基

### 泥水と土砂と流木の

### 関川村(新潟)大水害写真集

村長 佐藤正夫氏(昭五) 発行

一年前の四十二年八月二十八日、新潟県関川村を襲った大水害の記録であり、村長である佐藤正夫氏(昭五)は、やがてまた、何時襲はれるか、その悲惨な水害を一日も早く守らねばならぬと郷土の再建を願う、村民と共に汗みどろの闘を続ける。そのために雨の日も風の日も、そして真冬の吹雪の中にも敢斗を続けて行く雄々しき記録でもある。全国からそして遠く海外から見舞を寄せられた方々へ感謝の意をこめて贈られたものであるという。



写真説明  
(右) 立往生した機関車も流木にうまる  
(左) 川口橋の完成を喜ぶ佐藤村長(右)

見逃せない」とは石川桂郎氏(風土記を主宰している)の言葉である。それらの事柄を各章に振られて回想しているが俳句に特に関心のある緑丘人におすすめしたい。(風土俳句)



## 大西猪之介教授特集号

### 原稿募集 締切延長 九月二〇日

大西猪之介先生の想い出、大西猪之介全集発刊にまつわる想い出、「伊太利の旅」を読んで、「囚われた経済学」を読んで先生を偲ぶなど...。先生がこの世を去って四十五年になんなんとするのであるが、前回刊行の『手塚寿郎先生特集号』にもまさる特集号を発刊したいと思えます。元教授、諸先輩の投稿を期待しております。

故板倉誠氏も生前(二月二十七日)この企画によせて左の一文を寄せられた。「遠い昔のことではありますが、兎に角、日本の学界を賑わした偉材でありました。これを回顧して特集号を出すことは大いに結構ですし、小樽緑丘会の誇りです。意義ある企画だけに私の性分として血潮は高なり、及ばずながらご希望に叶えるよう勤めたいと考え、次の方々に呼びかけて見る考えです。(氏名略)

【原稿締切延長】九月二〇日  
【原稿用紙】一行十六字詰で願います。四〇〇字詰市販の原稿用紙は下四字あけてお書き下さい。執筆希望の方はお申込んだりば原稿用紙をお届けします。

【写真】お手持の写真拝借したいものです。すぐ複写して責任をもって返却いたします。

【特集アイデア】かかる特集について今までも大野元学長、浜林生之助先生、苦米地英俊先生、手塚寿郎先生など数々の特集を編集して来ましたが特に御希望事項、編集上のアイデアをいただければ幸いです。発刊までに日数がありませんが、編集部を軽くしていただくためにも執筆者を御推薦の上、その方へ代って執筆依頼をお願いします。この特集を成功させるため何卒御協力をお願いします。

(編集部)

## 洋酒の中の個性派



〈城〉生まれの高級ブランデーがたっぷり。スッキリした飲みくち。飲みあきしない洋酒の個性派。あなたの洋酒棚に欠かせないユニークなお酒です。冷たくして、爽やかに、愉快地、おたのしみください。



合同酒精

720ml.....500円



「社団法人 緑丘会 第二十八回通常総会

# 東京支部総会も同時に開く

六月十日 午後六時  
於東京ステーションホテル

第二十八回通常総会を六月十日、ステーションホテルで、大野元学長・実方学長はじめ、函館支部長、小樽支部長、名古屋支部長や札幌支部役員の来賓を迎えて開く。

### 東京支部総会

通常総会に先がけて開催。武岡嘉一副支部長の司会で上村甚四郎支部長の挨拶があり、佐々木理事長の今般原子力船開発団理事長就任について祝辞を述べ、佐々木理事長にはご健康に御留意あつてますます日本の

ため、この目的を達成せられん事を望むと結ぶ。続いて野口正二郎支部長より四十二年度事業報告(マツキンノン先生歓迎会に一八四名の出席で椿山荘で開催のこと、松本義一、君島与一両氏の叙勲祝賀会や現在進行中の慰霊碑募金への協力に続いて会計報告をもって東京支部総会を終った。

### 第二十八回通常総会

佐々木理事長は今回特に学長への激励の言葉を強調された。



先ず乾杯



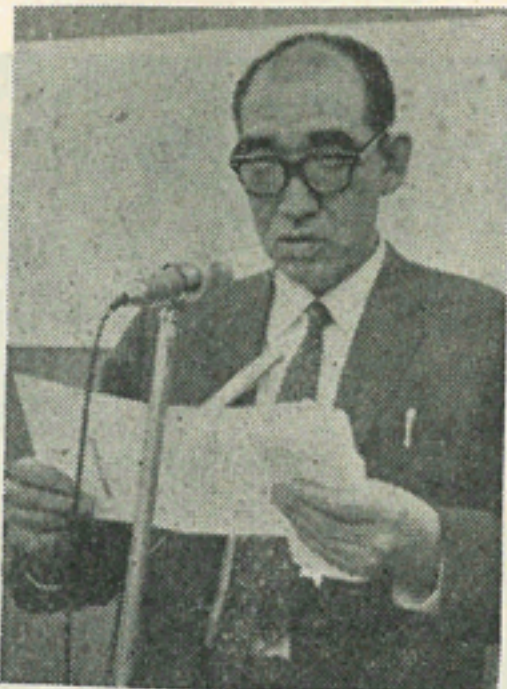
佐々木理事長挨拶

神田事務長より四十二年度事業報告(現在緑丘会員八千九百四十五名になったこと。緑丘会費の納入状況がおもわしくないこと、随って会費値上案のあること。そして加茂学長に対し恒例により油絵肖像画贈呈されたことなど報告があり、中島事務局長は四十二年度収支決算及び財産目録や四十三年度収支予算案について承認を求めた。

最後に次回通常総会開催地の決定については理事長に一任とした。

す早く総会議事をすませてパーティに入る。新入会員歓迎のことばとして上村支部長は今回特に東京十日会に若い人々の入会することをすすめ、新人の健康で明るい活躍を祈ると結ぶ。

新人代表赤井君より答辞あり、柳瀬伊造氏の乾杯で食事に入る。



神田事務長の報告



事業報告の野口副支部長



女子新入会員の自己紹介



校歌合唱

実方学長は新入会員歓迎のお礼と今後の指導をお願いする旨を述べ、今年度新入学生の競争が八対一であった事、図書館の完成をはじめ、この秋には管理塔の完成や講堂の進行状況や教官の出入りも多岐が十五名がすでに補充され、特に新進教官に期待する所大であるが、ただ官舎の不足をうらんでおられた。

札幌支部から植田英次氏が戦歿平和慰霊記念碑の募金状況を報告し、あと三十万円以上の希望を述べた。

野球部の全日本大会への北海道代表小樽商大チームの出場と資金カンパの要望を数学担当沼田教授から訴える。(戦績については前号に報告済)

函館支部長は十勝沖地震による函館大学被害について資金カンパを要望された。

新入会員自己紹介に入ったが余りにも今年は東京支部への集中が目立った。そして女子二名の新人がこの総会に出席されたことは他の支部では見られない羨ましい風景でもあった。

最後に宇佐美俊彦氏(昭六)より昨日の緑丘人ゴルフ大会の結果が別紙のように報告された。(緑丘余話参照)

通常総会のなごやかな空気も盛り上った頃、明治、大正、昭和生れの緑丘人が高らかに校歌を唄い、万才を三唱して通常総会を終った。

### 岩井診療所(健康医学協会代表理事)

(大五 青田 滝蔵氏)

### 霞ヶ関ビルにオープン

東京・虎ノ門の超高層霞ヶ関ビル一二階にデラックスな岩井診療所およびオープンシステムのクリニックが開院され、六月八日 佐々木理事長、大野前学長、青田滝蔵氏と同期(大五)の緑丘人はじめ東京支部役員など十数名のほか武見日医会長、中山東京女子医大教授、佐々木前社会党委員長ら関係者約三〇〇人を集めて盛大な披露式が行われた。

同診療所は内科、外科、産婦人科、眼科などの各科総合診療所で二十数名のスタッフにより診療が行なわれる。また、ロビードクターの設置、アポイントメント方式による治

療等の特色を有し、さらに最新式のX線テレビ装置、ビデオテープレコーダー、心音心電計、胃カメラ、超短波治療器などが設置されている。なお、同診療所での保険取扱いは七月一日からはじまった。

### 原稿募集

同期のニュースはこの緑丘で交流しましょう。  
一行十六字で原稿を書いて下さい。



## skin dew

朝とお休み前に  
5分間だけさいてください  
スキン・デューに含まれた  
天然の成分コラーゲンが  
あなたのお肌に  
栄養としめり気を与え  
1日中うるおいを  
たもちます



Paris・London・New York  
**Helena Rubinstein**  
ヘレナ・ルビンスタイン  
取締役社長 加地幸一(大12)

女子新入会員の自己紹介

校歌合唱



# 緑丘会大阪支部定時総会

六月一〇日(月)  
於 北 大 使 館

大阪支部定時総会は開会十七時三〇分にはすでに出席予定者の八〇%が席を充たしていた。

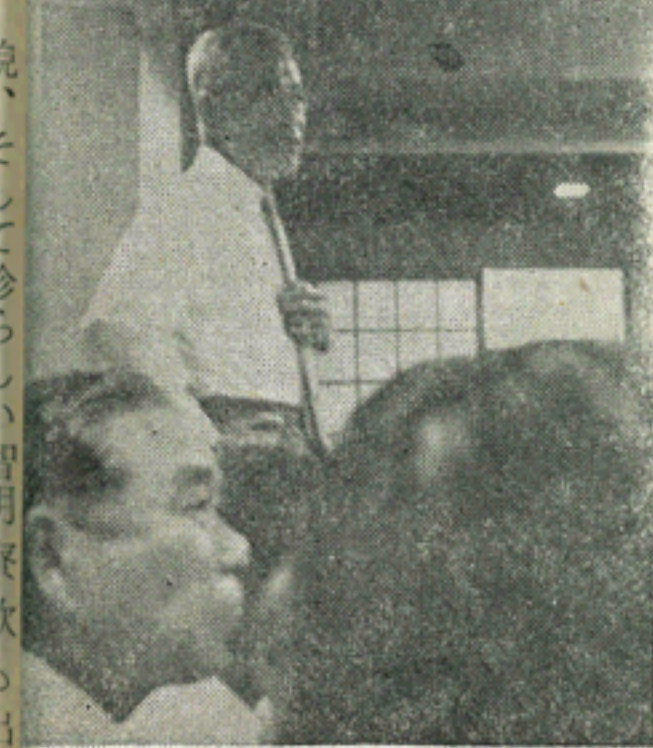
幹事長若山永太郎氏渡米のため、山ノ内孝氏(昭一六後)が名司会で代理をつとめ、石田支部長の挨拶で開始された。石田支部長は緑丘会は会員相互の親睦が目的であり、努めて皆様も会に出るよう努力していただく度い、とますますこの緑丘会のさかんになることを願う。

ついで事業報告と会計報告が速かに終り、役員改選に移る。副支部長樋山三郎氏(昭三)の補充と副幹事長の補充があっただけで他は重任と決定。

### 緑丘会大阪支部43年度役員(案)

支部長	石田平八	(S 2)
副支部長	樋山三郎	(S 3)
"	墓目英三	(S 11)
幹事長	若山永太郎	(S 13)
副幹事長	河上鎮男	(S16前)
"	清水撰三	(S16後)
"	山内孝	(S16後)
"	大崎康市	(S 19)

(上) 実方学長の母校近況報告  
(下) 学長を激励する椎名先生



実方学長は大阪支部の会合に参加することは全く故郷に帰ったようである。然し学長稼業は呑気そうに見えるであろうが、なかなか大変な仕事である。

事である。特に団体交渉という仕事の一つ増えた多忙な一端を披露した。

墓目副支部長から東京・通常総会の模様の説明され、実方学長が全北海道野球大会々長に就任されたこの年に、はじめて小樽商大が全道代表になった旨も話される。

学長はこの件についてさらに補足説明し会長として始球式をやった模様を語り、このように学生がスポーツにも学問の面でもさらに一年一年成長していつてくれる事を喜んでい。角帽は角棒に代りつつあり、小樽といえども三派全学連がない訳ではない。寮の運営についても、その管理責任については互に契約書を取り交わしている。学生の善導には極力努力を続けているので安心願いたい。

教官不足の補充を続けて来たが今後も定員満杯の努力は続けたい。官舎の不足は残念であるが、この問題は何時も対策を練っている。図書館の完成で緑の芝生は消えたが、よい環境作りを考え用地購入も手配した。と母校の近況を語られた。大阪には新入会員は二名あったが教育期間を終えて任地に派遣され、今年には珍らしく一名の出席もなかった。ピールが会場に運ばれ、松浦文太郎氏(大七)の乾杯で懇親会へ入った。

新副支部長樋山氏立って挨拶。次いで椎名幾三郎先生から「実方学長の元氣な姿を見て母校行きをすすめ一人として母校につくされる、その努力を喜び、小樽のためにも喜ぶ」と何時もながら慈愛のこもった

会場風景



大久保鹿式氏(元大阪支部長大(二)から母校訪問の印象記を語ってもらったが、やはり校庭のクローバーのローンのなくなった事が一番気になったようである。学長は母校の建築問題、管理棟(柔剣道々場の場所)や海外留学の件にも言及。

ピールは杯を重さね、会場はすでに超満員の盛況である。

昭九藤井幸男氏、昭一一小池輝男氏はこの辺で「北溟荒れて……」を唄いたいと発言。合唱に入る。

司会者より、地獄会復活の宣言あり、石田支部長このいわれを説明する。極楽会代表宮地邦介氏(大一一)にダランプリー獲得経歴者としてのノドを披露願う。場内静まりその声に聞きほれ拍手を送る。忽ち場内は一寮から四寮までの寮歌祭と変



貌、そして珍らしい智明寮歌も出る。樋山副支部長の閉会の辞をもって幕を閉じた。



耐酸・耐蝕 鉛加工・鉛工事 一般

## 日本 滲鉛工業株式会社

会長 大久保鹿式 (大正12年卒)

大阪市東淀川区木川西ノ町六丁目五  
電話 大阪 (392) 1 1 5 1 (代表)







酒井 誠 石塚硝子佛常務取締役  
 (富士銀行池袋支店長より  
 転出。石塚硝子は二部上場  
 会社)  
 下斗米安蔵 雪印乳業取締役  
 そこで去る五月二十四日方振り  
 にさむらい連中の集いが新橋吉むら  
 で催された。この日は富士製鉄の中  
 野孝太郎君が珍しく顔を見せ又ここ  
 暫らく出席率の悪かった木村頼雄君  
 が現れる。当日出席予定だった松  
 川君は御息が北アルプスの劔岳で  
 遭難死亡されたため欠席との報告が

あった。一同御息の御冥福を祈る。  
 当日参加者は比較的少なかつたが  
 この会の常連が多く、皆仕事を忘  
 れ、学生時代の昔にかえって、Y談  
 放談出し洪笑は何時絶えらるもな  
 く続いて仕事のストレスも一気に吹  
 飛んだ。  
 参加者次の通り  
 木村頼雄、中野孝太郎、高橋亘、  
 五十嵐況、大田末穂、小島和夫、  
 村山重三郎、鈴木弘一、小島典春  
 紫竹亜津視(幹事)計十名  
 (小島典春記)

### ネフスキーについて

曳地 金治 (昭一)

緑丘編集まことに苦勞様です。  
 何時も楽しみに拝見いたしておいま  
 す。最近特に外人教師特集号興味を  
 持って読みました。  
 というのは「ネフスキー」につい  
 てです。

定本柳田国男集別巻第三巻「故郷  
 七十年」を読み返しておりますが、  
 その中にネフスキーの事が出てお  
 り、同本三〇九頁「露人ネフスキー  
 のこと」の中に「長崎についてロシ  
 ヤに居た日本人教師に習った日本語  
 を使用したところ全然通じないので  
 情なかつた」と書いてありますが、  
 緑丘五三三頁一八頁の西川正己氏(大  
 一五)の記事と思ひ合せて感心して  
 おります。

尚、同本三二二頁「ネフスキーの  
 ノート」として緑丘五二二頁一〇頁  
 の記事を又更めて読みなおしてあり  
 ます。  
 六一号の記事を楽しみにしてあり  
 ましたが次号になって残念でした。  
 ネフスキーの事についてももっともっ  
 といろいろ知りたいと思っております  
 ですが、田舎の事で意にまかせませ  
 ん。

定本柳田国男集を読み、三一頁  
 「ネフスキーの功績」の所に至って  
 緑丘の特集号を思い出して遂に筆を  
 とりました。今後は是非続けて下さ  
 い。

道産事業協同組合理事長  
 「終戦後の混乱期における道内食  
 糧需給調整ならびに米穀業界の発  
 展と組織強化に対する功績により  
 」藍綬褒賞  
 巧木尚孝氏(大正十五年卒)北海道  
 熱管理協会常務理事、北海道公害  
 対策審議会副会長  
 「多年熱管理技術の普及啓発に努  
 めて指導に当たりよくその向上に  
 尽力、業務に精励し衆民の模範で  
 ある」ことにより黄綬褒賞  
 以上の三氏である。万場拍手のう  
 ちに目出たく贈呈をおわり、続いて  
 実方学長の御挨拶をいただいた。学  
 長の挨拶は、「今年の卒業生は必ず  
 しも全部が優秀であるとは限らない  
 が、先輩の皆さんの御指導により、  
 後輩としてふさわしい成長をすること  
 を望む」「教官の学問的水準高  
 め、会議に出席率が悪いなどいうこ  
 とのないよう量的にも学生をひきつ  
 ける内容をもつ必要を感じる」と何  
 時もながら厳しい反省と決意に充ち  
 た内容であった。母校の教官も四十  
 二年九名、四十三年六名と補充し定  
 員五十六名に達し一段と充実した  
 由、宿舎が足りなくて困っておられ  
 るという御話もあった。

宴会場は穴釜副支部長寄贈のサッ  
 ポロビール、池田副支部長寄贈のア  
 サヒビールがテーブル狭まじとなら  
 べられ、穴釜副支部長の歓迎の辞、  
 新入会員の自己紹介があつて開演、  
 宴半ばに去る五月二十二日に行なわ  
 れた札幌緑丘ゴルフ会の優勝者上杉  
 重三氏(昭一七卒、サッポロビール  
 札幌支店)に支部長杯の授与など  
 もあった。

### 昭和十一年卒

三十五周年記念大会

―名古屋支部の意見まとまる―

昭和十一年卒の三十五周年記念大  
 会は昭和四十六年であり、京阪神が  
 その担当である。

大阪支部からの次の問合せに対し  
 斎藤利一氏から弓田・河内氏と協議  
 して、回答して来た。

(一)四十五年が大坂で万国博が開催  
 される。一年繰り上げて開催するこ  
 とについて……賛成

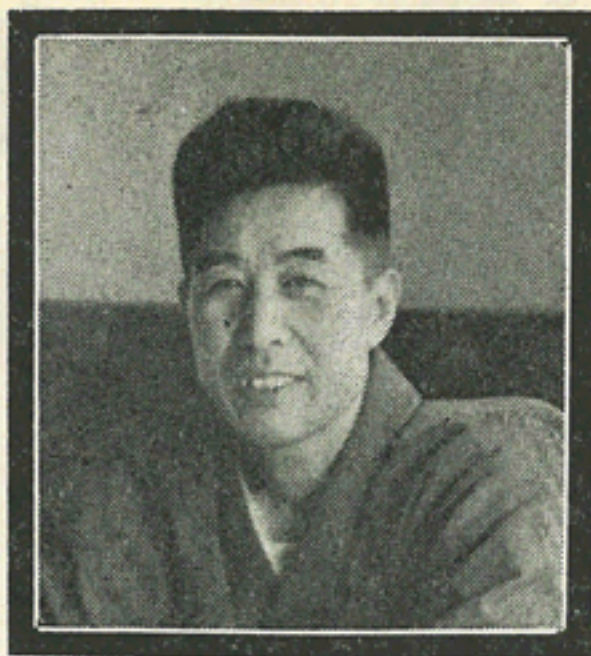
(二)四十五年には家族同伴で三十五  
 周年記念大会を開くことについて……  
 賛成

(三)会費について幾莫にするか……  
 幹事一任  
 北海道、東京地区もまた右三件に  
 ついて討議願ひ、墓目宛幹事から返  
 答いただきたい。

### 東京・小島典春公認会計士事

務所 類焼から立ち上がる  
 九段、小島典春氏の事務所が五月  
 二十九日、隣家よりの出火で類焼に  
 遇った。越崎清二氏よりの連絡によ  
 れば「小島君の事務所は天井と側面  
 に火が廻って鎮火。床・机並に書類  
 一切は難を免がれ、小島君も一安心  
 の所でした。一ヶ月を経て改装、復  
 旧工事も終り、元通り営業継続中で  
 す。

幸い保険は大正海上火災で高橋正  
 敬君の保証で小生見舞参上の折、査  
 定に來所中でした。」とある。  
 復旧も早く、書類の焼失のなかつ



### 岡田禎君を悼む

(昭二)

「岡田さんが亡くなられたと奥さ  
 んから電話がありました」外出先か  
 ら事務所へ戻ると職員からの報告で  
 ある。まさか小樽高商同期の岡田禎  
 君のこととは思えず一瞬とまどい、

らの知らせで間違いいではない。  
 在学中彼は剣道部について無口な落  
 着いた性格の男だったが卒業後遂に  
 一度も会う機会がなかった。卒業三  
 十周年全国大会のときも随分電話で  
 すすめたのだが出席されず残念な思  
 いをしたものだった。数年前設立し  
 た大日商事の経営がうまく行かず、  
 最近浦和市内にある佐賀機械に勤  
 めて居られたと云う。  
 脳梗塞のため自宅で倒れ近くの共  
 済病院に入院したが奥様始め家族の  
 方々の厚い看護も甲斐なく十日後  
 の五月十九日遂に他界された。行年  
 五十二才。  
 同期生の集まり「さむらい会」を  
 代表して高橋正敬君と小生が弔問し  
 た。岡田禎君の霊よとわに幸あれと  
 祈つて。

遺族 埼玉県浦和市本太町三一  
 七―八 妻 岡田芳子  
 電話〇四八八〇六四五  
 (小島典春記)

### 札幌支部定時総会開かる

#### 新入会員歓迎会も兼ねて

六月三日夜、札幌市ローヤルホテ  
 ルにおいて定時総会および新入会員  
 歓迎懇親会が開かれた。札幌支部の  
 緑丘会員は総数一、五〇〇名を超え  
 るが、この日の出席会員は一三名、  
 うち本年卒業新入会員は一五名であ  
 った。来賓として実方学長、室谷礼  
 幌商科大学学長、それにたまたま北  
 海道工業大学の講議のため来札中の  
 加茂前学長も御出席下さつて、例年  
 に劣らず盛大な総会であった。  
 富樫支部長が病氣入院中のため、  
 穴釜副支部長が代つて議長席に着

き、まず、この一年間に物故された  
 加地功氏(大正三年卒、第一回生)  
 ほか故会員の霊に黙祷を捧げたのち  
 会務報告、会計報告を付議、次いで  
 四十二年度中に栄えある叙勲を受け  
 られた三名の会員に対し記念品の贈  
 呈を行なった。すなわち、  
 富樫長吉氏(大正四年卒) 佛曲長富  
 樫商店社長、北海道食品衛生協会  
 連合会会長  
 「食品衛生功勞者として」勲五等  
 双光旭日章  
 今野吉之助氏(大正十一年卒) 北海

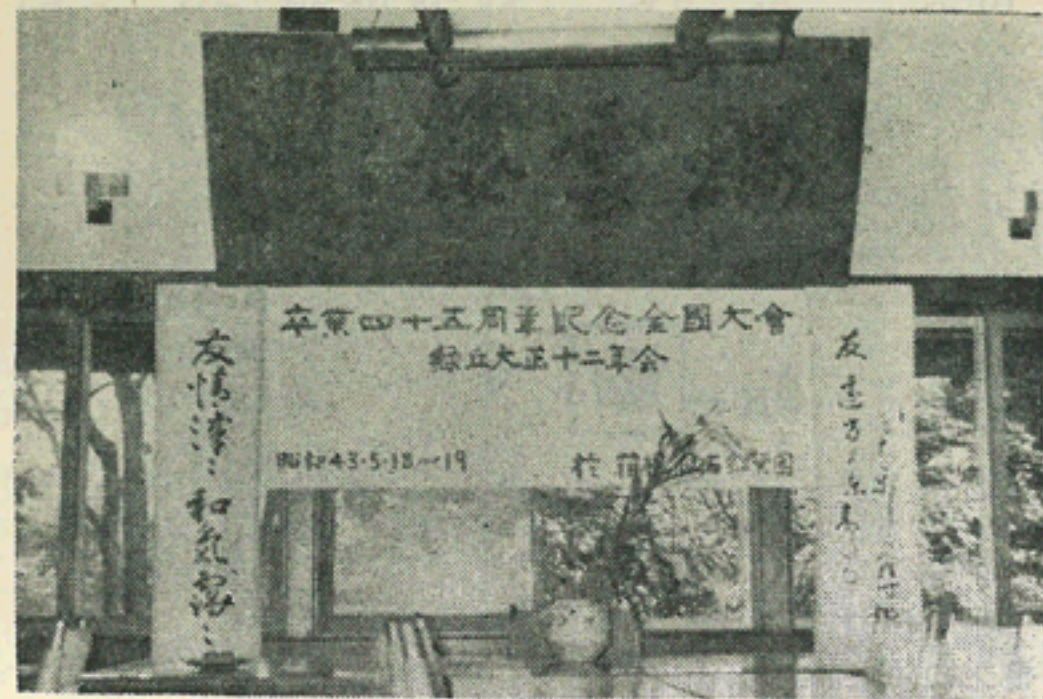


道産事業協同組合理事長  
 「終戦後の混乱期における道内食  
 糧需給調整ならびに米穀業界の発  
 展と組織強化に対する功績により  
 」藍綬褒賞  
 巧木尚孝氏(大正十五年卒)北海道  
 熱管理協会常務理事、北海道公害  
 対策審議会副会長  
 「多年熱管理技術の普及啓発に努  
 めて指導に当たりよくその向上に  
 尽力、業務に精励し衆民の模範で  
 ある」ことにより黄綬褒賞  
 以上の三氏である。万場拍手のう  
 ちに目出たく贈呈をおわり、続いて  
 実方学長の御挨拶をいただいた。学  
 長の挨拶は、「今年の卒業生は必ず  
 しも全部が優秀であるとは限らない  
 が、先輩の皆さんの御指導により、  
 後輩としてふさわしい成長をすること  
 を望む」「教官の学問的水準高  
 め、会議に出席率が悪いなどいうこ  
 とのないよう量的にも学生をひきつ  
 ける内容をもつ必要を感じる」と何  
 時もながら厳しい反省と決意に充ち  
 た内容であった。母校の教官も四十  
 二年九名、四十三年六名と補充し定  
 員五十六名に達し一段と充実した  
 由、宿舎が足りなくて困っておられ  
 るという御話もあった。

アルコールも適当にまわつて談論  
 風発、氣勢大いにあがつた頃、小西  
 征夫氏(昭二) 根本北郎氏(一一)  
 小林備信氏(昭一五) 小林英一氏(一  
 昭一八)ら野球部OBの面々が、先  
 般の全国大学野球大会の予戦で見事  
 に優勝し本大会に遠征することとな  
 った母校野球部のために、資金カン  
 パの呼びかけを行なった。野球部長  
 の沼田久助教授の後にいかにも遅ま  
 しい感じの学生数名が奉賀帳を用意  
 して遠慮深げに頭を下げていたが、  
 そこは普段から威勢のいいOB連の  
 ハッスル振りも覚ましく、たちまち  
 目標額に達した様子。全国大会に出  
 場の上はベストを尽くしての善戦を  
 期待した。  
 宴の終り頃には例年のように新入  
 会員が全員肩を組みあつての歌、先  
 輩たちのストーム、校歌合唱と意気  
 愈々あがり、実方学長、加茂前学長  
 の固い握手風景もあつて、感激のう  
 ちに万才三唱により閉会した。  
 (島谷記)







第一日  
 十八日午後二時 紅葉園集合  
 午後三時 会議室にて大会行事

第一部  
 (1)金子当番幹事の開会の挨拶  
 (2)物故者七十五名に対する黙悼  
 (3)田島当番幹事より会員の消息その他会務の報告と幹事よりの要望、および会計報告を行ってその承認を得た  
 (4)参会者各自一分間の自己紹介を行ったが四十五年間の久瀾又何十年振りの顔もありこの辺から一杯のカクテルも手伝って、「友遠方より来たる……友情津々、和氣麗々。」のふんい氣に包まれ、一同のニコニコ顔を眺めるだけでも実に楽しいものであった。

まことに全国百十六名の同窓の中で止むを得ない所用で不本意乍らの不参加者もあるが、兎に角健康で、今日の楽しみを味わうことの出来ることは、恵まれた者として感謝すべきである。

このあと会議場前庭で記念撮影をして第一部の行事を終り、一応各自の部屋で浴衣に着替え入浴して小憩した。なお、緑丘東京支部の御厚意で借用の十六ミリ映画「我が母校緑ヶ丘」および「校歌、応援歌、寮歌」のテープは時間と設備の関係で割愛したのは申訳なかった。

第二部  
 午後六時 宴会場集合  
 先ず大久保君の発声で一同の健康を祝して乾盃、その酒は本日出席の若林酒造醸造の銘酒「開春」で大いに若返りを誓い合った。

初めの内はとより近所同志との歓談献酬にしばらく時を過ごしたが、綺麗どころの一通りの芸能披露の終る頃から、段々と若返りを見せ、あちこちへの遠征組も現われ、舞台へ上ってうんちくを傾ける者、旦那様の学生時代とはネとやり出す者「幹事、酒がないぞ」と叫ぶ者、標準年令六十才などんで頭から消えて、緑ヶ丘の校舎、地獄坂、スキー、寮のことなど当時の気持になり切った時のうつろいのを忘れて仕舞って、最後は宴会場の真中で円陣を作って、お定まりの「立て立て立て健男子……」をどなり乍らぐるぐる回って、漸やくポツポツ各自の部屋へ消えて行った。

第二日

十九日午前八時 朝食集合  
 昨夜の疲れも見せず、朝の一杯に又メイトルが上がり夜とは別の気分であつた。賑やかに朝食をとり乍ら、次回大会はやはり五年を待たずに明後四十五年秋に開催する事、場所は追って決定する事、を満場一致で決議した。今回の参加者はその時までこの元氣を失わずに必ず又の再会を約した。

一応ここでこの大会を閉じることにし竹田当番幹事の閉会の辞を最後に残り惜しい大会の幕を閉じた。

有志の箱根めぐり午前九時三十分出発その参加者は、秋山夫妻、石川松、大竹、小河、小沼、鎌田、川井、清水、服部、日南田、堀川、山本規、渡辺、渡部季、金子、竹田、田島、以上十九名

一同マイクバスに同乗コースは紅葉ヶ丘、千石原、元箱根、十国峠、パークウェイ、湯河原、真鶴、小田原、横浜、東京というコースであつたが、出発の時から雨となり切角の眺望も全く視界ゼロで残念であつたが車中でマイクを次々に廻わし学生時代の思い出話、功名談、失敗談などは素っぱ抜きに洪笑又爆笑、車は昼食予定地真鶴ケープハウスに着いた、岬の眺めはよし、活魚料理に舌鼓を打って再び車の人となり一路東京に向い最後は雨の東京駅で解散した。

高坂君 物故者の数に感慨一句あり  
 「古難を出せば缺けたる数多し」  
 神部君 温泉に浴し、詩情湧けり  
 「浴槽に一人しておれば目交の小塚の山に雨降りそそぐ」  
 白瀬遷人

# 緑丘大正12年会 45周年記念全国大会



昭和43年5月18~19日  
箱根紅葉ヶ丘・紅葉園

はじめ五年毎に全国大会をやるという事で開いていたが、四十年のとき、誰からもなく、アト五年は待ち切れないから、その間にも一回をとということ、東京雅叙園に集った。

今年はその五年目毎の本番の年に当るので、一人でも多く集めるようにという前当番幹事からの引継ぎを受けて、去年の四月に我々(金子、竹田、田島)の三人が指名されて交代したが、爾来何とかこの要望に副い度いと、先ず全国二十九道府県に散在している同窓との連絡に努め乍ら、毎月十二日に交詢社で開催の東京月例昼食会にも度々諮って、時と場所を前記に定め、全会員に通知、参加予定者名を未定者や未回答者へ知らせつつ更に参加を勧めた結果「あいつが行くなら俺も行こう」とか「あいつには卒業以来会ってないから、会って見度い」などの面々

- 写真説明
- |       |       |
|-------|-------|
| 梅沢 保治 | 服部 兵吾 |
| 川井 外次 | 神部健之助 |
| 秋山 湖雄 | 鎌田 一雄 |
| 田島正太郎 | 渡辺 一雄 |
| 金子 英  | 石川松三郎 |
| 堀川 源作 | 山本 規矩 |
| 土岐 頼章 | 高浜 年尾 |
| 船津 卓二 | 若林 夫人 |
| 清水 良夫 | 大竹 政雄 |
| 日南田美文 | 小河 成美 |
| 喜多村久盛 | 渡部 季男 |
| 竹田 吉郎 | 池田 繁正 |
| 小沼 武文 | 沖田寅之介 |
|       | 立野 正之 |
|       | 石川 繁良 |

も現われて、結局、左記の様に予想以上の顔が揃ったのは会員各位の御協力の賜であつて、この盛会をもたらしたことは誠に同慶に堪えない。

北海道 小河成美、鎌田隆、立野正之、渡辺季男  
 岩手 高橋徳一郎  
 福島 渡辺一雄  
 栃木 梅沢保治、山本規矩  
 東京 秋山湖雄、石川一、石川松三郎、沖田寅之介、加地幸一、金子英、清水良夫、田中繁良、田島正太郎、竹田吉郎、高坂恒一、日南田美文、船津卓二、堀川源作  
 神奈川 小沼武文、神部健之助、土岐頼章  
 新潟 池田繁正  
 富山 小泉清幸  
 岐阜 川井外次  
 愛知 服部兵吾  
 大阪 田中弥三郎  
 兵庫 大竹政雄、大久保鹿式、喜多村久盛、高浜年尾  
 島根 若林周五郎  
 ご婦人 秋山夫人、加地夫人、田中弥夫人、若林夫人、故田中唯重君未亡人重子さん、以上四十名  
 なお大会前々日に突発の十勝沖地震のため出発出来なかった函館野又貞夫ご夫妻、出発後列車や飛行機の運行中止などで止むなく引き返した小樽玉井武君、青森近藤弘平君の四名はいかにも残念との緊急連絡があつた。

積水化学工業(株) チッソ(株) 旭化成工業(株) 特約代理店 プラスチックの総合商社

## 田中弥商事株式会社

取締役社長 田中弥三郎(大12)

(本社) 大阪市東区北浜2丁目74番地 TEL 0655640~9  
 (東京出張所) 東京都千代田区神田淡路町2丁目19番地 TEL 032271・5259  
 (九州出張所) 福岡市奈良屋町2番19号 TEL 093391・6022



野又君経営の函館大学校舎震災に  
対し一同より見舞金を醸出した。  
高浜年尾君より同君直筆の色紙  
を、その他有志より数々の土産品  
が贈呈された。  
(田島記)

大十二年札幌の集い

六月一日夜、ライオンズ全国大会  
出席のため、出札の大久保慶式兄を  
囲み、同期の連中、約十名計り集ま  
り、一夕愉快な時を過しました。  
(夏村三郎記)

異動  
栄転

木下春雄(昭一) 北海道事務所  
(香港・北海道事務所) 東京都千代  
田区丸の内一〇一 国際観光会館内  
石山豊彦(昭一六) 東京海上火災  
保険(株)経理部(神戸支店)  
小林明夫(昭三七) シェル石油(株)  
四国出張所(大阪支店)  
湊富美男(昭八) 昭和石油瓦斯(株)  
常務取締役・昭和石油アスファルト  
(株)取締役(昭和石油取締役)  
亀山英夫(昭一六) 藤田トラベル  
サービス(昭一〇) 兵庫三菱(株)  
早川清(昭一〇) 兵庫三菱(株)  
自動車販売(株) 三菱自動車販売(株)  
神戸市東灘区本山町中野字琴田筋六  
井上克己(昭一一) 住宅金融公庫  
広島支所長(住宅金融公庫本所) 広  
島市上八丁堀六番七六号  
馬場正治(昭一三) 北海道拓殖銀  
行大阪支店長(同行本店総務部長)  
若山永太郎(昭一三) (五六四)  
大府吹田市千里山松が丘二四番十  
三号(表示変更)  
石田平八(昭二) (五六四) 大阪  
府吹田市千里山松が丘一〇番十二号  
渡辺裕彦(昭三八) 旭川市南二条  
二十丁目  
鳥栖六郎(昭二三) 名古屋市中昭和  
区山脇町四二六 村上幸隆方  
亀山英夫(昭一六) 東京都世田谷  
区羽根木二の三九の二  
紀野重仁(昭九) (六三二) 奈良  
市学園大和町三丁目一八番地  
早川清(昭一〇) 神戸市東灘区  
御影町御影字篠ノ坪一三九〇ノ八  
三菱(株)御影支店  
井上克己(昭一一) (七三〇) 広  
島市比治山本町七一八  
五十嵐晃(昭一一) (二六六) 東  
京都杉並区梅里二丁目二八―三(表  
示変更)  
田中修吾(大一一) 東京都世田谷  
区砧町三四七番地三〇  
石山豊彦(昭一六) 東京都文京区  
千石二―一―一五 東京海上上林町  
寮  
小林明夫(昭三七) 高松市楠上町  
一丁目九の六  
河西辰男(昭一四) 大阪府枚方市  
東香里二丁目ノ一(表示変更)  
△氏名下の番号は郵便番号▽

住所変更

昭和十二年卒・東京の集い

昭和43年度関東東京地区、春の同期会を行いました。去る  
5月24日、午後5時半頃、所は有楽座隣りのアングラビヤホ  
ール日比谷ニューアサヒ、前幹事の牧田君が新幹事の小生の  
応援のためすでにテーブルの端について待っていてくれました  
た。「どうか、出席通知のあった19名全員が集ってこればいいがな  
あ」と話しているうち、くびすをついで全員が到着、特に大阪より特  
別参加の森川正明君が岡田春夫君と同道で姿を現し、錦上花を添える結  
果となった。更に須永誠一君が参加、20名となってビールのカップと共に意  
気軒昂歓談に時の移るのを忘れる楽しい夜であった。解散寸前千野秀夫  
君が駆けつけ、更に盛会となった。出席者左記のとおり。  
阿部隆、千野秀夫、福田政治、長谷川順治、広瀬順道、木内喜右衛  
門、川村勉、牧野栄二、松本義雄、宮島巖、牧田恒雄、中沢正五、岡  
田春夫、岡崎弘、大井建一、菅原文夫、須永誠一、高木光孝、竹島  
旬、田中正三、森川正明  
(広瀬記)



横山為祐君

在学中か  
ら茶目っ気  
の多い同君  
であった  
が、昨年の  
三十周年同  
窓会の時は  
開催日の前  
日東京から  
突然電報で  
参加を申込  
んで、幹事  
新海君を驚  
かせるよう  
な離れ業を  
やる。「小  
粒乍らサン  
ショウは辛い」である。  
そのサンショウが、終戦後はシン  
サンのなめたらしい。同君自らにそ  
の足跡を談つてもらおう。  
「卒業後直ちに渡満。満洲軽金属  
(株) (撫順)に入社した。在満時代は  
可成り精力的に働いたつもり。終戦  
のため二十一年十二月帰国す。  
二十一年十二月から二十六年九月  
迄苦心の連続。その間、化学工業統  
制会、土建会社、闇ブローカー、電  
球メーカー、日東証券、政治団体、  
室内装飾会社等々を転々と渡り歩き  
シンサンのなめつくした、二十六年  
寄らば大樹の蔭で、当時景気の良か  
った興国人絹パルプ(株)へ入社した」  
(苦労をした割には暗い影が全然な  
い。但し、頭髮だけは目立つ程薄く

なっている

「現場要員として途中入社したの  
で、大分県の田舎町で十年をすご  
し、若手身をもて余した感あり。現  
在三十六年以降東京本社、大阪支店  
を行った来たりしている。」  
「人は小生をファイターと称す。  
最近変に達感し、素直になりす  
ぎて下り坂に位置す。第三の人生開  
拓の要あり」  
「妻(大阪出身)一女(大学生)  
一男(高校生)あり、東京居住、目  
下サカチョンのあじけなさを味っ  
ている」  
前回会った時はサカチョンの味気  
なさどころか、意気ますます軒昂  
で、解放感に満ち溢れ、独身生活を  
謳歌している印象を受けた。  
「趣味、謡曲、植物、ヘボゴルフ」

豊島保郎君

卒業後直ちに王子製紙(株)へ入社。  
二十一年十一月同社を円満退社の上、  
豊島(株)へ入社。松井保郎君から豊島  
保郎君への改姓の過程については聞  
き洩らしたが、豊島(株)と云えば、大  
阪財界では五綿八社の一に数えられ  
る名門中の名門である。だが、終戦  
はあらゆる価値判断を顛倒させた。  
「のれん」の上にあぐらをかいた  
商売が出来なくなった。名門豊島(株)  
も例外ではなかった。だから、同君  
の、次の役員就任の経歴を見ると、  
どんなに彼が苦労して現在の大阪豊  
島(株)を守り抜いて来たかが判るよう  
な気がする。  
昭三三・八、大阪豊島(株)監査役  
昭三四・一二、同社代表取締役  
昭三七・八、同社代表取締役

任監査役就任

昭四一・八、同社取締役就任現  
在に到る。  
外に、系列会社大栄織物(株)、(株)淀  
の代表取締役を昭和三十六年以來兼  
任。  
恐らく、同君には、大阪の財界を  
背負って立つ光栄の日が来る可能性  
は充分にある。だがそれは、嘗ての  
関西財界の重鎮豊島久七氏の七光に  
よってではなく、同君自身の骨身を  
削る苦労の後に獲得される栄光であ  
ろう。  
好漢、自重の上頑張ることを期待  
する。  
八尾勝郎君  
彼に用事があって電話しても、正  
午頃はまだ熟睡中である。こと程、  
左様に、彼は夜の目も眠らず働いて  
いる。彼もファイターと言いつける一  
人である。  
卒業後、十二銀行(現北陸銀行)  
へ入行した。入行一年で、上役と喧  
嘩してやめた。ケチ臭い銀行員なん  
てのは柄に合わないとしみじみ考え  
たそうである。私も同感。彼は四角  
四面なバンカーを当てはめて考える  
程至難なことではない。  
戦時中、栃木汽船(株)という船会社  
で、戦時輸送に協力して、一人五役  
位の活躍をしたが、終戦でがっくり  
と来た。  
昭和二十六年、大阪梅田新道とい  
う一等場所を薬局を開業、同三十一  
年株式会社を改組して、代表取締役  
に就任。爾来、川西市、伊丹市と大  
阪の周辺都市に支店を開設して、業  
績は向上の一途を辿っている。

昭12卒 関西銘々伝(二)

関西銘々伝は次号へも続けますがその次は  
関東にバトンを渡しますのでご準備願いま  
す。(森川正明)

横山為祐君  
在学中か  
ら茶目っ気  
の多い同君  
であった  
が、昨年の  
三十周年同  
窓会の時は  
開催日の前  
日東京から  
突然電報で  
参加を申込  
んで、幹事  
新海君を驚  
かせるよう  
な離れ業を  
やる。「小  
粒乍らサン

楽しいくらしのショッピング  
東急百貨店  
電話本店・東横店(463)0111日本橋店(211)0511本町店  
贈りものに東急百貨店の商品券を  
新宿小田急 函館棹二森屋 札幌五番館でも  
お使いいただけます



この繁栄の原因は何か。冒頭述べたように夜も眠らない程の働きに起因するが、一つは彼の経営する店舗の一隅にある「趣味のコーナー」と称する娯楽専門コーナーの存在にあるのではないかと思われる。ここにはもろもろのおたのしみの薬、器具が用意されており、店主たる彼自身その方面の造詣も頗る深い。更年障害におなやみの同窓各位は是非共一度は立ち寄って見られる価値はある。新橋薬品街へ行けば、青春は再び我々のものになる……。(P・R料は貰っておりません。為念)

林 武君

実に誠実な人である。この稿のため略歴をお願いしたら、次の通り詳細な足跡と現状を書き送っていただいたので、そのまま掲載させていただきます。

×

昨年八月母校で卒業参拾周年記念大会を開いたのだから、年月の流れは夢の様に過ぎていくものをつくづく思います。今茲に自分の歩んで来た途を振り返って見よう。

在学中、大谷、木曾先生のコレポンのゼミナルをとっておりまして、卒業と共に東京丸の内にある東亜企業に貿易マンの第一歩を踏み出しました。その年にシャトル支店へ派遣される予定の処、徴兵検査に見事甲種合格となり、十二月には小生の入営と、小生の代りにシャトルへ派遣される人の合同送別会が催され、その時の気持は全く複雑なもので、今でもハッキリ覚えてる。翌年か翌々年に、現在天草にいる河

内典次君(旧姓小谷)がこの会社に移って来た。

小生は教習歩兵第十九連隊に現役兵として入隊したが、同期の高木君もいたように記憶している。豊橋の陸軍教導学校では、牧田恒雄、金子東両君が同じ機関銃隊であった。野戦は北支に派遣されたが後に、石門特務機関に移り更に那那特務機関に移り機関長補佐官として占領地域の行政指導という事で、専ら後方勤務をしていた。

昭和十七年に召集解除となり翌年結婚した。家内は偶然にも、小樽の緑町に住んでいた事があり、家内の親爺は高商の弓道部の連中を教えたことがあるとのことで、学校の先生方の消息をかなり知っておりまして近かったようです。家内も小樽の緑町に住んでいたという事が、我々夫婦の共通の話題にもなり、何時までも昔を懐かしませてくれます。

さて、新婚生活は一年にして再び召集されて中支に向いました。今度は野戦の第一線中隊長という責任を負わされましたが、何しろ前の時は後方勤務で実戦の経験が少いたため、随分苦労しましたが、敗戦で無事帰国することが出来ました。今度、緑丘に戦友学生の記念碑を建てるとの計画ですが、色々の意味から双手を挙げて賛成です。

敗戦後は暫らく貿易も出来ませんでした。二十五年に大阪に来てから、ささやかな雑貨貿易を始めました。我々の時代は卒業後のプランクが大きいので折角学校で習ったコレポンもすっかり返上して、再び初歩

から出直した形になりました。しかし、終戦後の貿易は現在の様な競争も激しくなく比較的容易でした。大きな希望もなく、ただどうにか喰べているといった程度で現在まで、ずっと雑貨輸出を主体として生きのびて来ました。しかし、近年後進諸国に於ける雑貨輸出の追上げが著しい上に、昨年のポンド切下げ、ドル防衛最近ではアメリカの輸入課徴金問題更には特惠問題と、どれをとっても悪材料ばかりです。それに通産省あたりが雑貨屋の転廃業をすすめるといった対策も考えている有様です。全く、雑貨貿易の今後の見通しは暗い材料でおおわれています。この途から喰べる事を知らぬ小生にはこれからの如何にしてやって行くか頭の痛い問題です。誰か良い知恵を貸して呉れる人はいないだろうか。

三、四年前までは現在名古屋に居る矢部君が貿易をやっていたので、彼と色々話し合いも出来たので、助かったのですが、彼は今スパーマーケットにいて果してどんな考えを持っているのか一度会って尋ねてみたい。

つい仕事の暗い話になりましたが家庭には二人の娘がいて、上は現在帝塚山大学三年生、下は帝塚山高等部一年生です。上はそろそろ適齢期に入りますので、相手を探さなければなりません。良い候補者を一度御紹介下さい。

現在は奈良市の西郊新興住宅地の登美ヶ丘五丁目に住んでおります。東に三笠山、若草山、西に生駒連峰を望み近くには唐招提寺、薬師寺、法華寺、秋篠寺或いは平城宮跡等々

田中 彰君

頭は美しい白髪となり、温厚な紳士である。

同君は小樽卒業後、神戸商業大学入学、昭和十六年三月同校卒業と同時に満洲電線(奉天)へ入社し、大陸で華々しい活躍を期待されたが、昭和十九年三月戦局の進展で現地召集され、東滿、北支に駐屯された。昭和二十年四月見習士官として札幌師団へ転属。やがて終戦に遭い同年十一月に除隊された。昭和二十一年六月倉敷紡績に入社。本社岡山工場に勤務され、昭和四十一年九月同社を円満退社した後、現在の協栄株式会社に入社、同社の大阪出張所長として、時節柄むずかしい繊維業界で活躍されている。(次頁へ)

(森川記)

# 昭二会 全国大会

日時 六月十五日  
場所 熱海・玉乃井本館



右より (前列) 茂垣 新井 黒羽 山本 坂井 従二 長野 陸田 (中列) 加藤 高木 西村 桑島 大田 近藤 岩岡 (後列) 中沢 渡辺 早川 広瀬 佐藤 小杉 貫中

四十周年前年祭から初めた全国大会を、今年又熱海の玉乃井本館で開いた。降りみふらずの天候の裡を会場へ集まる。会の前それぞれに割り当てられた室で浴衣に着かえてから室を訪問し合って久瀨を紋し、健康を祝し合う。

会場広間に集まる。今年の初顔として広瀬久一君が函館から、山本安次郎君が津から馳せ参じ、北は札幌の佐藤一郎君から西は神戸の近藤巳芳君まで総員二十三名となった。坂井幹事の状況報告によると、出状者九十五人、返事なかった人も若干あって気がかりである。昨年の会以来の物語者は中野新八郎君と報告されてアツと嘆声も聞れる。昨年心筋梗塞で静養した小貫君がもうすっかり健康をとり戻して昔ながらの元気な顔をみせる。実方学長はこの会の直前に東京、大阪、京都、神戸等の支部長総会をすませて帰学され、来年度予算の編成等要務山積との事で欠席されたが、大阪組の黒羽君から「学長は大学をよくするには教官の充実が最も大切である」としているが、幸い文部省の幹部が学長の後輩であったり、同氏の著書で勉強した人がいたり、交渉がしやすく、外遊教授の数も他学より多い。対外的な仕事は一切断って内部の仕事に専心している。非常な信念を以って活動している、大層元気で張りきっていられた」との報告があつて一同を喜ばせる。

目下、履歴に関する原稿を依頼中なので、その人だけの三十年の歴史を期待しているのだが、今迄の人々の足跡でも、あの過ぎ去った戦争がどのように我々の人生を大きく揺り動かしたか、大きく方向転換を強いられたか……を考えると、我々無名な人々の人生も、やはり大きな歴史との交流の上に、流され、開花していることが感ぜられ、感慨無量である。(森川記)

テニス試合に、スウェーデン、英国、ベルギー、フランス、スイス等十数ヶ国を巡歴するのだといとも若い所を披露する。

会は例の如く名人従二君の舞踊を皮切りに、かくし芸が次々と出された。その間にもあのグリーン校舎、クロウバの校庭、ポプラの新芽等思出の数々に話はつきず、最後に「夕焼けるわし緑が丘よ」の合唱は一同を完全に四十年前の学生に立ちかえらせた。

朝の食事では明年の大会を大阪で開くことを満場一致決定、お互いに健康第一で皆揃うとの合言葉を交して別れた。(渡辺記)

出席者

- (北海道) 佐藤一郎、広瀬久一
- (東北) 岩岡秀三、大沼金治
- (関西) 黒羽秀夫、山本安次郎、近藤巳芳、渡辺祥吉
- (関東) 加藤正善、早川和男、従二建二、桑島喜助、西村保、長野真士、中沢勝平、杉中弘吾、高木政治、小貫武、陸田清、右田熊市、茂垣英夫、新井正一、坂井直人



# 板倉誠君を悼む

吉岡義一 (大九)

## 弔辞

諺に「至誠天に通ず」と謂いますが、われわれの同窓、故板倉誠君は至誠を以て人を動かす、その一生を貫いた御仁であると申せましよう。君は大正六年、小樽高等商業学校に入學され、第二寄宿正気寮にて寮友と三年を過しました。当時すでに一家の見識をもち、時世を遠観する風格を備えておりました。その思想は常に正道を踏んで「千万人と雖も我行かん」の気概の持主でありました。

卒業後ただちに日魯漁業に入り、函館にて縦横に活躍され、その手腕を認められました。君は情誼に厚く、すこぶる創意に富み、且つ実行力の伴った御仁でありました。その一例は、母校小樽同窓のために、戦後の混沌とした頃から、卒業生の融和団結の必要を觀取して、ほとんど力を以て緑丘十日会を發企し、会員の勧誘から毎月の会の運営まで熱心に手塩にかけて、永年に及びついに十日会今日の隆盛をみるに至りました。これ正に板倉君の功績と云つても過言でないと思ひます。

とりわけ君は同窓各年度の人々のことをよく念頭に置き、骨身を惜しまず人の世話をされたことは同窓の一人として感銘措く能わぬものがあります。君は常に春風駘蕩の気宇を以て人に接し、他人の長所をあげて短所を云わず、「人の美を濟す」ことを自らの樂しきとした君子人でありました。

偶々近年君は病をえて、幾度か死生の間に立ちながら、よく危機を脱したのは君の精神力の然らしむる所でありました。然し爾來、活動思うにまかせず、さぞ脾肉を嘆じておられた事とお察し致しておりますが、にわかに君が訃報に接して痛恨に堪えません。

いま眼前に君が洪笑する遺影を拜して感無量であります。ねがわくは君が御靈よ、安らかに天に在さんことを、謹んで同窓を代表して弔辞といたします。

昭和四十三年五月三十一日

旧小樽高等商業・大正九年卒業生

「緑九会」代表 吉岡義一

# 富樫長吉氏

(緑丘会札幌支部長 大四)

七月八日午後十一時三十八分、札幌医大付属病院で病氣療養中、急性肺炎を併発して死去、七十五歳。山形県出身。

告別式は十一日午前十時新善光寺で

## 逝いて一年

### 坂東虎市氏を憶う

緑丘会の名物男、東京十日会のはぐだん男、坂東虎市氏(大正十年)が歿して一年になる。函館商業から緑丘へ、無試験入學の秀才、柔道部、陸上競技部、緑丘会計人の先驅者のひとり、講道館柔道の達人、そして、歌集「小萩集」。「坂東武者行脚」の著者。そして銀座の主。晩年は宿病のため、いささか精彩を失ったが、終戦直後から朝鮮事変のころまでは、不動産業をも営んで、その勢あたるべからざるものがあつた。

よく同窓の世話をしたから、その事務所は、しばらくは、緑丘人の溜り場でもあつた。東京十日会の最初からの熱心な参加者であつたが、ひところ、この会が、やや固定化の傾向を示したころ、創立からの肝入り、板倉誠氏と、その打開策について大いに意見をたたかかわして、かたわら

行なわれた。喪主は妻、夕子さん。旧札幌一中、小樽高商卒業後、海産商「カネ長富樫商店」の二代目を継ぎ、昭和二十四年から二十七年まで札幌商工会議所、道商連会頭、道銀初代会長はじめ北海道放送取締役、札幌卸商連盟会長、富樫ビル社長など歴任、本道経界では「トガ長」と親しまれ、活躍、四十年札幌市産業経済功労者として表彰されている。

の者をほらはらさせたものである。いまはもう、天界で、ご兩人、やあやあ、とやっていたよう。伴先生を大いに尊敬し、先生も故人の素朴、率直を愛して、その歌集に序文をよせ、また往復の書翰數十通ある筈。昭和四十二年八月十五日歿、翌十六日葬儀、七七忌の日、遺骨を東京郊外小平霊園の墓にはおむる。法名、賢光院誠徹武居士。遺族の住所は東京都品川区大井出石町五〇一五。以下は、葬儀の際のべられた級友の弔辞である。(緑丘編集部)

坂東虎市君

いまは昔、おたがいが、まだ、十八、九才から、二十二、三才、青春の盛りの時に、北海の地小樽の学び舎で、起居を共にし、友の憂いに我れはなき、吾が喜びに友は舞いおどつた、あの友情をまもつて、全国に散在する六十有余名の級友のうちから、卒業四十五年を期して、集つた二十幾人が、都京の北、比叡山延暦寺に、亡き恩師諸先生、級友の靈を恭しく祀り、その夜、酒を汲んで敬びをともにし、願わくば五年の後、交わりを結んで半世紀のたのしみをもう一度と、約束しあつたのは

なく、不義なく、不正なき世界、君の心をいたましめ、君の魂をいらだたせることのない浄土の世界、どうか安らかに、安らかに、すこしてくられたまえ。

かくいうほくも、いや、お許しをえるなら、ここに列席のご一同も、やがては、やがては、またおめにかかる、その時の、もう別れることない再会のよろこびを思つて、今の、しばしの別れを、耐え忍ぼう。しかし、せつかな君のこと、どうかゆつくり待つてくれたまえ。「天の夕顔」からつきたふくべは、ひょうたんから、君の好きな天の美祿でも汲んで、得意の矢立の筆で、天と地とをつなぐ歌、みそひと文字をつくりながら、ゆつくり待つてくれたまえ。われわれは、ご遺族とともに、なお君の残した道を歩いて、いろいろの経験をおつみ重ねて、君への土産にしよう。その時は、月世界への旅行の話や、ゴビの沙漠が緑の野になつた話や、そして食べものが、銀座の事務所の帰り路に、一酌するときの肴、君の好んだそら豆や、とろろの芋が、合成されて、口にはいる話や、たくさんの土産話をもっていこう。「おれの帳簿にはなかつた記録だ」などのおたまわらずに、豊かな詩の心をもつて、二十一世紀の生活を、想像してくれたまえ。

さらば、坂東虎市君、しばらくさようなら、さようなら。クラスの友一同に代つての、お別れのことば、失礼をゆるしてききたまえ。

昭和四十二年八月十六日

緑丘十会一同に代り 大谷敏治

# 板倉誠君を悼む

吉岡義一 (大九)

## 弔辞

諺に「至誠天に通ず」と謂いますが、われわれの同窓、故板倉誠君は至誠を以て人を動かす、その一生を貫いた御仁であると申せましよう。君は大正六年、小樽高等商業学校に入學され、第二寄宿正気寮にて寮友と三年を過しました。当時すでに一家の見識をもち、時世を遠観する風格を備えておりました。その思想は常に正道を踏んで「千万人と雖も我行かん」の気概の持主でありました。

卒業後ただちに日魯漁業に入り、函館にて縦横に活躍され、その手腕を認められました。君は情誼に厚く、すこぶる創意に富み、且つ実行力の伴った御仁でありました。その一例は、母校小樽同窓のために、戦後の混沌とした頃から、卒業生の融和団結の必要を觀取して、ほとんど力を以て緑丘十日会を發企し、会員の勧誘から毎月の会の運営まで熱心に手塩にかけて、永年に及びついに十日会今日の隆盛をみるに至りました。これ正に板倉君の功績と云つても過言でないと思ひます。

とりわけ君は同窓各年度の人々のことをよく念頭に置き、骨身を惜しまず人の世話をされたことは同窓の一人として感銘措く能わぬものがあります。君は常に春風駘蕩の気宇を以て人に接し、他人の長所をあげて短所を云わず、「人の美を濟す」ことを自らの樂しきとした君子人でありました。

偶々近年君は病をえて、幾度か死生の間に立ちながら、よく危機を脱したのは君の精神力の然らしむる所でありました。然し爾來、活動思うにまかせず、さぞ脾肉を嘆じておられた事とお察し致しておりますが、にわかに君が訃報に接して痛恨に堪えません。

いま眼前に君が洪笑する遺影を拜して感無量であります。ねがわくは君が御靈よ、安らかに天に在さんことを、謹んで同窓を代表して弔辞といたします。

昭和四十三年五月三十一日

旧小樽高等商業・大正九年卒業生

「緑九会」代表 吉岡義一

独立、自尊の生活を築いて、爾來約四十年、文字どおり斯界の開拓者であり、銀座の主であつた。多くの会社、事業体の求めに応じて、智慧をさすけたのみならず、その事務所はまた、この道に志す後進の人びとがしばらく足をとどめ、業を見習う道場でもあつた。坂東会計事務所にわらじを脱いで、業を習い、やがて独立した会計人の、いかに多いことか。

君の事務所はまた、多くの友人、後輩の、足溜り場でもあつた。われら同級生のために、つねにおのれを空しくして、筆をとり、連絡の中心となつたことは、いうまでもない。卒業二十年の集りをなし、芝三緑山増上寺に先師亡友を祀り、箱根環翠楼に一游した時、その前夜に、君が、白きなめらかな陶器、一斗がめから、酒をくみかけたその手つきをわたしは忘れることができない。

事務所終え、興いたれば、水道橋のほとり、講道館に通つて、柔道にいそしんだ君が、後輩の養成に、いかに力をつくしたことか。はるばる小樽の地から、荒くれた若者、緑丘の後輩数名を、東京によび、君の住居を開放して、宿とし、毎日、講道館で稽古を共にする——利得を考へては、とつていなし能わぬことであつた。

計理税務処理の業界で、君がどう受けいれられたかは、知らない。しかし、坂東先生の、正直、率直、そして事務処理の迅速なるを愛し、これを尊敬した依頼人の、数少なくないことを知るなら、この道の先達としての君のいさおしを、思わせ

て十分である。

た。天真らんまんの君は、子供を愛した。子供も、君によくついた。朝な朝なの鹿島神社詣で、その庭を自ら掃き浄める朝の行事、仁王さまのような掌を打つそのかしわ手の音は時に邪心あるおとなと、おどろかしなければ、子供はかえつてよろこんだ。毎月十三日、友のひとりとの出会ひをも、もうひとつの楽しみとしながら、早朝の浅草観音詣で、その誑と、おわつて一座の朝餉は、君の心をつねに、ほとけの道につないでいたにちがいない。盤若湯をあ

れほど好みながら、また、小奴の名に象徴する女人を、あれほど愛しながら、けつして溺れず、誤ることなく、六十有幾年、天下の大道を、まっしぐらに歩んで、堂々と歩んで、いまや天上極楽の人となつた。

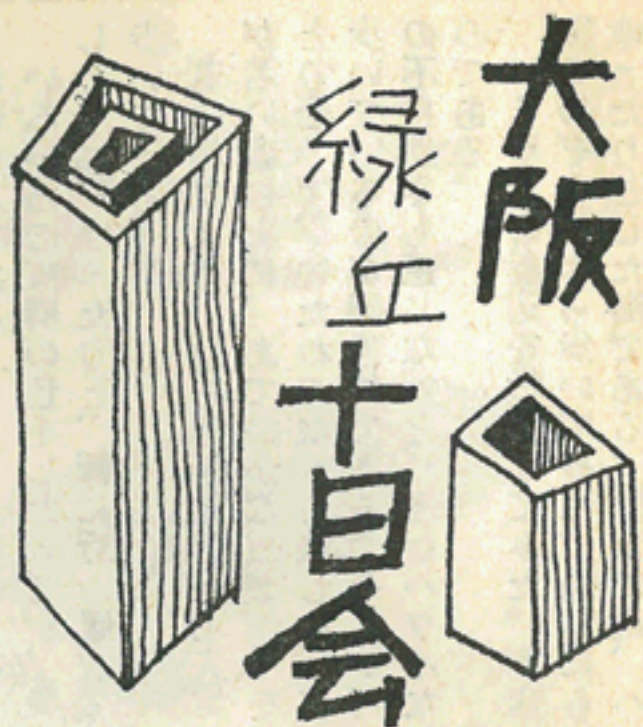
なにかことあるときに、さつそくに矢立をとりだし、ほそい筆を、太い指にはさんで、さらさらと書き流すその姿を、もうこの世でみることにできないのは、ほんとうに悲しいが、君よ、あとには、一流の商社に国際的な仕事に、精だす息子さん、勇君、そのご家族がおられる。しっかりしたお嬢さん方も、それぞれその生活を守つて、立派にやつておられる。そして、天界には、亡き夫人、文字夫人がおられる。君の敬愛した三船十段もおられる。利根柳太郎を愛した伴房次郎先生も、君に柔道を教えた苦米地英俊先生も、おられる。そして莫逆の友、級友、吉野谷久一兄も、その事業のことを、君があれほど心配した西村久蔵兄も、君よ、やすらかに眠つてくれ、今度は、苦しめなく、痛みなく、病い



# 「緑丘」43年度申込者氏名 (四)

(八月二〇日現在)

- (あ) 相田正、阿部和之、安藤正己、青木慎吾、荒木英二、阿部卓治、秋元金四郎、秋山朔雄、赤谷良士
- (い) 井上巖、稻村良之助、諫早甲一、今井彦弥、石原和昌、石山豊成、井下四郎、猪股昌介、石本芝郎、井上克己、石井忠雄
- (う) 梅原卓、上田藤一郎、内山三郎、宇佐美猪一郎
- (え) 榎本喜久次
- (お) 大久保勇、岡田栄吉、小田島一雄、小沼武文、大塚守之、大泉宗次、大井康雄、小川元護、沖田寅之介、大沼誠治、岡部良造、岡田正雄、大沼恵五、仰木巖、尾倉剛、小川伊三郎、小野小二郎、小宅元義、老月雅彦、大島晃
- (か) 加藤英夫、桂山雅行、勝股一哉、蝦名哲昭、加藤羽衣松、川岸巳代治、梶川亨司、川村勉、鎌田政隆、金岡達郎、樫村久好、鹿又羊五、鹿島懐策、貫洞慎一郎
- (き) 木嶋正、菊地敏夫、北村幸、木幡清甫、木村徹郎、北岡逸吉
- (こ) 北村正一、木谷忠夫、木村新司、栗本周也、黒羽秀夫、栗原軍司、栗原勇次郎、久米忠彦、工藤恭治、久保田敏三
- (け) 劔物資郎
- (こ) 小山猛、小林明夫、小柴謙吉、小柳信輝、小峰親武、小長谷勝巳、小林重雄、夙敏雄、小池輝男、近藤勇
- (さ) 坂口栄之助、酒井康正、斎藤雄治、桜庭玄一郎、佐々木八郎、坂井昇三、佐々木繁雄、佐々木茂、坂本芳弘
- (し) 芝梅太郎、真藤松吉、塩谷精一郎、信野慎一、城川健一、篠崎万次郎、新谷健夫、新崎鈞、下村昌雄、白土栄一
- (す) 住吉隆、寿原九郎、杉原真、須永誠一、角响
- (そ) 莊子直
- (た) 田中康夫、田中修吾、高橋正彦、武岡達良、田辺靖雄、高橋亘、滝静夫、竹内晃、田島正太郎、高桑一之、高田裕己、玉井正、高野憲一郎、田崎勝次郎、高橋一男、竹内勇吉、田森誠一郎、高田辰雄、高木久新、竹内富蔵、竹中正親、高橋喜久雄
- (つ) 都築実、土屋龍郎、月館健治
- (て) 寺田良和
- (と) 梅健、豊島保郎
- (な) 夏村三郎、中野孝太郎、中井正一、中野醇子、中木常豊、中野喜一郎、中田昭生
- (に) 西田豊彦、丹羽正男
- (の) 信田英吉、野又貞夫、野口正二郎
- (は) 林源太郎、橋田和道、長谷川順治、浜中学、羽島忠二、林宏哉、林武、林与四郎、狭田喜義、畑中二郎、早川卓良
- (ひ) 東島常夫、広瀬順造、平木勇三、樋口健三、平間義
- (ふ) 藤野孝吉、藤本雅寿、福田次助、藤本孝吉、藤田享也、深田省三、深見吾六
- (ほ) 堀池善弥、堀川源作、北条恒一
- (ま) 松尾俊彦、松川一馬、松本信男、丸山恵三、間室守親
- (み) 右田熊市、湊誠、三谷晃一、宮脇保雄、水越金二、宮崎省三、三上四郎
- (む) 村田錦一、村形庸雄
- (も) 望月鷹雄、森尾正七
- (や) 山本俊雄、山中茂、山口公平、山本美智雄、山崎靖也、矢島実、山田孝三、山内雅一、八木俊昭、山名寿、山内孝、矢野正康、矢野健太郎、山口一
- (り) 陸田清
- (よ) 吉田平太郎、吉田忠、横川義雄、吉岡義二
- (わ) 若山永太郎、渡辺秀作



スピーカー 若山永太郎 (昭一三)

石田支部長より若山氏が一月余りアメリカへ行つて勉強されて来たその精華を発表していただきますと挨拶。次いで墓目支部長から母校通信を報告した。

八月一日小樽商大ヨット部が大津市琵琶湖に於て全日本選手権大会に七年振りで参加するとの学校から連絡があり(ヨット部々長石河英夫)奉賀帳が到着、この件は幹事長一任という事となる。

若山永太郎氏のアメリカ印象談  
同氏は三十五日間に十五企業体を訪問、その行程を地図でたどる。  
北部を主体に廻つたので北海道の六月を思わせる気候であり、風土もまた百花繚乱の頃であった。『アメリカ』という一語でよく海外旅行した人は何か変つた事をいうが、人種も多く国土の広い国だけに、一言でアメリカ式とかアメリカナイズされているとかの表現は一寸無理があるように思われる。といひ。



ボストンから四〇軒離れたケープコッド湾近くのプリマス (Plymouth) (聖教徒メイフラワー上陸港) を訪問した折り、そのレストランで一アメリカ人の誕生日に出会い、ハッピー・バースデー・トゥウをアメリカ人たちが共に祝福した話や、その時のアメリカ老人たちのダンスの模様を手振りよく真似て、アメリカ国民性をルールと自由という表現で語つた。アメリカ人種問題についても話題の黒人達の生活振りを現実に見た感想とアフリカから輸入した黒人奴隷に対する労働者として利用価値ある人種保存のための優性繁殖(彼は種馬という)につくしたアメリカ人が、今や一〇〇年そこそこにしてその繁殖力に押し返され、て人種問題で悩みつけ、土地建物の価値も黒人の入居によって下落さえ見られるという珍らしい話もあつた。

た。最後に今回の旅行目的であつたセールス・マネージメントにも触れ、各会社毎に特徴のある経営方法を採用している二、三の例を挙げてアメリカ印象談を終つた。尚、六月二十四日ニューヨーク支部の歓迎会を受けた事も報告する。

今度アメリカに来て、日本料理なるものを味わつて見た。  
先づサンフランシスコでは「松野」という食堂風の店。シカゴでは「紀代」と「中野」。ワシントンでは「東京スキヤキ」という名の店。  
さてどの店の料理も無理に日本の味を出そうとしていた。矢張りアメリカにある日本料理である。店のメニューも日本の歌謡曲のレコードをかけ、提灯をつ

## アメリカの日本料理

若山

永太郎 (昭一三) 「パドワイザー」 「シユリツチ」  
など。アメリカの日本料理店で飲む日本のキリンビールやアサヒビールなどはあまり美味いとはいわれない様である。

やはり「現地では現地のものが一番美味しいのである。それは気候と風土と人体のコンディションとの関係であらう。」  
(アメリカ・チャンパースブルグ・ジョンソンホテルにて)

## 大阪十日会九月例会

アメリカ旅行から帰つた若山氏とソ聯、西独を廻つて帰つた北条氏(昭一五)との対談を行う予定。京阪

神支部緑丘会員の多数参加を乞ふ。九月九日までに出席希望者は大阪支部緑丘会幹事長まで申込みのこと。電話(〇九四一局〇二七二) (丸嘉機械社内)

出席者  
渡辺祥吉、石田平八(昭二) 樋山三郎(昭三) 北村匡弘(昭一〇) 墓目英三(昭一一) 若山永太郎(昭一三) 亀山英夫(昭一六) 岡部良造(昭三三) 角响(昭三四)

技術革新時代を生きる

# ナイス低温溶接棒

製造元 **ナイス低温溶接棒株式会社**  
 協和商事株式会社  
 取締役社長 四谷宗義 (大11)

本社/尾崎市北大物町1番地 電話(481)822143  
 富山出張所/電話(31)1425 東京支店/電話(52)871170 九州支店/電話(76)688547  
 名古屋出張所/電話(91)2063 仙台出張所/電話(22)9549 小倉出張所/電話(56)5648  
 高松出張所/電話(31)4747 静岡出張所/電話(85)2675 広島出張所/電話(21)1078  
 姫路出張所/電話(22)7331 新潟出張所/電話(66)2295 水戸出張所/電話(24)4611 長崎営業所/電話(44)6345



# 某月某日

若山 永太郎 (昭一三)

(丸嘉機械脚専務)



五月三十一日

あでやかなキレイな賑々しい色彩の街であった。その色は原色に近い。きつい派手な色である。

しかし、終戦後の日本の基地の「原色」の街の色彩感覚とは全く違う。花のキレイな、緑したたる景色である。花も色鮮やかに、樹木のびのびと大きく育っている。

太陽は明るく照り輝いている。しかしそれほどマブシさを感じない。すきとおった明るさである。

いろいろの皮膚の色をした人達が、楽しそうに、ゆったりと、裸に近い服装で歩いている。

若い男女より、むしろ年とった老夫婦が若い者以上に、あでやかな服装で手を取り合って、いたわりながら楽しそうに歩いているのが印象的である。それが何の不自然さも感じないところがハワイなのである。

ワイキキの浜辺を散策してみた。商店街をのぞきながら歩いてみた。いかにもゆったりとした街である。休養の島、ハ

ワイ……。予め考えていたハワイと、現実に見たハワイとは随分違っていた。それにしてもきびしいベトナム戦争を遂行している一面、かかる休養の場所がある。アメリカとはどんな国であろうか。

六月八日  
そろそろビールの本場、ミルウォーキーに到着。当地産ビール、ルンシュリッチを頂戴している。仲々うまい。ニューミューン

六月二十六日  
去る六月十八日夕方、ニューヨークに入り。アメリカ北部地区十数ヶ所飛び廻りましたがニューヨークでは、更に三社ほど訪問し、セールスマネジメントのデイスカスをして二十四日のミーティングをもってチームとの行動を終了しました。

六月二十四日夜、緑丘会ニューヨーク支部で、私のためにわざわざ歓迎会を開催してくれました。栗野さん(昭一三)が支部長、堀口さん(昭四)が元老格、安宅産業の田中康雄君(昭一三)が副支部長、三井造船の中村君(昭二九)が岩井産業の草島君(昭二四)が東海銀行の毛利君(昭三〇)が石田大阪支部長、女婿も出席、全部で十数名。大変なごやかに楽しい会合でした。

翌日の夜、第一銀行ニューヨーク支店長交替のパーティーが再び日本倶楽部で開催され、私も招待に出席しました。この栗野さんも同席、パーティー終って夜のニューヨークを案内して下さいました

が、栗野さん(昭一〇)も同じ東北、而も山形県出身、東北弁を使い、極めて積極的にニューヨーク財界で活躍されているように見受けられました。これから七月二日までニューヨーク滞在予定です。

## 編集後記

☆八月初旬、母校を訪問しました。その目的は大西猪之介教授特集号の資料集めと新設図書館や目下建築中の工事の進捗状況そして屋外グラウンドの造成工事などを見ることでした。この状況については次号に発表したいと存じます。

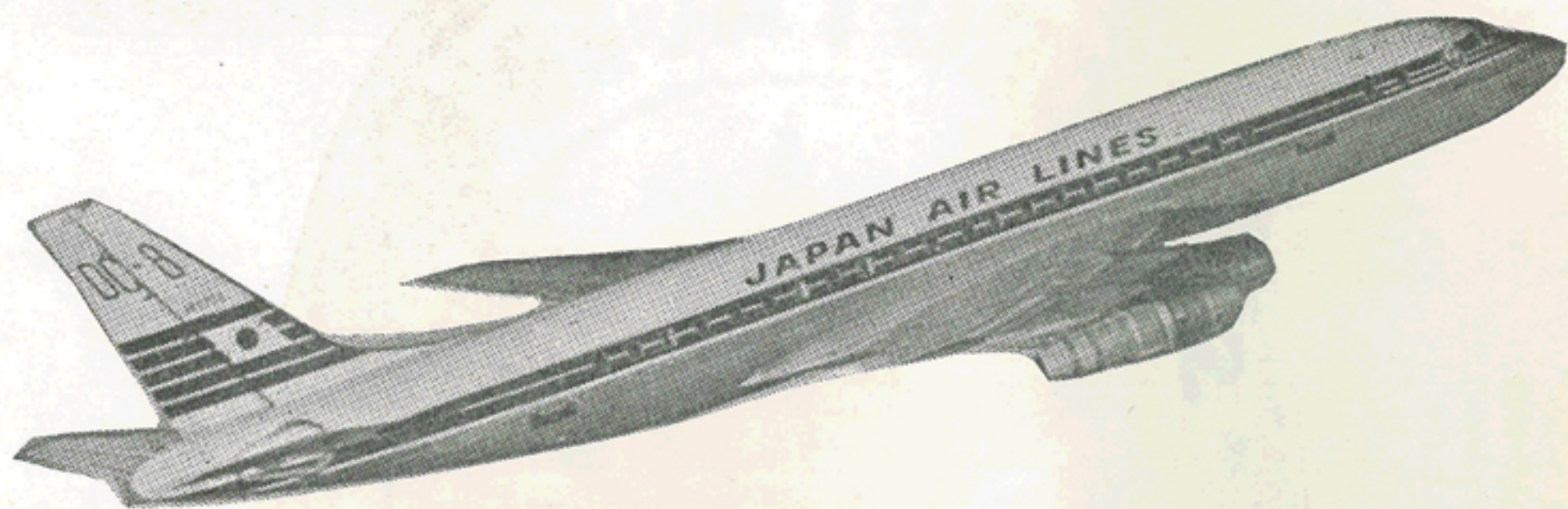
いくら北海道といっても、日中はやはりガラガラと太陽が照りつけ、日陰は別としてやはり猛暑を感じました。学校内は静かですが、毎日実方学長は登校、緑丘会中島事務局長もまた地獄坂を登って動いておられました。

新設の図書館からは小樽の港が一望され、暑中休暇もなく、図書館員は全員勤務、そして学生もあちこちの机に向って静かに勉強しています。昔の図書館と違い個人個人が一つの机をもって読書が出来る落付いた雰囲気は誠に羨ましく感じて帰って来ました。

☆緑丘発行の遅れの取り返しは次号でと何時も思いますが新原稿が入って来ますのでホットニュースと思いつつ頁を増やします。サービス精神過剰か、以後少し加減しましょう。

☆この緑丘の発展のため沢山の方々から激励をいただき有難うございます。昭和八年卒業藤周寿氏から金一封いただきましたので、ニューヨーク緑丘会支部へ毎号一〇部寄贈することにいたしました。

# 世界のどこへでも お好きなときに!



ジャルパック新コース発表 (下記の数字は出発本数です)

コース名	期間	総経費(円)	12月発	1月発	2月発
台湾・沖縄	6日	東京 133,000	2	1	0
		大阪 125,700	2	1	0
香港・マカオ・台北	7日	東京 179,000	9	3	4
		大阪 179,000	9	2	4
アンコールワットと東南アジア	12日	東京 268,000	1	1	2
		大阪 268,000	1	0	1
ハワイ	7日	東京 293,000	8	3	3
香港 エコノミー	4日	東京 129,000	0	2	2
		大阪 129,000	0	2	2
ハワイ エコノミー	7日	東京 211,000	1	1	2

そのほかジャルパックは、アメリカコース、ヨーロッパコース、世界一周コースなどいろいろございます

太平洋観光は大阪営業所を新設致しましたので国内旅行、海外旅行、何んでもご相談下さい

IATA (国際航空運送協会) 公認代理店

世界中の航空会社の代理店です。日航、全日空、国内航空はもちろんです

JATA (国際旅行者協会) 会員

ASTA (米国旅行者協会) 会員

PATA (太平洋観光協会) 会員

UFTAA (国際旅行者連盟)

# 太平洋観光株式会社

本社 / 東京都千代田区丸の内2の18 岸本ビル TEL(281) 9864~5

銀座営業所 / 東京都中央区銀座5丁目2番地 TEL(573) 5416 代

札幌営業所 / 札幌市北2条西3丁目(越山ビル) TEL(24) 7913

大阪営業所 / 大阪市東区北久宝寺町2-13(マエダビル) TEL(271) 6481~2



## 東栄段ボール株式会社

本社・工場 埼玉県越谷市大里688番地

電話越谷(0489) 62代表2111番

東京工場 埼玉県草加市弁天町482番地

電話草加(0489) 2-3320・3330番